資料35－4

令和6年度ヒアリング全体概要及び
ヒアリング項目案（共通・定量評価）

目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

ヒアリングの全体概要

１．ヒアリング日程案

第36回部会　11月19日（火）

ソフトバンク	10時00分～11時10分	説明25分、質疑45分
Wireless City Plannning	11時10分～12時00分	説明20分、質疑30分

第37回部会　11月22日（金）

楽天モバイル	15時00分～15時50分	説明20分、質疑30分
NTTドコモ	15時50分～17時00分	説明25分、質疑45分

第38回部会　11月29日（金）

KDDI/沖縄セルラー電話	10時00分～11時10分	説明25分、質疑45分
UQコミュニケーションズ	11時10分～12時00分	説明20分、質疑30分

２．各社ごとのヒアリング項目数案

	NTTドコモ	KDDI/沖セル	ソフトバンク	楽天モバイル	UQ	WCP
共通	5	5	5	5	3	3
定量評価 （移行計画含む）	11	10	12	3	1	3
定性評価	10	10	10	10	10	10
合計	**26**	**25**	**27**	**18**	**14**	**16**

（令和６年度の主なポイント）

①Ｄ評価に該当
②通信量が前年度実績値未満
③３Ｇ移行

令和６年度の主なポイント①・Ｄ評価に該当

- 認定の有効期間満了後の実績評価の「総合的な評価」が**D評価に該当**する項目が**２項目**確認された。

No	事業者	周波数帯	通信規格	評価項目	対象区域	実績/進捗	ヒアリング事項（概要）	参照ｽﾗｲﾄﾞ
定量D11	NTTドコモ	28GHz帯	5G	基地局数	北海道・九州	実績	北海道・九州の基地局数が開設計画値未満（実績評価：D評価に該当）となっている。この要因及び今後の改善・展開方針について確認。	34
定量R1	楽天モバイル	28GHz帯	5G	通信量	東北	実績	１日の間トラヒックがなかった県（実績評価：D評価に該当）が確認された。この要因及び今後の改善方針を確認。	69

【定量D11】 Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数				通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	平均比	計画値差	実績値			
全国	C	54.64%	+143	5,144	B	S	C
北海道	D	97.32%	-11	870	B	S	D
東北	B	86.03%	+40	770	B	S	B
関東	C	25.75%	±0	780	B	S	C
信越	B	89.89%	+61	338	B	S	B
北陸	C	66.67%	+5	150	B	S	C
東海	C	45.32%	+25	397	B	S	C
近畿	C	40.60%	+14	538	B	S	C
中国	B	72.86%	+16	392	B	S	B
四国	B	76.18%	+5	243	B	S	B
九州	D	70.02%	-12	584	B	S	D
沖縄	B	78.85%	±0	82	B	S	B

（参考）

開設計画値未満（実績評価：D評価に該当）となった北海道・九州の詳細

北海道： 開設計画値 881局に対し、
実績値 870局
（**計画値差 －11局**）

九州： 開設計画値 596局に対し、
実績値 584局
（**計画値差 －12局**）

【定量R1】 Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数				通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	平均比	計画値差	実績値			
全国	S	141.70%	+5,392	13,340	D	B	D
北海道	B	86.80%	+306	776	B	B	B
東北	B	81.56%	+311	730	D	B	D
関東	S	204.29%	+1,769	6,188	B	B	S
信越	B	89.36%	+177	336	B	B	B
北陸	A	94.67%	+125	213	B	B	A
東海	S	154.34%	+704	1,352	B	B	S
近畿	S	130.57%	+753	1,730	B	B	S
中国	A	101.67%	+326	547	B	B	A
四国	A	107.52%	+199	343	B	B	A
九州	S	115.35%	+611	962	B	B	S
沖縄	S	156.73%	+111	163	B	B	S

（参考）

１日の間トラヒックがなかった県（実績評価：D評価に該当）の詳細

【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】

（参考）D評価に係る参照条文

■電波法

（特定基地局の開設指針）

第二十七条の十二　総務大臣は、陸上に開設する移動しない無線局であつて、次の各号のいずれかに掲げる事項を確保するために、同一の者により相当数開設されることが必要であるもののうち、電波の公平かつ能率的な利用を確保するためその円滑な開設を図ることが必要であると認められるもの（以下「特定基地局」という。）について、**特定基地局の開設に関する指針**（以下「開設指針」という。）**を定めることができる**。

一・二　（略）

2　**前項の場合において**、総務大臣は、**既に開設されている電気通信業務用基地局**（以下「既設電気通信業務用基地局」という。）**が現に使用している周波数**（当該既設電気通信業務用基地局の無線設備の設置場所に係る区域として総務大臣が定める区域に係るものに限る。以下この項及び次条第一項（第三号を除く。）において同じ。）を使用する電気通信業務用基地局については、**次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるものに限り、特定基地局とすることができる**。

一　第二十六条の三第四項の規定により**有効利用評価の結果**の報告を受けた場合において、既設電気通信業務用基地局（第二十七条の十五第三項に規定する認定計画に従つて開設されているものであつて、当該**認定計画に係る認定の有効期間が満了していないものを除く**。第三号及び第二十七条の二十において同じ。）が現に使用している周波数に係る当該結果が**総務省令で定める基準を満たしていないと認めるとき**　当該周波数を使用する電気通信業務用基地局

二・三　（略）

■電波法施行規則

（電波の有効利用の程度の基準）

第十一条の二の六　法第二十七条の十二第二項第一号の総務省令で定める基準は、電波の利用状況の調査及び電波の有効利用の程度の評価に関する省令（平成十四年総務省令第百十号）第四条第二号に掲げる総合通信局の管轄区域又は同条第三号に掲げる全国の区域における一の周波数帯（法第二十六条の二第一項第一号に規定する周波数帯をいう。）に属する周波数（当該周波数に係る法第二十七条の十五第三項に規定する認定計画の認定の有効期間中であるものを除く。以下この条において同じ。）であつて、電気通信業務用基地局（法第六条第八項第二号に規定する電気通信業務用基地局をいう。以下この条において同じ。）が使用するものに係る評価事項（法第二十六条の三第一項に規定する評価事項をいう。）の全体の総合的な評価の結果（同条第二項に規定する方針に定める電気通信業務用基地局が使用する周波数の電波の有効利用の程度の**実績に関する評価に係る基準のうち、免許人ごとの総合的な評価に係る基準**によるものに限る。）が、**二回以上連続して最下位の段階**でないこととする。

⇒　認定の有効期間満了後の**実績評価の「総合的な評価」が２年連続D評価**のとき、再割当てが可能。

令和６年度の主なポイント②・通信量が前年度実績値未満

- 認定の有効期間満了後の「通信量」の進捗評価において、**通信量が前年度実績値未満**（**C評価に該当**）する項目が、**18項目**（プラチナバンド３項目、ミッドバンド11項目、ミリ波4項目）確認された。

No	事業者	周波数帯	通信規格	評価項目	対象区域	実績/進捗	ヒアリング事項（概要）	参照ｽﾗｲﾄﾞ
定量Ｄ１	NTTドコモ	800MHz帯	4G	通信量	全国、３総通(関東・近畿・沖縄)	進捗	通信量が前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）の区域が確認された。**前年度からの減少理由**、**今後の増減見通し**を確認。 ※**ミリ波**（**28GHz帯**）に係る「定量D5,K4,S5,R2」においては、**基地局数の増加数**に比較し、**通信量は相当に増加していない**要因も併せて確認する。 また、「共携２」において、ミリ波の**具体的な活用事例**や**更なる活用に当たって課題と考えられる点**を**確認**。	24
定量Ｋ１	KDDI/沖セル	800MHz帯	4G		４総通(北海道・東北・北陸・四国)			39
定量Ｓ１	ソフトバンク	900MHz帯	4G		全国、８総通(北海道・関東・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄)			53
定量Ｄ２	NTTドコモ	1.5GHz帯	4G		１総通(北海道)			25
定量Ｓ２	ソフトバンク	1.5GHz帯	4G		全国、11総通(全て)			54
定量Ｓ３	ソフトバンク	1.7GHz帯	4G+5G		２総通(北海道・関東)			55
定量Ｄ３	NTTドコモ	2GHz帯	4G+5G		３総通(関東・近畿・沖縄)			26
定量Ｋ２	KDDI/沖セル	2GHz帯	4G		３総通(関東・東海・近畿)			40
定量Ｓ４	ソフトバンク	2GHz帯	4G+5G		全国、３総通(関東・東海・近畿)			56
定量Ｄ４	NTTドコモ	3.5GHz帯	4G+5G		１総通(中国)			27
定量Ｋ３	KDDI/沖セル	3.5GHz帯	4G+5G		１総通(近畿)			41
定量Ｓ５	ソフトバンク	3.5GHz帯	4G+5G		全国、11総通(全て)			57
定量Ｄ５	NTTドコモ	28GHz帯	5G		全国、8総通(北海道・東北・関東・信越・東海・近畿・中国・沖縄)			19,28
定量Ｋ４	KDDI/沖セル	28GHz帯	5G		１総通(信越)			19,42
定量Ｓ５	ソフトバンク	28GHz帯	5G		１総通(九州)			19,58
定量Ｒ２	楽天モバイル	28GHz帯	5G		２総通(東北・北陸)			19,70
定量Ｕ１	UQ	2.5GHz帯	BWA+5G		９総通(北海道・東北・信越・北陸・東海・中国・四国・九州・沖縄)			75
定量W1	WCP	2.5GHz帯	BWA+5G		全国、９総通(北海道・東北・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄)			79

＊ ・・・【Ｒ6新規】:本年度の新たな項目　・・・【Ｒ5と同様】：昨年度と同様な項目　・・・【Ｒ5から改善】：昨年度から一部改善

令和６年度の主なポイント③・３Ｇ移行（その１）

- **KDDI/沖縄セルラー電話**の**800MHz帯**、**ソフトバンク**の**900MHz帯**及び**2GHz帯**において、**3G移行計画**に係る調査結果の報告が行われた。**有効利用評価方針**における評価基準に基づくと、**3Gサービス終了から5年以内**に、**800MHz帯・900MHz帯は80%以上**、**2GHz帯は50%以上**となる必要がある。**KDDI/沖縄セルラー電話**の800MHz帯については、これを**満たしていない**。**ソフトバンク**はいずれの周波数帯も**前倒しで達成**する計画である。
- **ドコモ**の**2GHz帯（3G帯域）**は**４G・5Gへのマイグレーション**により、前年度から**カバー率は拡大**しているが、**東北**の**人口カバー率**及び**面積カバー率**はいずれも**C評価に該当**。

No	事業者	周波数帯	通信規格	評価項目	ヒアリング事項（概要）	参照ｽﾗｲﾄﾞ
移行K10	KDDI/沖セル	800MHz帯	3G	移行計画	**3G移行計画の詳細**（移行先通信規格とその理由、人口カバー率等の目標値とその理由など）を**聴取**する。また、3Gサービス終了（令和3年度末）の５年後の**令和8年度末**に、**沖縄を除き、人口カバー率が80%以上となっていない理由**を確認する。	48
移行S12	ソフトバンク	900MHz帯 2GHz帯	3G	移行計画	**3G移行計画の詳細**（移行先通信規格とその理由、人口カバー率等の目標値とその理由など）を**聴取**する。	64,65
定量D6	NTTドコモ	2GHz帯	3G	実績/進捗	2GHz帯（3G帯域）について、東北の人口カバー率が50%以上70%未満、面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。この**要因**及び**2GHz帯（3G帯域）の4G・5Gへのマイグレーションに係る今後の計画**を確認する。	29

<KDDI/沖セル>

○令和６年度調査結果 【3G移行計画】

800MHz（KDDI/沖セル）		
移行する周波数		870MHz～875MHz
移行先通信規格		４Ｇ
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率80%以上
移行計画最終年度の計画値	基地局数 (R10年度末)	27,520局
	人口カバー率 (R10年度末)	81.00%
	面積カバー率 (R10年度末)	24.00%

【人口カバー率】 3Gサービス終了（令和３年度末）から５年後

KDDI/沖セル					
区域	令和6年度末 （2024年度末）	令和7年度末 （2025年度末）	令和8年度末 （2026年度末）	令和9年度末 （2027年度末）	令和10年度末 （2028年度末）
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				81.00%[+1.00]
北海道					81.00%[+1.00]
東北					80.00%[0]
関東					80.00%[0]
信越					87.00%[+7.00]
北陸					81.00%[+1.00]
東海					81.00%[+1.00]
近畿					84.00%[+4.00]
中国					84.00%[+4.00]
四国					85.00%[+5.00]
九州					85.00%[+5.00]
沖縄					90.00%[+10.00]

※赤字は80%以上　※[○]は最も低い人口カバー率の評価基準（80%）との比較

令和６年度の主なポイント③・３Ｇ移行（その２）

<ソフトバンク>

900MHz（ソフトバンク）

移行する周波数		945MHz～950MHz
移行先通信規格		４Ｇ
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率96%以上
移行計画最終年度の計画値	基地局数 (R10年度末)	35,100局
	人口カバー率 (R10年度末)	96.88%
	面積カバー率 (R10年度末)	56.88%

3Gサービス終了（石川県以外は令和６年４月15日、石川県は令和６年7月31日）から５年後

【人口カバー率（900MHz帯）】

ソフトバンク					
区域	令和6年度末 (2024年度末)	令和7年度末 (2025年度末)	令和8年度末 (2026年度末)	令和9年度末 (2027年度末)	令和10年度末 (2028年度末)
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				96.88%[+16.88]
北海道					97.56%[+17.56]
東北					96.05%[+16.05]
関東					97.72%[+17.72]
信越					94.83%[+14.83]
北陸					97.16%[+17.16]
東海					96.60%[+16.60]
近畿					97.35%[+17.35]
中国					94.04%[+14.04]
四国					92.31%[+12.31]
九州					97.19%[+17.19]
沖縄					97.99%[+17.99]

※赤字は80%以上　※[〇]は最も低い人口カバー率の評価基準（80%）との比較

2GHz（ソフトバンク）

移行する周波数		2165MHz～2170MHz
移行先通信規格		４Ｇ
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率95%以上
移行計画最終年度の計画値	基地局数 (R10年度末)	38,000局
	人口カバー率 (R10年度末)	95.03%
	面積カバー率 (R10年度末)	27.69%

【人口カバー率（2GHz帯）】

ソフトバンク					
区域	令和6年度末 (2024年度末)	令和7年度末 (2025年度末)	令和8年度末 (2026年度末)	令和9年度末 (2027年度末)	令和10年度末 (2028年度末)
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				95.03%[+45.03]
北海道					91.07%[+41.07]
東北					88.82%[+38.82]
関東					98.36%[+48.36]
信越					90.05%[+40.05]
北陸					93.33%[+43.33]
東海					97.12%[+47.12]
近畿					97.12%[+47.12]
中国					87.23%[+37.23]
四国					88.70%[+38.70]
九州					91.81%[+41.81]
沖縄					94.58%[+44.58]

※赤字は50%以上　※[〇]は最も低い人口カバー率の評価基準（50%）との比較

令和６年度の主なポイント③・３Ｇ移行（その３）

＜NTTドコモ＞

○令和６年度　2GHz帯　評価（暫定）

Ｒ６実績評価（暫定）【3G※】※3G帯域を利用する4G･5Gとの合算値

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差（※1）	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値	（※2）	（※3）	（※4）
全国	-	-	36,532	A	90.21%	B	78.87%	27.48%	-	-	A
北海道	-	-	2,008	S	96.75%	B	85.70%	19.54%	-	-	S
東北	-	-	1,351	C	64.05%	C	55.51%	13.61%	-	-	C
関東	-	-	10,428	A	91.37%	B	83.13%	47.50%	-	-	A
信越	-	-	1,228	B	78.99%	B	73.49%	21.79%	-	-	B
北陸	-	-	1,605	S	96.18%	B	86.16%	33.88%	-	-	S
東海	-	-	4,470	A	94.13%	B	74.56%	32.70%	-	-	A
近畿	-	-	6,602	S	97.57%	B	84.77%	36.90%	-	-	S
中国	-	-	2,945	A	93.80%	B	80.77%	35.04%	-	-	A
四国	-	-	1,492	A	93.07%	A	95.65%	36.72%	-	-	A
九州	-	-	3,950	B	84.11%	B	79.19%	31.20%	-	-	B
沖縄	-	-	453	A	91.45%	B	79.78%	46.24%	-	-	A

Ｒ６進捗評価（暫定）【3G※】※3G帯域を利用する4G･5Gとの合算値

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量（※1）	技術導入状況（※2）
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+2,902	36,532	S	+2.67	90.21%	S	+2.39	27.48%	S	-	-
北海道	A	+27	2,008	A	+0.28	96.75%	A	+0.06	19.54%	A	-	-
東北	S	+521	1,351	S	+14.04	64.05%	S	+3.38	13.61%	S	-	-
関東	A	-493	10,428	A	+0.15	91.37%	A	+0.38	47.50%	A	-	-
信越	A	+4	1,228	A	+0.05	78.99%	A	+0.02	21.79%	A	-	-
北陸	S	+872	1,605	S	+9.36	96.18%	S	+8.05	33.88%	S	-	-
東海	A	-51	4,470	A	-0.24	94.13%	A	-0.11	32.70%	A	-	-
近畿	S	+523	6,602	S	+1.66	97.57%	S	+2.02	36.90%	S	-	-
中国	S	+409	2,945	S	+2.57	93.80%	S	+5.04	35.04%	S	-	-
四国	S	+370	1,492	S	+2.92	93.07%	S	+4.63	36.72%	S	-	-
九州	S	+730	3,950	S	+9.32	84.11%	S	+6.43	31.20%	S	-	-
沖縄	A	-10	453	A	+0.87	91.45%	S	+1.30	46.24%	S	-	-

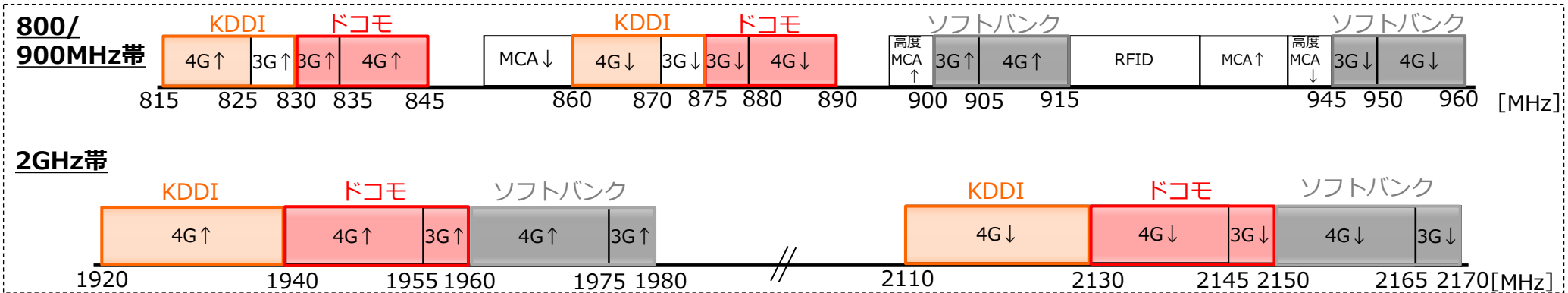
○（参考）令和５年度　2GHz帯評価

Ｒ5実績評価【3G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差（※1）	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値	（※2）	（※3）	（※4）
全国	-	-	33,630	B	87.54%	B	74.5%	25.09%	-	-	B
北海道	-	-	1,981	S	96.47%	B	85.4%	19.48%	-	-	S
東北	-	-	830	C	50.01%	C	44.7%	10.23%	-	-	C
関東	-	-	10,921	A	91.22%	B	82.7%	47.12%	-	-	A
信越	-	-	1,224	B	78.94%	B	73.1%	21.77%	-	-	B
北陸	-	-	733	B	86.82%	B	73.2%	25.83%	-	-	B
東海	-	-	4,521	A	94.37%	B	74.6%	32.81%	-	-	A
近畿	-	-	6,079	S	95.91%	B	81.9%	34.88%	-	-	S
中国	-	-	2,536	A	91.23%	B	73.3%	30.00%	-	-	A
四国	-	-	1,122	A	90.15%	B	88.6%	32.09%	-	-	A
九州	-	-	3,220	B	74.79%	C	68.4%	24.77%	-	-	B
沖縄	-	-	463	A	90.58%	B	78.4%	44.94%	-	-	A

Ｒ5進捗評価【3G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量（※1）	技術導入状況（※2）
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	C	-11,736	33,630	C	-7.92	87.54%	C	-5.50	25.09%	C	-	-
北海道	C	-870	1,981	B	-1.59	96.47%	B	-3.16	19.48%	C	-	-
東北	C	-1,805	830	C	-19.20	50.01%	B	-3.61	10.23%	C	-	-
関東	C	-3,654	10,921	C	-8.10	91.22%	C	-13.35	47.12%	C	-	-
信越	C	-1,083	1,224	C	-16.61	78.94%	C	-9.14	21.77%	C	-	-
北陸	C	-221	733	C	-5.89	86.82%	B	-2.58	25.83%	C	-	-
東海	C	-1,158	4,521	B	-3.56	94.37%	B	-3.46	32.81%	C	-	-
近畿	B	-534	6,079	B	-2.86	95.91%	C	-5.74	34.88%	C	-	-
中国	A	-15	2,536	A	-0.18	91.23%	B	-1.70	30.00%	B	-	-
四国	C	-605	1,122	C	-5.30	90.15%	C	-6.62	32.09%	C	-	-
九州	C	-1,663	3,220	C	-19.18	74.79%	C	-9.20	24.77%	C	-	-
沖縄	C	-128	463	C	-7.90	90.58%	C	-5.09	44.94%	C	-	-



目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

各社共通のヒアリング項目案（一覧）

＊　「共」・・・ 携帯電話事業者４者及び全国BWA事業者２者に対する質問
「共携」・・・ 携帯電話事業者４者に対する質問

No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共1	**周波数利用方針**	御社が携帯・全国BWAネットワークを構築する上での、周波数帯ごとの目的や役割等、それを踏まえた周波数全体としての基本的な利用方針について、昨年度からの変更点を含め、教えてください。 その際、通信規格別の使用周波数範囲・幅がわかるように図示してください。	**各事業者の周波数全体の基本的な利用方針**について、昨年度からの変更点を含め、経年的に確認する。
共2	**ＳＡ導入方針**	ＳＡに係る今後の導入方針を教えてください（周波数帯、地域、サービス対象者等により導入方針が異なる場合は、それぞれの方針を教えてください）。また、ＳＡの活用事例（ネットワークスライシングによる具体的なサービス等）を教えてください。	※**前回部会の項目を再掲**（Noの付番を整理） **Sub6**のエリアカバレッジの実績評価について、**将来的には**、現行の認定期間満了後の評価基準と同様に**人口カバー率や面積カバー率に基づく評価**を行っていくことが望ましい。令和6年度の調査結果、**約半数以上の区分で人口カバー率が50%未満**となっていることから、**各社の今後の展開方針（基地局数、人口カバー率等）を確認**する。
共3	**NTN**	NTN（衛星ダイレクト通信・HAPS等）の導入に向けた取組状況を教えてください。 また、NTNのカバレッジについて、地上系基地局の人口カバー率・面積カバー率と同等に評価することについて、ご意見があれば教えてください。	**衛星ダイレクト通信**や**HAPS**といった携帯電話端末と直接通信が可能な非地上系の**NTN**（Non Terrestrial Network）**導入に向けた検討が活発化**していることから、**各社の導入に向けた取組状況を確認**する。 また、**衛星ダイレクト通信**について、**KDDI**は「**2024年内を目途にサービス提供開始予定。SMSなどのメッセージ送受信から開始**し、**音声通話/データ通信も順次対応予定**」である旨をプレスリリースしている。**衛星ダイレクト通信と地上系**とは、干渉の回避のため、**異なる周波数帯を使用する必要**があるところ、**NTNのカバレッジ**について、**地上系基地局の人口カバー率・面積カバー率と同等に評価**することについての**各社の意見を聴取**する。
共携1	**Sub6展開方針**	Sub6（3.7/4.0/4.5GHz帯）の展開方針を教えてください。 複数の周波数帯を保有する事業者においては、周波数帯ごとの展開方針を教えてください。	※**前回部会の項目を再掲**（Noの付番を整理） 本年度は、改定した有効利用評価方針に基づき、ＳＡの技術導入状況の評価（評価区域内の全ての都道府県でＳＡを導入している場合は「Ｓ」評価、一部の都道府県でＳＡを導入している場合は「Ａ」評価、等）を実施するが、ＳＡ導入率は、各社ごと・周波数帯ごとに異なり、**未導入の帯域がある事業者**や**全ての周波数帯で未導入である事業者も存在**することから、**各社のＳＡに係る今後の導入方針を確認**する。また、**具体的な活用事例**を確認する。
共携2	**ミリ波の活用**	ミリ波（28GHz帯）について、具体的な活用事例（端末向けの他、BtoB向けの事例）を教えてください。また、ミリ波の更なる活用に当たって課題と考えられる点を教えてください。	**ミリ波（28GHz帯）**について、昨年度から**基地局数**は**各社ともに増加**しているものの、**通信量**は**微増又は減少**している事業者も存在する。**具体的な活用事例**（端末向けの他、BtoB向けの事例）とともに、更なる**活用に当たって課題**と考えられる点を**確認**する。

各社共通のヒアリング項目案
（詳細）

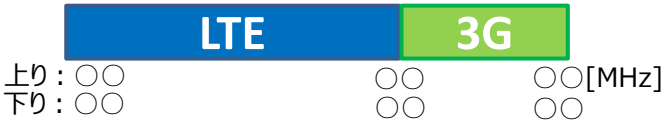
共1　周波数利用方針

No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共1	**周波数利用方針**	御社が携帯・全国BWAネットワークを構築する上での、周波数帯ごとの目的や役割等、それを踏まえた周波数全体としての基本的な利用方針について、昨年度からの変更点を含め、教えてください。 その際、通信規格別の使用周波数範囲・幅がわかるように図示してください。	**各事業者の周波数全体の基本的な利用方針**について、昨年度からの変更点を含め、経年的に確認する。

通信規格別の使用周波数範囲・幅の図示イメージ

（例１）通信規格により周波数範囲を分けている場合

・３Ｇ：エリアカバレッジ
・４Ｇ：エリアカバレッジ、5G（NSA）のアンカーバンド



（例２）同一周波数範囲で複数の通信規格を利用している場合

・４Ｇ：トラヒック対策
・５Ｇ：エリアカバレッジ、令和４年○月より５G運用開始。
※４Ｇトラヒックが他周波数帯で収容可能なエリアから５Ｇ化。

（例３）同一周波数帯でキャリアアグリゲーションしている場合

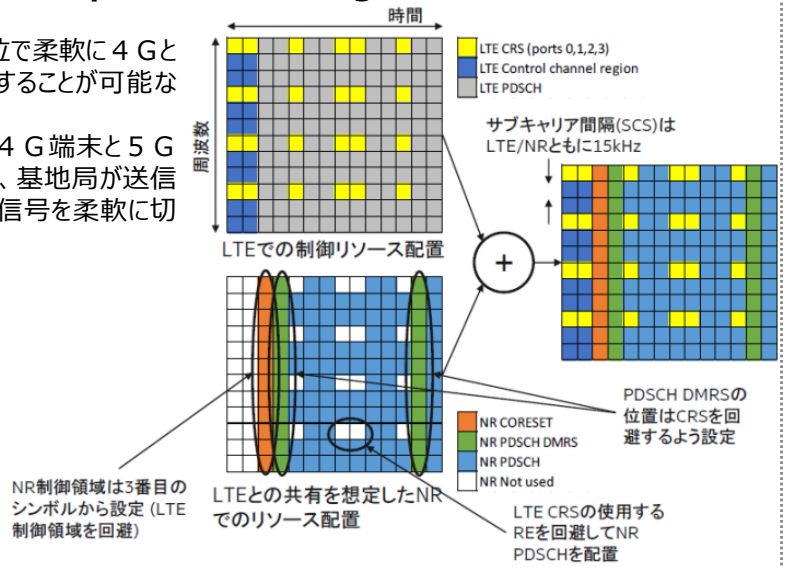
・５Ｇ：スポット的なトラヒック対策

（例４）4Gと5GのDSS*運用の場合

・４Ｇ／５Ｇ（DSS）：トラヒック対策

＊DSS：Dynamic Spectrum Sharing

リソースエレメント単位で柔軟に４Ｇと５Ｇの信号を配置することが可能な技術。
エリア内の存在する４Ｇ端末と５Ｇ端末の割合によって、基地局が送信する４G信号と５G信号を柔軟に切り替えることができる。



図：DSS技術の概要

（参考）移動通信システム用周波数の割当状況

- 電気通信業務用として、携帯電話事業者・全国BWA事業者 ７者※に周波数を割当てを実施。
- 令和５年10月には、楽天モバイルに対して、700MHz帯の割当てを実施。
- 令和６年４月には、3.7GHz帯、4.5GHz帯、28GHz帯について、開設計画の認定期間が満了。

【移動通信システム用周波数の割当状況（令和６年９月時点）】

	700MHz帯 FDD	800MHz帯 FDD	900MHz帯 FDD	1.5GHz帯 FDD	1.7GHz帯 FDD	2GHz帯 FDD	2.3GHz帯 TDD	2.5GHz帯 TDD	3.4GHz帯 TDD	3.5GHz帯 TDD	3.7GHz帯 4.5GHz帯 TDD	28GHz帯 TDD	合計
docomo	20MHz	30MHz		30MHz	40MHz 東名阪のみ	40MHz			40MHz	40MHz	200MHz	400MHz	840MHz
au	20MHz	30MHz		20MHz	40MHz	40MHz	40MHz			40MHz	200MHz	400MHz	830MHz
UQ Communications								50MHz					50MHz
SoftBank	20MHz		30MHz	20MHz	30MHz	40MHz			40MHz	40MHz	100MHz	400MHz	720MHz
Wireless City Planning								30MHz					30MHz
Rakuten Mobile	6MHz				80MHz (40MHzは東名阪以外)						100MHz	400MHz	586MHz
合計	66MHz	60MHz	30MHz	70MHz	190MHz	120MHz	40MHz	80MHz	80MHz	120MHz	600MHz	1600MHz	**3,056MHz**

認定期間が満了した周波数又は開設計画の認定に係らない周波数　認定期間中の周波数　評価を行う年度に認定期間が満了した周波数

※ 携帯電話事業者は、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、沖縄セルラー電話株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社。
全国BWA事業者は、UQコミュニケーションズ株式会社、Wireless City Planning株式会社。

共2　SA導入方針　※前回部会資料より再掲

No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共2	**ＳＡ導入方針**	ＳＡに係る今後の導入方針を教えてください（周波数帯、地域、サービス対象者等により導入方針が異なる場合は、それぞれの方針を教えてください）。また、ＳＡの活用事例（ネットワークスライシングによる具体的なサービス等）を教えてください。	**※前回部会の項目を再掲**（Noの付番を整理） **Sub6**のエリアカバレッジの実績評価について、**将来的には**、現行の認定期間満了後の評価基準と同様に**人口カバー率や面積カバー率に基づく評価**を行っていくことが望ましい。令和6年度の調査結果、**約半数以上の区分で人口カバー率が50%未満**となっていることから、**各社の今後の展開方針（基地局数、人口カバー率等）を確認**する。

- **ＳＡ**方式の**５Ｇ基地局数**は**下表のとおり**（令和６年度調査結果）。
- ＳＡ方式の５Ｇ基地局数は**昨年度と比較し増加**。**ＳＡ導入率**（周波数帯ごとの5G基地局数に対するSA方式基地局数の割合）は、表中に示す%のとおり、各社ごと・周波数帯ごとに異なり、**未導入の帯域がある事業者**や**全ての周波数帯で未導入である事業者も存在**。

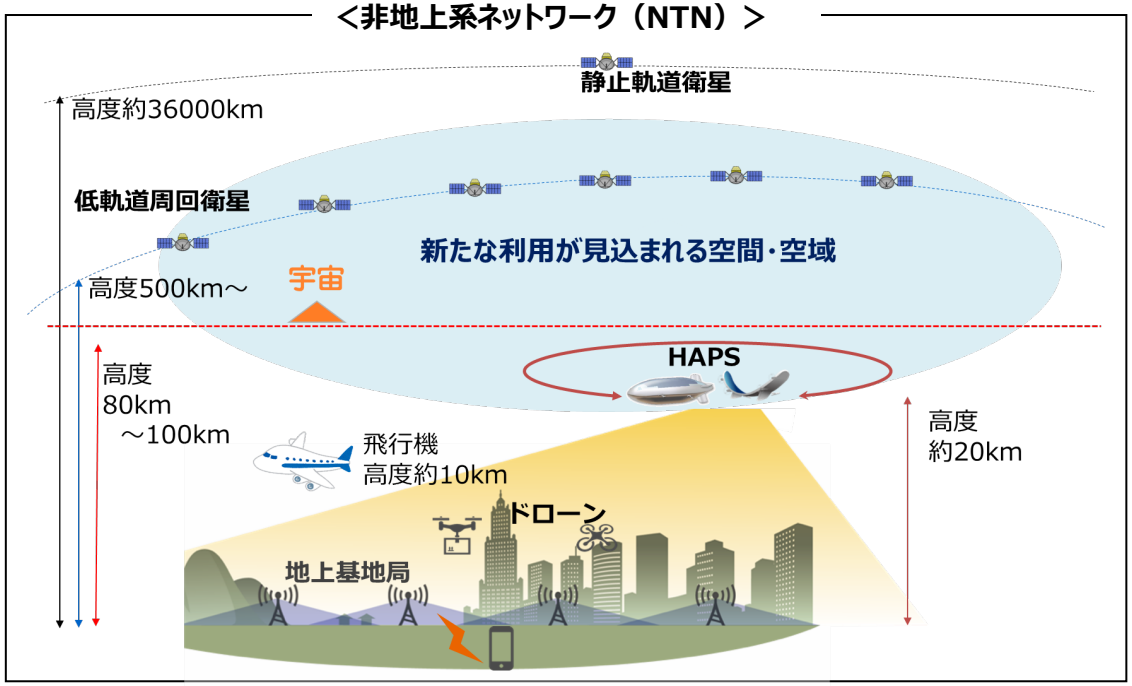
（参考）令和６年度調査結果【SA（Stand Alone）方式の5G基地局数※1（令和6年3月時点※2）】（○）：昨年度実績値との比較　［△］：５G基地局数（NSA方式＋SA方式）

	700MHz帯 FDD	800MHz帯 FDD	900MHz帯 FDD	1.5GHz帯 FDD	1.7GHz帯 (1805～1845) FDD	1.7GHz帯 (1845～1880) FDD	2GHz帯 FDD	2.3GHz帯 TDD	2.5GHz帯 TDD	3.4GHz帯 TDD	3.5GHz帯 TDD	3.7GHz帯 TDD	4.0GHz帯 TDD	4.5GHz帯 TDD	28GHz帯 TDD	合計
docomo	0 (±0) [7,112] 0%	—	—	—	—	— 東名阪のみ	0 (±0) [137] 0%	—	—	0 (±0) [1,785] 0%	0 (±0) [445] 0%	3,543 (+3,338) [14,789] 24.0%	—	3,553 (+3,312) [15,307] 23.2%	3,145 (+2,943) [6,719] 46.8%	10,241 (+9,593) [46,294] 22.1%
au	1,878 (+1,047) [15,098] 12.4%	—	—	—	1,281 (+1,258) [9,120] 14.0%	—	—	0 (±0) [86] 0%	—	—	2,809 (+1,917) [15,550] 18.1%	5,629 (+2,612) [32,530] 17.3%	414 (+325) [7,110] 5.8%	—	1,793 (+1,793) [14,998] 12.0%	13,804 (+8,952) [94,492] 14.6%
UQ Communications	—	—	—	—	—	—	—	—	414 (+414) [2,713] 15.3%	—	—	—	—	—	—	414 (+414) [2,713] 15.3%
SoftBank	17,208 (+16,912) [17,208] 100%	—	—	—	—	17,478 (+16,991) [17,478] 100%	3 (+3) [3] 100%	—	—	30,224 (+4,177) [30,224] 100%	3,070 (+3,070) [3,070] 100%	10,562 (+4,104) [10,562] 100%	—	—	2,026 (+2,026) [6,816] 29.7%	80,571 (+47,283) [85,361] 94.4%
Wireless City Planning	—	—	—	—	—	—	—	—	4 (+1) [4] 100%	—	—	—	—	—	—	4 (+1) [4] 100%
Rakuten Mobile	—	—	—	—	—	— 東名阪以外	—	—	—	—	—	0 (±0) [18,976] 0%	—	—	0 (±0) [15,231] 0%	0 (±0) [34,207] 0%
合計	19,086 (+17,959) [39,418] 48.4%	—	—	—	1,281 (+1,258) [9,120] 14.0%	17,478 (+16,991) [17,478] 100%	3 (+3) [140] 2.1%	0 (±0) [86] 0%	418 (+415) [2,717] 15.4%	30,224 (+4,177) [32,009] 94.4%	5,879 (+4,987) [19,065] 30.8%	19,734 (+10,054) [76,857] 25.7%	414 (+325) [7,110] 5.8%	3,553 (+3,312) [15,307] 23.2%	6,964 (+6,762) [43,764] 15.9%	105,034 (±66,243) [263,071] 39.9%

※1 陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。※2 3.7GHz帯、4.0GHz帯、4.5GHz帯及び28GHz帯については令和６年４月９日時点。

共3　NTN

No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共3	**NTN**	NTN（衛星ダイレクト通信・HAPS等）の導入に向けた取組状況を教えてください。 また、NTNのカバレッジについて、地上系基地局の人口カバー率・面積カバー率と同等に評価することについて、ご意見があれば教えてください。	**衛星ダイレクト通信**や**HAPS**といった携帯電話端末と直接通信が可能な非地上系の**NTN**（Non Terrestrial Network）**導入に向けた検討が活発化**していることから、**各社の導入に向けた取組状況を確認**する。 また、**衛星ダイレクト通信**について、**KDDI**は「**2024年内を目途にサービス提供開始予定。SMSなどのメッセージ送受信から開始**し、**音声通話/データ通信も順次対応予定**」である旨をプレスリリースしている。 **衛星ダイレクト通信と地上系**とは、干渉の回避のため、**異なる周波数帯を使用する必要**があるところ、**NTNのカバレッジ**について、**地上系基地局の人口カバー率・面積カバー率と同等に評価**することについての**各社の意見を聴取**する。



NTN : Non Terrestrial Network
HIBS : HAPS as IMT Base Station
HAPS : High Altitude Platform Station

HAPS

サービスリンク
IMT基地局用（HIBS）周波数として議論・特定された周波数帯
（700～900MHz帯、2GHz帯　等）

フィーダリンク
固定業務に分配されている周波数帯のうちHAPS特定されている周波数帯（38-39.5GHz）

C2リンク
検討中

非静止衛星通信システム

サービスリンク
(1) 携帯電話端末等との直接通信
IMT特定された周波数帯の一部（2GHz帯　等）
(2) Ka帯の非静止衛星通信
Ka帯

フィーダリンク
Ka帯

共携1　Sub6展開方針　※前回部会資料より再掲

No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共携1	**Sub6展開方針**	Sub6（3.7/4.0/4.5GHz帯）の展開方針を教えてください。 複数の周波数帯を保有する事業者においては、周波数帯ごとの展開方針を教えてください。	**※前回部会の項目を再掲**（Noの付番を整理） **Sub6**のエリアカバレッジの実績評価について、**将来的には**、現行の認定期間満了後の評価基準と同様に**人口カバー率や面積カバー率に基づく評価**を行っていくことが望ましい。令和6年度の調査結果、**約半数以上の区分で人口カバー率が50%未満**となっていることから、**各社の今後の展開方針（基地局数、人口カバー率等）を確認**する。

- **Sub6**（3.7/4.0/4.5GHz帯）の**人口カバー率**は**下表のとおり**（令和６年度調査結果）　。
- 現行の1.5GHz帯以上の周波数帯に係る**認定期間満了後の人口カバー率に係る「Ｄ」評価基準（50%未満）を上回る「50%以上」の区分**（事業者、周波数帯、全国・各総通別）**は**、**昨年度**（全国：0/6区分、総通：14/66区分）と比較し、**本年度**（全国：2/6区分、総通：29/66区分）**は、約２倍程度増加**しているものの、**全国で４/6区分**、**総通で37/66区分**と**約半数以上は50%未満**となっている。

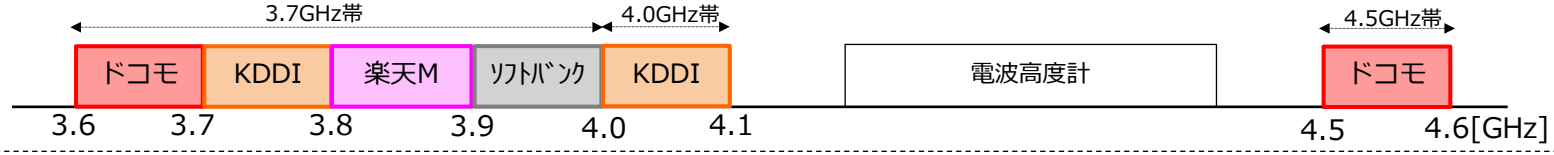
（参考）令和６年度調査結果【人口カバー率】

注）青字：50%以上、赤字：10%未満

	3.7GHz帯				4.0GHz帯	4.5GHz帯
	ドコモ	KDDI/沖セル	楽天モバイル	ソフトバンク	KDDI/沖セル	ドコモ
全国	23.89%　(+3.58)	52.51%　(+29.87)	50.59%　(+20.09)	43.27%　(+11.50)	1.74%　(+1.43)	44.69%　(+2.22)
北海道	18.61%　(+0.49)	76.79%　(+33.95)	54.63%　(+17.85)	73.79%　(+11.29)	2.90%　(+2.51)	33.18%　(+1.17)
東北	30.26%　(+3.19)	53.89%　(+25.45)	32.49%　(+8.53)	64.30%　(+11.24)	2.08%　(+1.70)	24.19%　(+0.85)
関東	2.34%　(+0.62)	35.40%　(+24.32)	50.67%　(+23.19)	18.55%　(+6.32)	1.43%　(+1.36)	51.05%　(+2.33)
信越	66.72%　(+5.90)	52.08%　(+30.65)	35.39%　(+9.33)	62.29%　(+17.97)	1.14%　(+1.02)	25.24%　(+5.35)
北陸	63.41%　(+1.07)	58.23%　(+30.09)	32.55%　(+9.88)	75.62%　(+10.84)	1.68%　(+1.52)	26.89%　(+0.72)
東海	3.14%　(+0.32)	45.63%　(+31.87)	52.19%　(+33.93)	37.70%　(+14.92)	0.57%　(+0.47)	59.76%　(+4.13)
近畿	31.66%　(+15.11)	72.15%　(+39.93)	76.79%　(+20.46)	54.51%　(+17.71)	0.52%　(+0.52)	61.82%　(+2.20)
中国	57.64%　(+1.90)	65.34%　(+27.12)	30.87%　(+11.19)	61.84%　(+7.11)	2.05%　(+1.82)	28.71%　(+0.96)
四国	68.39%　(+1.67)	70.14%　(+42.04)	34.38%　(+13.93)	69.19%　(+13.43)	1.87%　(+1.40)	14.97%　(+1.05)
九州	55.23%　(+2.31)	65.79%　(+31.50)	45.73%　(+15.71)	63.14%　(+16.24)	1.45%　(+1.35)	22.75%　(+1.36)
沖縄	5.93%　(+1.22)	38.09%　(+14.52)	17.67%　(+5.11)	9.27%　(+7.01)	36.65%　(+20.27)	57.19%　(+2.51)

※（〇）は昨年度実績値との比較

<各社への割当て周波数帯>
Sub6（3.7/4.0/4.5GHz帯）



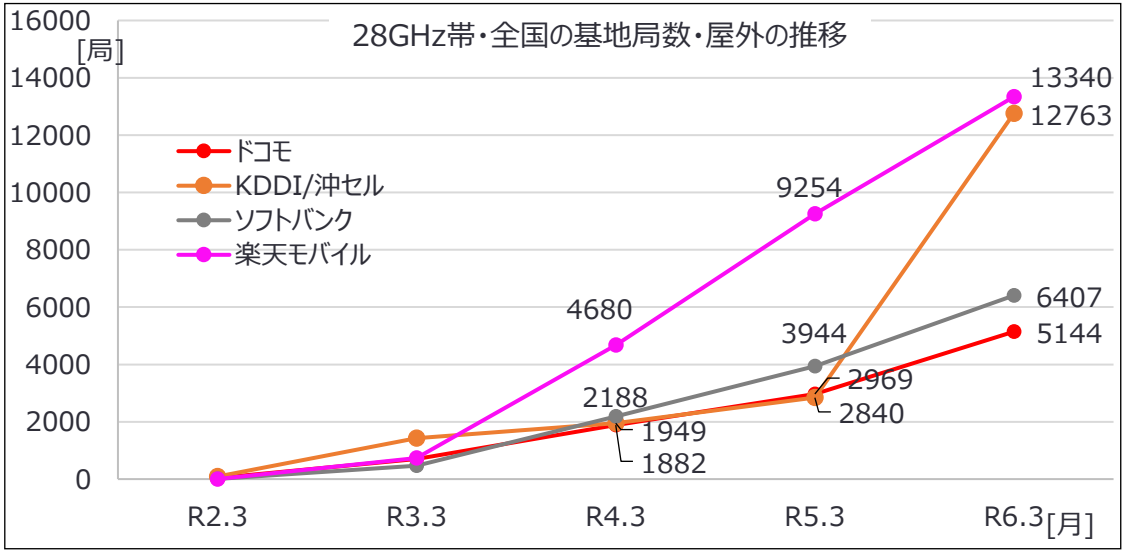
共携2　ミリ波の活用

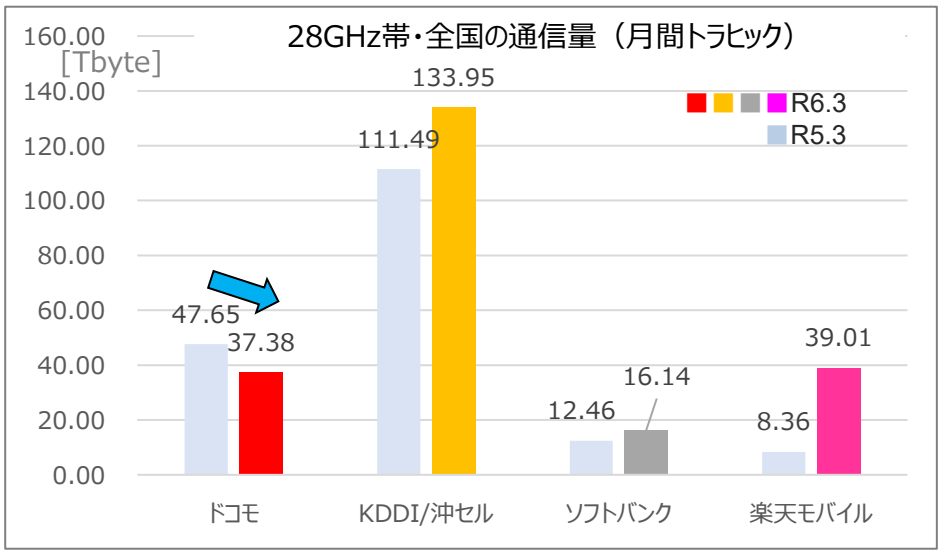
No	項目	質問項目案	質問理由（送付時には「回答欄」とする）
共携2	**ミリ波の活用**	ミリ波（28GHz帯）について、具体的な活用事例（端末向けの他、BtoB向けの事例）を教えてください。また、ミリ波の更なる活用に当たって課題と考えられる点を教えてください。	**ミリ波（28GHz帯）**について、昨年度から**基地局数**は**各社ともに増加**しているものの、**通信量**は**微増又は減少**している事業者も存在する。**具体的な活用事例**（端末向けの他、BtoB向けの事例）とともに、更なる**活用に当たって課題**と考えられる点を**確認**する。

（参考）令和６年度調査結果【基地局数・屋外】

※（〇）は昨年度実績値との比較

	28GHz帯							
	ドコモ		KDDI/沖セル		ソフトバンク		楽天モバイル	
全国	5,144局	(+2,175)	12,763局	(+9,923)	6,407局	(+2,463)	13,340局	(+4,086)
北海道	870局	(+429)	1,355局	(+1,239)	573局	(+368)	776局	(+221)
東北	770局	(+339)	1,381局	(+1,210)	700局	(+358)	730局	(+174)
関東	780局	(+391)	3,620局	(+2,356)	1,527局	(+374)	6,188局	(+2,214)
信越	338局	(+159)	561局	(+435)	269局	(+164)	336局	(+111)
北陸	150局	(+35)	378局	(+335)	157局	(+86)	213局	(+58)
東海	397局	(+136)	1,151局	(+897)	604局	(+209)	1,352局	(+318)
近畿	538局	(+179)	1,646局	(+1,336)	1,384局	(+297)	1,730局	(+461)
中国	392局	(+110)	841局	(+726)	373局	(+183)	547局	(+191)
四国	243局	(+103)	492局	(+399)	199局	(+101)	343局	(+101)
九州	584局	(+246)	1,276局	(+968)	512局	(+275)	962局	(+201)
沖縄	82局	(+48)	62局	(+22)	109局	(+48)	163局	(+36)





目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

NTTドコモに対するヒアリング項目案（一覧）①

＊ ・・・【Ｒ６新規】:本年度の新たな項目
・・・【Ｒ５と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【Ｒ５から改善】：昨年度から一部で改善

■ＮＴＴドコモ：計11問

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
○通信量				
定量Ｄ１	800MHz帯・通信量	800MHz帯（4G）について、全国・関東・近畿・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 800MHz帯（全国・関東・近畿・沖縄） 1.5GHz帯（北海道） 2GHz帯（関東・近畿・沖縄） 3.5GHz帯（中国） 28GHz帯（全国・北海道・東北・関東・信越・東海・近畿・中国・沖縄） 上記の周波数帯・地域における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 なお、昨年度（Ｒ５）年度とは異なる周波数帯、同一周波数帯であっても異なる地域において通信量が減少している。 また、ミリ波（28GHz帯）については、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：九州の基地局数は1.7倍に対し、通信量は1.1倍）要因も併せて確認する。	700MHz帯（東北・北陸） 1.5GHz帯（北陸・近畿） 3.5GHz帯（北陸・近畿） （上記周波数帯）の通信量が前年度実績を下回っているところ、同社によれば、省電力化のため、トラヒックから利用状況をリアルタイムに把握し、夜間等のトラヒック需要が少ない時間帯は、一時的に一部周波数帯の基地局をスリープさせるスリープ制御を導入し、他のスリープ制御を行っていない周波数帯にトラヒックが移ったためとしている。 他の周波数帯の活用により、利用者の接続面での利便性を損なうことなく省電力化を図っており、そのような社会課題解決に資する取組は理解するものの、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、また、今後更なる通信量の増加も予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。
定量Ｄ２	1.5GHz帯・通信量	1.5GHz帯（4G）について、北海道の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和５年度は北陸・近畿において減少していた。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量Ｄ３	2GHz帯・通信量	2GHz帯（4G＋5G）について、関東・近畿・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量Ｄ４	3.5GHz帯・通信量	3.5GHz帯（4G＋5G）について、中国の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和５年度は北陸・近畿において減少していた。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量Ｄ５	28GHz帯・通信量	28GHz帯（5G）について、全国、各総通（北陸・四国・九州を除く）の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、他地域では基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：九州の基地局数は1.7倍に対し、通信量は1.1倍）。これら要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。		
○通信量以外				
定量Ｄ６	2GHz帯・人口カバー率 面積カバー率	2GHz帯（3G帯域）について、東北の人口カバー率が50%以上70%未満、面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。 この要因及び2GHz帯（3G帯域）の4G・5Gへのマイグレーションに係る今後の計画を教えてください。	【Ｒ５から改善】 本年度より3G帯域（5MHz幅：2145～2150MHz）では、当該帯域を利用する4G・5Gの合算値による調査報告が行われた。東北の人口カバー率は拡大しているものの、50%以上70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっている要因及び4G・5Gへのマイグレーションに係る今後の計画を確認する。	前年度に比べ、3Gの全国の基地局数、人口カバー率、面積カバー率は大きく減少。同社によれば、3G利用帯域においては4G又は5Gにマイグレーションを図るとしている。3Gからマイグレーションを図ることは、電波の有効利用の観点からは望ましいことから、評価の在り方を検討していく。

NTTドコモに対するヒアリング項目案（一覧）②

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量D7	2GHz帯 ・ 技術導入状況	2GHz帯（4G＋5G）について、関東における4MIMOの導入局数が減少している。 この要因を教えてください。	【R６新規】 関東における4MIMOの局数が減少し、前年度実績値－30%未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この減少要因について確認する。	－
定量D8	3.5GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	3.5GHz帯（4G＋5G）について、九州・沖縄の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度も同地域であった。 また、北海道・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和５年度は沖縄のみであった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R５と同様】 人口カバー率は、九州では微減、沖縄では微増しているものの、実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。 面積カバー率は、昨年度は沖縄のみであったが、本年度は北海道・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	九州及び沖縄では人口カバー率は67%台と低く、沖縄の面積カバー率は他社に比べて低い。同社によれば、島嶼部の地理的影響も勘案したトラヒック需要に合わせた展開を実施しているためとしているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。
定量D9	3.7/4.5GHz帯 ・ 全般	Sub6の3.7GHz帯（5G）及び4.5GHz帯（5G）の人口カバー率について、全体的に4.5GHz帯が高い傾向にある。また、3.7GHz帯の関東・東海・沖縄の人口カバー率は10.0%未満と低いカバー率となっている。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について教えてください。※カバー率拡大方針は、「共携1」に同じ。	【R６新規】 NTTドコモは、Sub6において3.7 GHz帯と4.5GHz帯の２バンドを割当てられている。人口カバー率は、全体的に4.5GHz帯が高い傾向にあり、また、3.7GHz帯ではトラヒック需要が高いと想定される関東・東海の率が特に低い。この要因及び今後のカバー率拡大方針について確認する。	－
定量D10	3.7/4.5/28GHz帯 ・ 5G高度特定基地局数/5G基盤展開率	北海道・九州・沖縄の5G高度特定基地局数が開設計画値未満、北海道・関東・近畿・九州・沖縄の5G基盤展開率が開設計画値未満となっている。 この要因を教えてください。	【R６新規】 北海道・九州・沖縄の5G高度特定基地局数、また、北海道・関東・近畿・九州・沖縄の5G基盤展開率が、いずれも開設計画値未満（実績評価：C評価に該当）となっている。この要因について確認する。	－
定量D11	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、北海道・九州の基地局数が開設計画値未満となっている。 また、全国・関東・北陸・東海・近畿の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。 これらの要因及び今後の改善・展開方針を教えてください。	【R６新規】 北海道・九州の基地局数が開設計画値未満（実績評価：**D評価**に該当）となっている。 また、全国・関東・北陸・東海・近畿において、基地局数が周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。これらの要因及び今後の改善・展開方針について確認する。	－

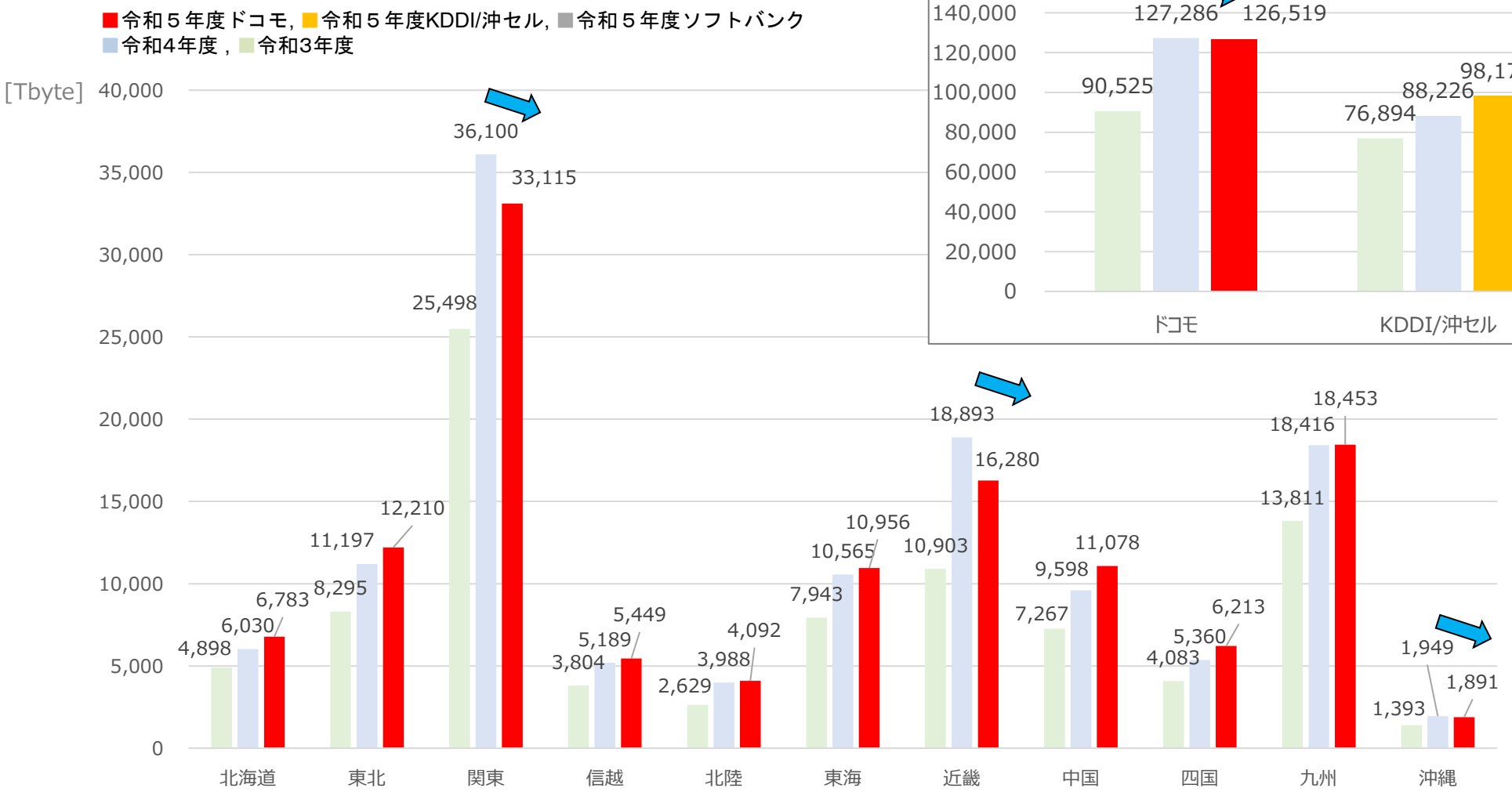
※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

NTTドコモに対するヒアリング項目案
（詳細）

NTTドコモ　D１　８００MHｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 D１	800MHz帯 ・ 通信量	800MHz帯（4G）について、全国・関東・近畿・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 全国・関東・近畿・沖縄の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	700MHz帯（東北・北陸） 1.5GHz帯（北陸・近畿） 3.5GHz帯（北陸・近畿）

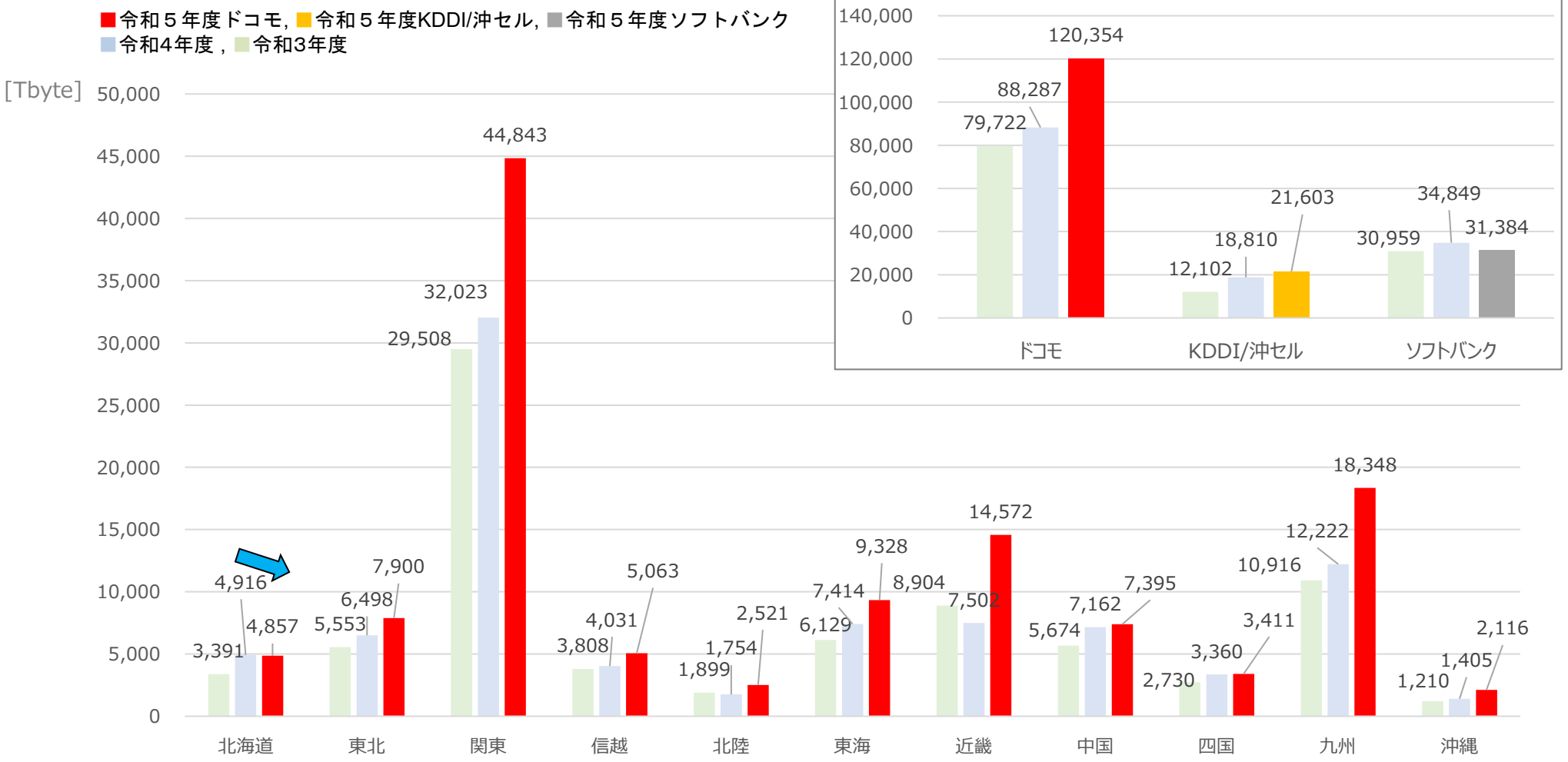
○令和５/６年度調査結果　800MHz帯　ドコモ　通信量（月間総トラヒック）



NTTドコモ　D２　１．５GHz帯・通信量

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D2	1.5GHz帯 ・ 通信量	1.5GHz帯（4G）について、北海道の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和５年度は北陸･近畿において減少していた。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 北海道の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	700MHz帯（東北･北陸） 1.5GHz帯（北陸･近畿） 3.5GHz帯（北陸･近畿）

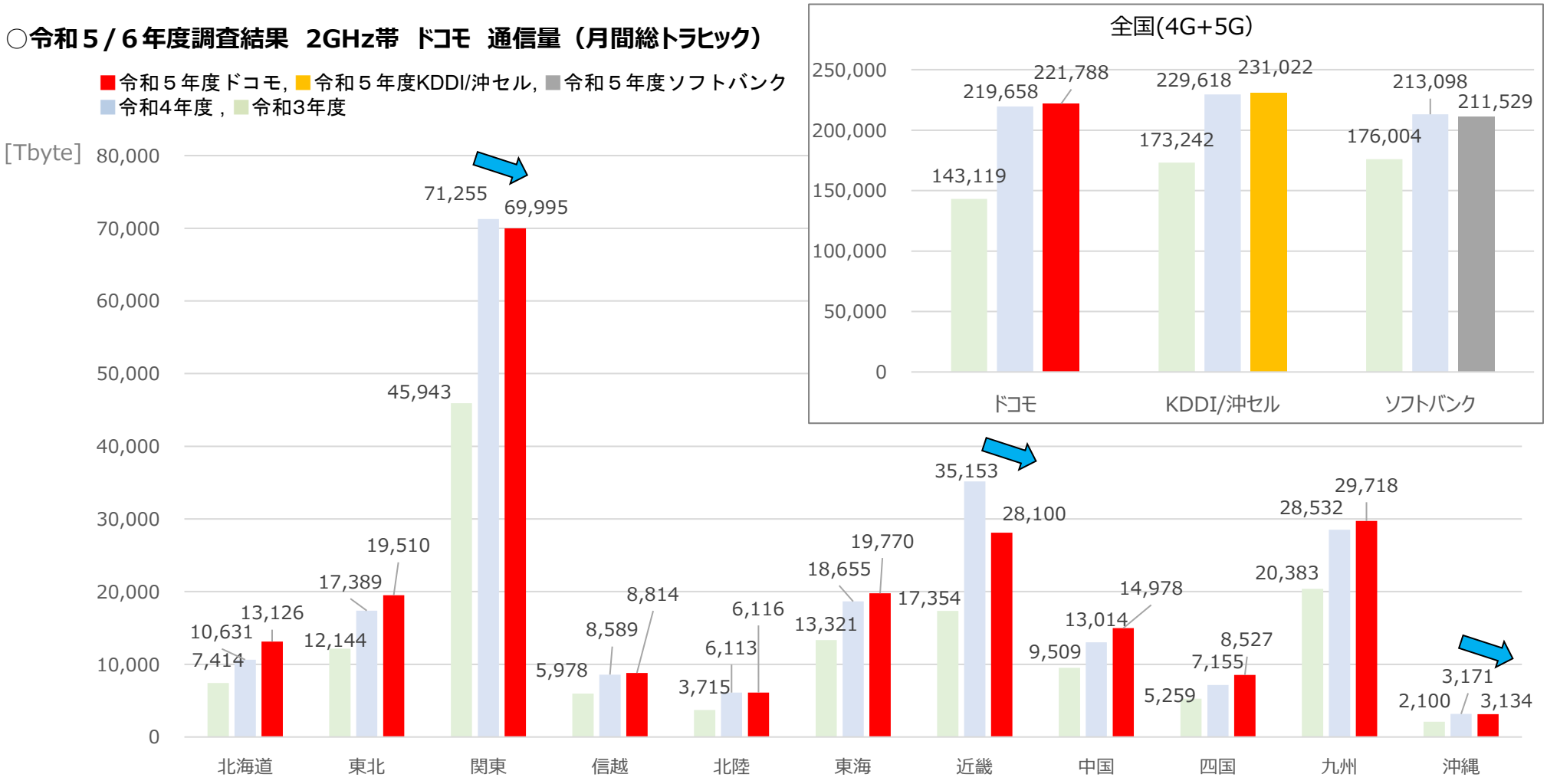
○令和５/６年度調査結果　1.5GHz帯　ドコモ　通信量（月間総トラヒック）



NTTドコモ　D３　２GHz帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D3	2GHz帯 ・ 通信量	2GHz帯（4G＋5G）について、関東・近畿・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 関東・近畿・沖縄の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	700MHz帯（東北・北陸） 1.5GHz帯（北陸・近畿） 3.5GHz帯（北陸・近畿）

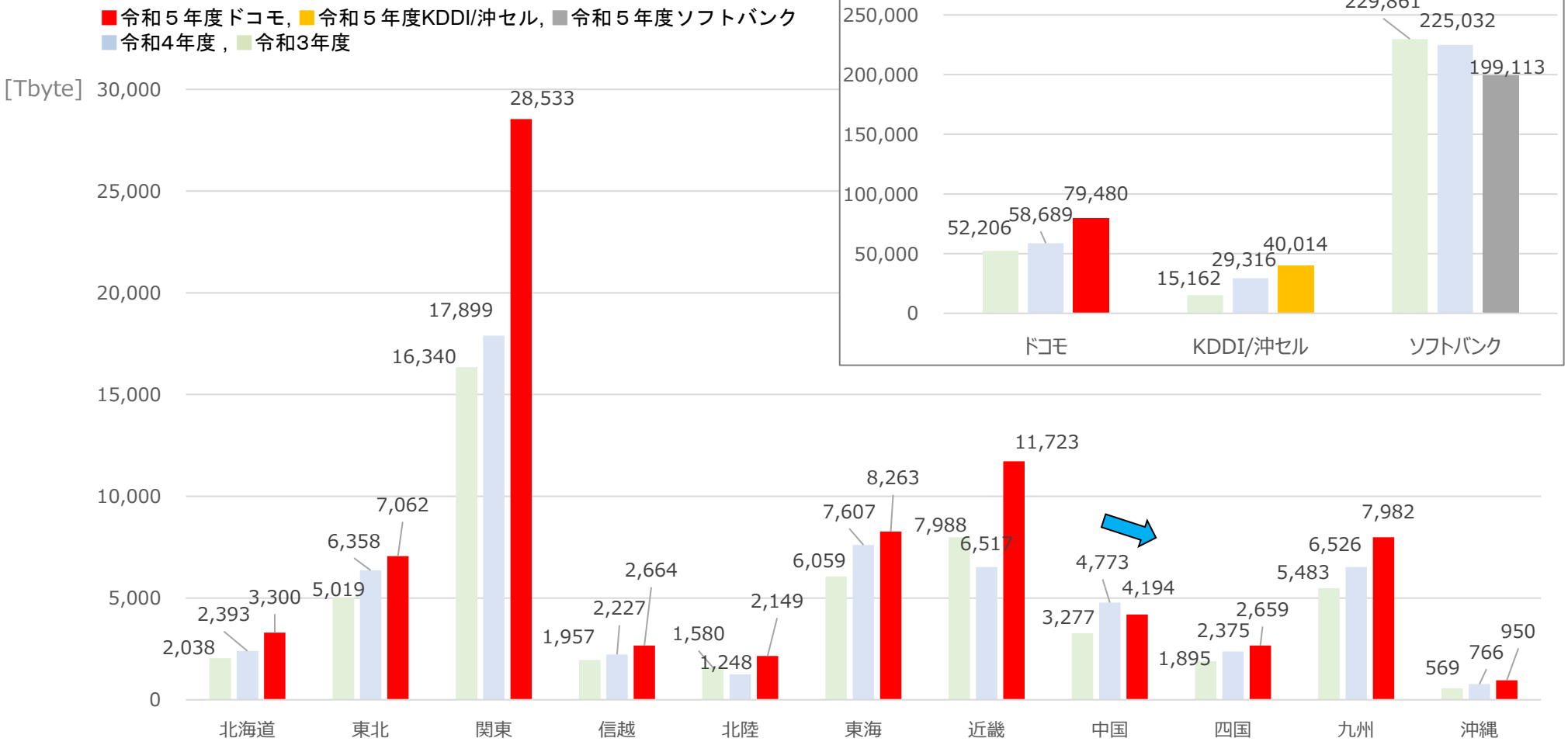
○令和５/６年度調査結果　2GHz帯　ドコモ　通信量（月間総トラヒック）



NTTドコモ　D４　３．５GHz帯・通信量

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D4	3.5GHz帯 ・ 通信量	3.5GHz帯（4G＋5G）について、中国の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和５年度は北陸･近畿において減少していた。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 中国の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	700MHz帯（東北･北陸） 1.5GHz帯（北陸･近畿） 3.5GHz帯（北陸･近畿）

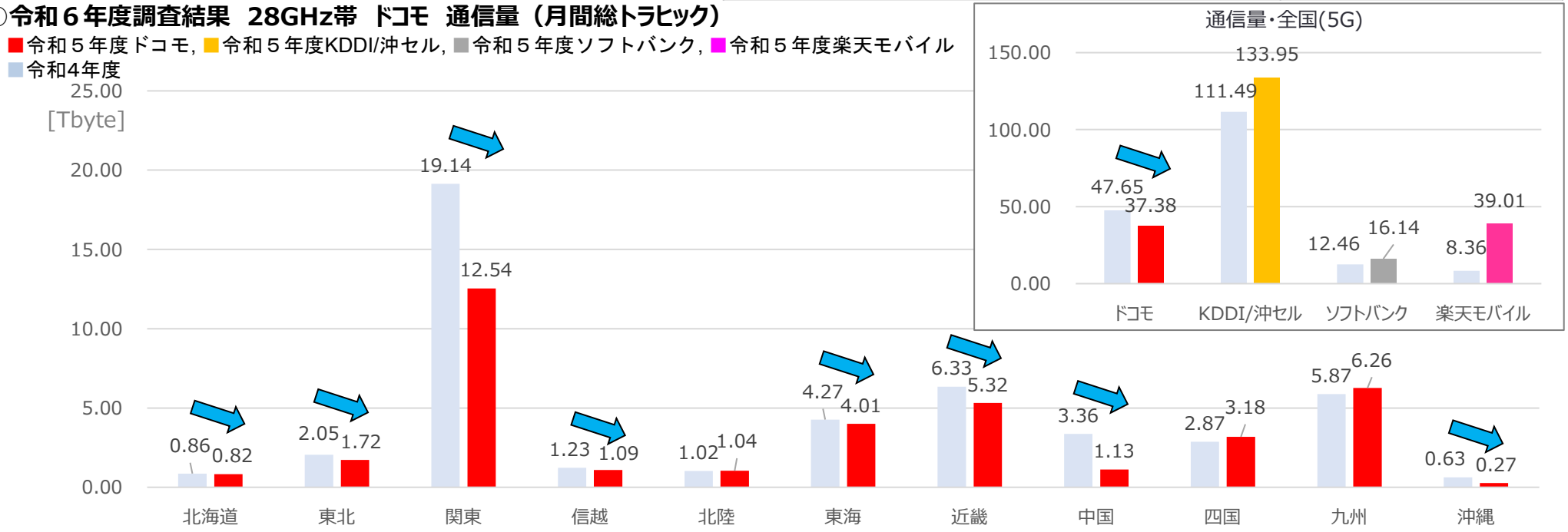
○令和５/６年度調査結果　3.5GHz帯　ドコモ　通信量（月間総トラヒック）



NTTドコモ　D５　２８GHz帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D5	28GHz帯 ・ 通信量	28GHz帯（5G）について、全国、各総通（北陸・四国・九州を除く）の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、他地域では基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：九州の基地局数は1.7倍に対し、通信量は1.1倍）。これら要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。	【R６新規】全国、各総通（北陸・四国・九州を除く）の通信量は、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっている。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：九州の基地局数は1.7倍に対し、通信量は1.1倍）。これら要因及び今後の通信量の増減見通しについて確認する。	700MHz帯（東北・北陸） 1.5GHz帯（北陸・近畿） 3.5GHz帯（北陸・近畿）

○令和６年度調査結果　28GHz帯　ドコモ　通信量（月間総トラヒック）



○令和６年度調査結果　28GHz帯　ドコモ　基地局数・屋外と通信量（月間総トラヒック）の増減比較

	全国			北海道			東北			関東			信越			北陸		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	2,969	5,144	1.73 倍	441	870	1.97 倍	431	770	1.79 倍	389	780	2.01 倍	179	338	1.89 倍	115	150	1.30 倍
通信量[Tbyte]	47.65	37.38	0.78 倍	0.86	0.82	0.95 倍	2.05	1.72	0.84 倍	19.14	12.54	0.66 倍	1.23	1.09	0.88 倍	1.02	1.04	1.02 倍

	東海			近畿			中国			四国			九州			沖縄		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	261	397	1.52 倍	359	538	1.50 倍	282	392	1.39 倍	140	243	1.74 倍	338	584	1.73 倍	34	82	2.41 倍
通信量[Tbyte]	4.27	4.01	0.94 倍	6.33	5.32	0.84 倍	3.36	1.13	0.34 倍	2.87	3.18	1.11 倍	5.87	6.26	1.07 倍	0.63	0.27	0.44 倍

NTTドコモ　D６　２GHz帯・カバー率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D6	2GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	2GHz帯（3G帯域）について、東北の人口カバー率が50%以上70%未満、面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。 この要因及び2GHz帯（3G帯域）の4G・5Gへのマイグレーションに係る今後の計画を教えてください。	【R５から改善】 本年度より3G帯域（5MHz幅：2145～2150MHz）では、当該帯域を利用する4G・5Gの合算値による調査報告が行われた。 東北の人口カバー率は拡大しているものの、50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている要因及び4G・5Gへのマイグレーションに係る今後の計画を確認する。	前年度に比べ、3Gの全国の基地局数、人口カバー率、面積カバー率は大きく減少。同社によれば、3G利用帯域においては4G又は5Gにマイグレーションを図るとしている。3Gからマイグレーションを図ることは、電波の有効利用の観点からは望ましいことから、評価の在り方を検討していく。

○令和６年度　評価（暫定）

R６実績評価（暫定）【3G※】※3G帯域を利用する4G・5Gとの合算値

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量（※2）	技術導入状況（※3）	総合的な評価（※4）
	評価	計画値差（※1）	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	-	-	36,532	A	90.21%	B	78.87%	27.48%	-	-	A
北海道	-	-	2,008	S	96.75%	B	85.70%	19.54%	-	-	S
東北	-	-	1,351	C	64.05%	C	55.51%	13.61%	-	-	C
関東	-	-	10,428	A	91.37%	B	83.13%	47.50%	-	-	A
信越	-	-	1,228	B	78.99%	B	73.49%	21.79%	-	-	B
北陸	-	-	1,605	S	96.18%	B	86.16%	33.88%	-	-	S
東海	-	-	4,470	A	94.13%	B	74.56%	32.70%	-	-	A
近畿	-	-	6,602	S	97.57%	B	84.77%	36.90%	-	-	S
中国	-	-	2,945	A	93.80%	B	80.77%	35.04%	-	-	A
四国	-	-	1,492	A	93.07%	A	95.65%	36.72%	-	-	A
九州	-	-	3,950	B	84.11%	B	79.19%	31.20%	-	-	B
沖縄	-	-	453	A	91.45%	B	79.78%	46.24%	-	-	A

R６進捗評価（暫定）【3G※】※3G帯域を利用する4G・5Gとの合算値

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量（※1）	技術導入状況（※2）
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+2,902	36,532	S	+2.67	90.21%	S	+2.39	27.48%	S	-	-
北海道	A	+27	2,008	A	+0.28	96.75%	A	+0.06	19.54%	A	-	-
東北	S	+521	1,351	S	+14.04	64.05%	S	+3.38	13.61%	S	-	-
関東	A	-493	10,428	A	+0.15	91.37%	A	+0.38	47.50%	A	-	-
信越	A	+4	1,228	A	+0.05	78.99%	A	+0.02	21.79%	A	-	-
北陸	S	+872	1,605	S	+9.36	96.18%	S	+8.05	33.88%	S	-	-
東海	A	-51	4,470	A	-0.24	94.13%	A	-0.11	32.70%	A	-	-
近畿	S	+523	6,602	S	+1.66	97.57%	S	+2.02	36.90%	S	-	-
中国	S	+409	2,945	S	+2.57	93.80%	S	+5.04	35.04%	S	-	-
四国	S	+370	1,492	S	+2.92	93.07%	S	+4.63	36.72%	S	-	-
九州	S	+730	3,950	S	+9.32	84.11%	S	+6.43	31.20%	S	-	-
沖縄	A	-10	453	A	+0.87	91.45%	S	+1.30	46.24%	S	-	-

○（参考）令和５年度　評価

R５実績評価【3G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量（※2）	技術導入状況（※3）	総合的な評価（※4）
	評価	計画値差（※1）	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	-	-	33,630	B	87.54%	B	74.5%	25.09%	-	-	B
北海道	-	-	1,981	S	96.47%	B	85.4%	19.48%	-	-	S
東北	-	-	830	C	50.01%	C	44.7%	10.23%	-	-	C
関東	-	-	10,921	A	91.22%	B	82.7%	47.12%	-	-	A
信越	-	-	1,224	B	78.94%	B	73.1%	21.77%	-	-	B
北陸	-	-	733	B	86.82%	B	73.2%	25.83%	-	-	B
東海	-	-	4,521	A	94.37%	B	74.6%	32.81%	-	-	A
近畿	-	-	6,079	S	95.91%	B	81.9%	34.88%	-	-	S
中国	-	-	2,536	A	91.23%	B	73.3%	30.00%	-	-	A
四国	-	-	1,122	A	90.15%	B	88.6%	32.09%	-	-	A
九州	-	-	3,220	B	74.79%	C	68.4%	24.77%	-	-	B
沖縄	-	-	463	A	90.58%	B	78.4%	44.94%	-	-	A

R５進捗評価【3G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量（※1）	技術導入状況（※2）
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	C	-11,736	33,630	C	-7.92	87.54%	C	-5.50	25.09%	C	-	-
北海道	C	-870	1,981	B	-1.59	96.47%	B	-3.16	19.48%	C	-	-
東北	C	-1,805	830	C	-19.20	50.01%	B	-3.61	10.23%	C	-	-
関東	C	-3,654	10,921	C	-8.10	91.22%	C	-13.35	47.12%	C	-	-
信越	C	-1,083	1,224	C	-16.61	78.94%	C	-9.14	21.77%	C	-	-
北陸	C	-221	733	C	-5.89	86.82%	B	-2.58	25.83%	C	-	-
東海	C	-1,158	4,521	B	-3.56	94.37%	B	-3.46	32.81%	C	-	-
近畿	B	-534	6,079	B	-2.86	95.91%	C	-5.74	34.88%	C	-	-
中国	A	-15	2,536	A	-0.18	91.23%	B	-1.70	30.00%	B	-	-
四国	C	-605	1,122	C	-5.30	90.15%	C	-6.62	32.09%	C	-	-
九州	C	-1,663	3,220	C	-19.18	74.79%	C	-9.20	24.77%	C	-	-
沖縄	C	-128	463	C	-7.90	90.58%	C	-5.09	44.94%	C	-	-

NTTドコモ　D７　２GHz帯・技術導入状況

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 D7	2GHz帯 ・ 技術導入状況	2GHz帯（4G＋5G）について、関東における4MIMOの導入局数が減少している。 この要因を教えてください。	【R６新規】 関東における4MIMOの局数が減少し、前年度実績値－30%未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この減少要因について確認する。	－

○令和６年度調査結果　２GHz帯　技術導入状況

+10%超え　±10%以内　−10%未満、−30%以上　−30%未満

		ドコモ(4G+5G)								KDDI/沖セル(4G)							ソフトバンク(4G+5G)							
		CA	2MIMO	4MIMO	8MIMO	MMIMO	256QAM	UL64QAM	SA	CA	2MIMO	4MIMO	8MIMO	MMIMO	256QAM	UL64QAM	CA	2MIMO	4MIMO	8MIMO	MMIMO	256QAM	UL64QAM	SA
全国	R6	46,432	58,718	6	0	0	45,217	45,136	0	42,113	42,556	204	0	0	23,944	42,227	46,392	41,386	0	0	0	46,328	45,844	3
	R5	47,421	58,484	6	0	0	44,575	44,570	−	41,544	42,784	205	0	0	22,633	41,600	43,655	40,655	0	0	0	44,374	42,827	−
	比率	-2.09%	0.40%	0.00%	−	−	1.44%	1.27%	−	1.37%	-0.53%	-0.49%	−	−	5.79%	1.51%	6.27%	1.80%	−	−	−	4.40%	7.04%	−
北海道	R6	3,009	3,560	0	0	0	2,886	2,886	0	1,616	1,535	1	0	0	991	1,615	1,669	1,583	0	0	0	1,719	1,719	0
	R5	3,006	3,539	0	0	0	2,810	2,810	−	1,523	1,546	1	0	0	960	1,611	1,623	1,523	0	0	0	1,623	1,604	−
	比率	0.10%	0.59%	−	−	−	2.70%	2.70%	−	6.11%	-0.71%	0.00%	−	−	3.23%	0.25%	2.83%	3.94%	−	−	−	5.91%	7.17%	−
東北	R6	3,939	4,881	0	0	0	3,260	3,260	0	2,774	2,733	1	0	0	1,952	2,746	2,463	2,377	0	0	0	2,478	2,509	1
	R5	3,929	4,964	0	0	0	3,205	3,205	−	2,736	2,728	1	0	0	1,888	2,719	2,383	2,356	0	0	0	2,404	2,408	−
	比率	0.25%	-1.67%	−	−	−	1.72%	1.72%	−	1.39%	0.18%	0.00%	−	−	3.39%	0.99%	3.36%	0.89%	−	−	−	3.08%	4.19%	−
関東	R6	15,234	18,985	3	0	0	15,039	15,039	0	15,056	15,625	104	0	0	8,746	15,244	15,295	12,628	0	0	0	15,264	14,745	0
	R5	15,156	18,904	5	0	0	14,901	14,901	−	14,914	15,814	102	0	0	7,967	14,845	14,242	12,440	0	0	0	14,845	14,066	−
	比率	0.51%	0.43%	-40.00%	−	−	0.93%	0.93%	−	0.95%	-1.20%	1.96%	−	−	9.78%	2.69%	7.39%	1.51%	−	−	−	2.82%	4.83%	−
信越	R6	1,906	2,693	0	0	0	1,861	1,861	0	1,158	1,162	0	0	0	408	1,168	1,662	1,458	0	0	0	1,655	1,663	0
	R5	1,893	2,718	0	0	0	1,846	1,846	−	1,151	1,162	0	0	0	372	1,160	1,525	1,423	0	0	0	1,512	1,400	−
	比率	0.69%	-0.92%	−	−	−	0.81%	0.81%	−	0.61%	0.00%	−	−	−	9.68%	0.69%	8.98%	2.46%	−	−	−	9.46%	18.79%	−
北陸	R6	1,521	1,891	0	0	0	1,527	1,527	0	1,028	1,022	0	0	0	651	1,029	1,268	1,193	0	0	0	1,275	1,277	0
	R5	1,509	1,877	0	0	0	1,499	1,499	−	1,010	1,022	0	0	0	625	1,021	1,214	1,175	0	0	0	1,214	1,208	−
	比率	0.80%	0.75%	−	−	−	1.87%	1.87%	−	1.78%	0.00%	−	−	−	4.16%	0.78%	4.45%	1.53%	−	−	−	5.02%	5.71%	−
東海	R6	5,015	7,171	1	0	0	5,256	5,540	0	5,384	5,481	11	0	0	2,098	5,502	6,353	5,999	0	0	0	6,386	6,384	0
	R5	5,012	7,161	1	0	0	5,241	5,525	−	5,332	5,489	10	0	0	1,896	5,435	6,222	5,913	0	0	0	6,213	5,979	−
	比率	0.06%	0.14%	0.00%	−	−	0.29%	0.27%	−	0.98%	-0.15%	10.00%	−	−	10.65%	1.23%	2.11%	1.45%	−	−	−	2.78%	6.77%	−
近畿	R6	5,850	7,377	2	0	0	5,129	5,129	0	7,374	7,268	26	0	0	4,152	7,210	8,828	8,149	0	0	0	8,798	8,701	0
	R5	7,058	7,294	0	0	0	4,887	4,887	−	7,374	7,309	28	0	0	3,978	7,147	8,434	8,069	0	0	0	8,552	8,431	−
	比率	-17.12%	1.14%	−	−	−	4.95%	4.95%	−	0.00%	-0.56%	-7.14%	−	−	4.37%	0.88%	4.67%	0.99%	−	−	−	2.88%	3.20%	−
中国	R6	2,685	3,233	0	0	0	2,681	2,682	0	1,987	1,987	25	0	0	1,495	1,975	2,652	2,377	0	0	0	2,547	2,580	0
	R5	2,502	3,185	0	0	0	2,647	2,647	−	1,972	1,985	27	0	0	1,496	1,971	2,325	2,273	0	0	0	2,327	2,220	−
	比率	7.31%	1.51%	−	−	−	1.28%	1.32%	−	0.76%	0.10%	-7.41%	−	−	-0.07%	0.20%	14.06%	4.58%	−	−	−	9.45%	16.22%	−
四国	R6	1,691	2,333	0	0	0	1,515	1,647	0	1,238	1,247	11	0	0	736	1,265	1,213	1,134	0	0	0	1,218	1,241	0
	R5	1,653	2,315	0	0	0	1,476	1,596	−	1,216	1,246	11	0	0	740	1,262	1,116	1,094	0	0	0	1,116	1,121	−
	比率	2.30%	0.78%	−	−	−	2.64%	3.20%	−	1.81%	0.08%	0.00%	−	−	-0.54%	0.24%	8.69%	3.66%	−	−	−	9.14%	10.70%	−
九州	R6	5,035	5,926	0	0	0	5,482	5,023	0	3,862	3,860	24	0	0	2,124	3,837	4,562	4,072	0	0	0	4,562	4,592	2
	R5	5,152	5,868	0	0	0	5,482	5,106	−	3,681	3,848	24	0	0	2,120	3,794	4,164	3,993	0	0	0	4,162	4,005	−
	比率	-2.27%	0.99%	−	−	−	0.00%	-1.63%	−	4.92%	0.31%	0.00%	−	−	0.19%	1.13%	9.56%	1.98%	−	−	−	9.61%	14.66%	−
沖縄	R6	547	668	0	0	0	581	542	0	636	636	1	0	0	591	636	427	416	0	0	0	426	433	0
	R5	551	659	0	0	0	581	548	−	635	635	1	0	0	591	635	407	396	0	0	0	406	385	−
	比率	-0.73%	1.37%	−	−	−	0.00%	-1.09%	−	0.16%	0.16%	0.00%	−	−	0.00%	0.16%	4.91%	5.05%	−	−	−	4.93%	12.47%	−

（注）2MIMO, 4MIMO, 8MIMOの基地局数はMMIMOの基地局数を含まない

NTTドコモ　D８　３．５GHz帯・人口/面積カバー率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考） R５評価概要
定量 D8	3.5GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	3.5GHz帯（4G＋5G）について、九州・沖縄の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度も同地域であった。また、北海道・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和５年度は沖縄のみであった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R５と同様】 人口カバー率は、九州では微減、沖縄では微増しているものの、実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。 面積カバー率は、昨年度は沖縄のみであったが、本年度は北海道・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	九州及び沖縄では人口カバー率は67%台と低く、沖縄の面積カバー率は他社に比べて低い。同社によれば、島嶼部の地理的影響も勘案したトラヒック需要に合わせた展開を実施しているためとしているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

○令和６年度　評価（暫定）

R６実績評価（暫定）【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+8,503	26,089	B	79.55%	A	93.28%	11.66%	B	B	B
北海道	B	+452	988	B	76.46%	C	60.27%	2.67%	B	B	B
東北	B	+610	1,628	B	79.18%	A	97.35%	12.50%	B	B	B
関東	B	+2,523	10,154	B	78.87%	A	109.64%	22.40%	B	B	B
信越	B	+129	756	B	79.14%	A	104.61%	15.65%	B	B	B
北陸	B	+242	701	B	85.86%	A	102.82%	19.31%	B	B	B
東海	B	+1,068	2,642	B	83.61%	A	97.64%	18.21%	B	B	B
近畿	B	+1,880	4,720	B	88.09%	A	99.68%	15.82%	B	B	B
中国	B	+290	1,221	B	75.24%	B	89.90%	11.57%	B	B	B
四国	B	+342	872	B	80.23%	A	105.96%	12.27%	B	B	B
九州	B	+867	2,191	C	67.29%	C	69.11%	8.66%	B	B	C
沖縄	B	+100	216	C	67.89%	C	42.25%	8.67%	B	B	C

R６進捗評価（暫定）【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	-44	26,089	A	-0.14	79.55%	A	-0.02	11.66%	A	B	B
北海道	A	+1	988	A	±0.00	76.46%	A	±0.00	2.67%	A	B	A
東北	A	-3	1,628	A	+0.09	79.18%	A	+0.02	12.50%	A	B	A
関東	A	-36	10,154	A	-0.33	78.87%	A	-0.15	22.40%	A	B	B
信越	A	+0	756	A	±0.00	79.14%	A	±0.00	15.65%	A	B	A
北陸	A	-4	701	A	-0.12	85.86%	A	-0.19	19.31%	A	B	A
東海	A	+2	2,642	A	+0.04	83.61%	A	+0.01	18.21%	A	B	A
近畿	A	-13	4,720	A	+0.02	88.09%	A	+0.01	15.82%	A	B	A
中国	A	+16	1,221	A	-0.10	75.24%	A	-0.04	11.57%	A	C	A
四国	A	+0	872	A	-0.03	80.23%	A	-0.02	12.27%	A	B	B
九州	A	-7	2,191	A	-0.31	67.29%	A	-0.06	8.66%	A	B	A
沖縄	A	±0	216	A	+0.52	67.89%	A	+0.03	8.67%	A	B	A

○（参考）令和５年度　評価

R５実績評価【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+8,547	26,133	B	79.69%	S	116.8%	11.68%	B	B	B
北海道	B	+451	987	B	76.46%	S	140.5%	2.67%	B	B	B
東北	B	+613	1,631	B	79.09%	A	106.7%	12.48%	B	B	B
関東	B	+2,559	10,190	B	79.20%	S	145.5%	22.55%	B	B	B
信越	B	+129	756	B	79.14%	S	122.3%	15.65%	B	B	B
北陸	B	+246	705	B	85.98%	S	116.8%	19.50%	B	B	B
東海	B	+1,066	2,640	B	83.57%	S	119.0%	18.20%	B	B	B
近畿	B	+1,893	4,733	B	88.07%	S	126.5%	15.81%	B	B	B
中国	B	+274	1,205	B	75.34%	A	102.7%	11.61%	B	B	B
四国	B	+342	872	B	80.26%	S	121.7%	12.29%	B	B	B
九州	B	+874	2,198	C	67.60%	B	85.5%	8.72%	B	B	C
沖縄	B	+100	216	C	67.37%	C	54.7%	8.64%	B	B	C

R５進捗評価【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+70	26,133	S	+1.90	79.69%	A	+0.10	11.68%	S	B	C
北海道	A	+6	987	S	+2.92	76.46%	A	+0.01	2.67%	S	B	A
東北	A	+18	1,631	S	+3.27	79.09%	A	+0.19	12.48%	S	B	S
関東	A	+48	10,190	S	+1.01	79.20%	A	-0.03	22.55%	S	B	C
信越	A	+1	756	S	+2.03	79.14%	A	+0.03	15.65%	S	B	C
北陸	A	-2	705	S	+1.57	85.98%	A	-0.12	19.50%	S	C	A
東海	A	+6	2,640	S	+1.55	83.57%	A	+0.01	18.20%	S	B	C
近畿	A	-15	4,733	S	+1.39	88.07%	A	+0.19	15.81%	S	C	C
中国	A	+1	1,205	S	+2.76	75.34%	A	-0.02	11.61%	S	B	A
四国	A	-2	872	S	+2.43	80.26%	A	+0.05	12.29%	S	B	A
九州	A	+8	2,198	S	+3.21	67.60%	A	+0.17	8.72%	S	B	A
沖縄	A	+1	216	S	+1.02	67.37%	A	+0.17	8.64%	S	B	A

NTTドコモ　D９　３．７/４．５ＧＨｚ帯・全般

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 D9	3.7/4.5GHz帯 ・ 全般	Sub6の3.7GHz帯（5G）及び4.5GHz帯（5G）の人口カバー率について、全体的に4.5GHz帯が高い傾向にある。また、3.7GHz帯の関東・東海・沖縄の人口カバー率は10.0%未満と低いカバー率となっている。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について教えてください。※カバー率拡大方針は、「共携1」に同じ。	【Ｒ６新規】 NTTドコモは、Sub6において3.7 GHz帯と4.5GHz帯の２バンドを割当てられている。人口カバー率は、全体的に4.5GHz帯が高い傾向にあり、また、3.7GHz帯ではトラヒック需要が高いと想定される関東・東海の率が特に低い。この要因及び今後のカバー率拡大方針について確認する。	－

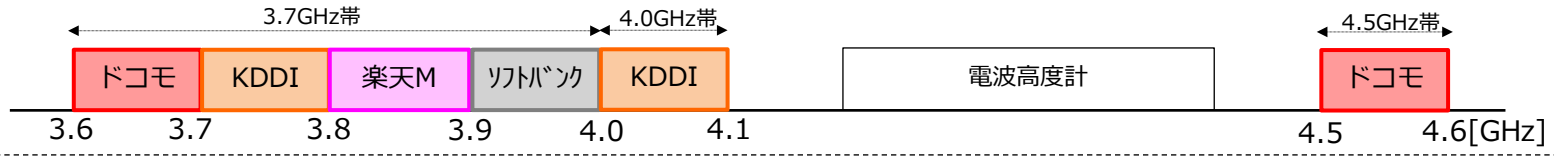
○令和６年度調査結果 【人口カバー率】

注）青字：50%以上、赤字：10%未満

	3.7GHz帯				4.0GHz帯	4.5GHz帯
	ドコモ	KDDI/沖セル	楽天モバイル	ソフトバンク	KDDI/沖セル	ドコモ
全国	23.89% (+3.58)	52.51% (+29.87)	50.59% (+20.09)	43.27% (+11.50)	1.74% (+1.43)	44.69% (+2.22)
北海道	18.61% (+0.49)	76.79% (+33.95)	54.63% (+17.85)	73.79% (+11.29)	2.90% (+2.51)	33.18% (+1.17)
東北	30.26% (+3.19)	53.89% (+25.45)	32.49% (+8.53)	64.30% (+11.24)	2.08% (+1.70)	24.19% (+0.85)
関東	2.34% (+0.62)	35.40% (+24.32)	50.67% (+23.19)	18.55% (+6.32)	1.43% (+1.36)	51.05% (+2.33)
信越	66.72% (+5.90)	52.08% (+30.65)	35.39% (+9.33)	62.29% (+17.97)	1.14% (+1.02)	25.24% (+5.35)
北陸	63.41% (+1.07)	58.23% (+30.09)	32.55% (+9.88)	75.62% (+10.84)	1.68% (+1.52)	26.89% (+0.72)
東海	3.14% (+0.32)	45.63% (+31.87)	52.19% (+33.93)	37.70% (+14.92)	0.57% (+0.47)	59.76% (+4.13)
近畿	31.66% (+15.11)	72.15% (+39.93)	76.79% (+20.46)	54.51% (+17.71)	0.52% (+0.52)	61.82% (+2.20)
中国	57.64% (+1.90)	65.34% (+27.12)	30.87% (+11.19)	61.84% (+7.11)	2.05% (+1.82)	28.71% (+0.96)
四国	68.39% (+1.67)	70.14% (+42.04)	34.38% (+13.93)	69.19% (+13.43)	1.87% (+1.40)	14.97% (+1.05)
九州	55.23% (+2.31)	65.79% (+31.50)	45.73% (+15.71)	63.14% (+16.24)	1.45% (+1.35)	22.75% (+1.36)
沖縄	5.93% (+1.22)	38.09% (+14.52)	17.67% (+5.11)	9.27% (+7.01)	36.65% (+20.27)	57.19% (+2.51)

※（〇）は昨年度実績値との比較

<各社への割当て周波数帯>
Sub6（3.7/4.0/4.5GHz帯）



NTTドコモ　D10　５Ｇ高度特定基地局数/５Ｇ基盤展開率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 D10	3.7/4.5/ 28GHz帯 ・ 5G高度特定基地局数/5G基盤展開率	北海道・九州・沖縄の5G高度特定基地局数が開設計画値未満、北海道・関東・近畿・九州・沖縄の5G基盤展開率が開設計画値未満となっている。 この要因を教えてください。	【Ｒ６新規】 北海道・九州・沖縄の5G高度特定基地局数、また、北海道・関東・近畿・九州・沖縄の5G基盤展開率が、いずれも開設計画値未満（実績評価：C評価に該当）となっている。この要因について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間中>（暫定）

Ｒ６実績評価＜認定の有効期間中＞（暫定）【5G】

	基地局数（屋外）			基地局数（屋内）			評価	5G高度特定基地局数			5G基盤展開率			評価	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	計画値差	実績値		評価	計画値差	実績値	評価	計画値差	実績値			
全国	A	+2,936	10,937	B	+354	3,852	A	B	+371	4,702	B	+0.25	97.27%	B	A	A
北海道	A	+85	1,026	B	+3	171	A	C	-11	870	C	-0.19	96.52%	C	A	C
東北	S	+223	1,003	B	+49	115	A	B	+37	767	B	+0.93	99.05%	B	A	A
関東	B	+3	2,327	B	±0	1,913	B	S	+202	601	C	-0.27	97.54%	C	A	C
信越	S	+374	723	A	+34	74	S	A	+54	331	B	+0.31	98.51%	A	A	S
北陸	S	+235	395	A	+25	50	S	B	+3	148	A	+1.26	95.45%	A	A	S
東海	B	+79	678	B	+14	307	B	B	+19	338	B	+0.61	99.38%	B	A	B
近畿	B	±0	1,454	B	+19	454	B	A	+62	363	C	-0.34	98.67%	C	A	C
中国	S	+541	932	A	+86	137	S	B	+16	392	B	+0.78	98.70%	B	A	A
四国	S	+495	748	A	+80	118	S	B	+4	242	A	+1.17	95.22%	A	A	S
九州	S	+896	1,564	B	+35	459	A	C	-14	569	C	-0.42	95.31%	C	A	C
沖縄	B	+5	87	B	+9	54	B	C	-1	81	C	-0.12	89.01%	C	A	C

Ｒ６進捗評価＜認定の有効期間中＞（暫定）【5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	5G高度特定基地局数			5G基盤展開率			総合的な評価	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		
全国	A	+2,979	10,937	A	+3.58	23.89%	A	+1.13	6.03%	A	S	+2,019	4,702	S	+42.66	97.27%	S	S
北海道	S	+428	1,026	B	+0.49	18.61%	B	+0.19	0.91%	A	S	+429	870	S	+48.22	96.52%	S	S
東北	S	+395	1,003	A	+3.19	30.26%	B	+0.89	4.02%	A	S	+339	767	S	+45.96	99.05%	S	S
関東	A	+634	2,327	B	+0.62	2.34%	B	+0.89	2.84%	A	S	+289	601	S	+45.72	97.54%	S	S
信越	S	+185	723	S	+5.90	66.72%	A	+2.19	13.80%	S	S	+162	331	S	+50.31	98.51%	S	S
北陸	A	+43	395	A	+1.07	63.41%	B	+0.71	11.42%	A	A	+35	148	S	+23.19	95.45%	S	S
東海	A	+155	678	B	+0.32	3.14%	B	+0.38	1.89%	A	S	+142	338	S	+41.36	99.38%	S	S
近畿	S	+514	1,454	S	+15.11	31.66%	A	+3.03	8.82%	S	S	+117	363	S	+34.64	98.67%	S	S
中国	A	+150	932	A	+1.90	57.64%	A	+1.43	11.26%	A	S	+111	392	S	+29.09	98.70%	S	S
四国	S	+136	748	A	+1.67	68.39%	B	+0.72	10.94%	A	S	+103	242	S	+41.25	95.22%	S	S
九州	A	+292	1,564	A	+2.31	55.23%	A	+2.35	11.57%	A	S	+245	569	S	+42.11	95.31%	S	S
沖縄	S	+47	87	A	+1.22	5.93%	A	+4.82	9.11%	S	S	+47	81	S	+52.05	89.01%	S	S

NTTドコモ　D11　２８ＧＨｚ帯・基地局数

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 D11	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、北海道・九州の基地局数が開設計画値未満となっている。 また、全国・関東・北陸・東海・近畿の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。 これらの要因及び今後の改善・展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 北海道・九州の基地局数が開設計画値未満（実績評価：**D評価**に該当）となっている。 また、全国・関東・北陸・東海・近畿において、基地局数が周波数帯平均値の70％未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっている。これらの要因及び今後の改善・展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数 評価	平均比	計画値差	実績値	通信量	技術導入状況	総合的な評価
全国	C	54.64%	+143	5,144	B	S	C
北海道	D	97.32%	-11	870	B	S	D
東北	B	86.03%	+40	770	B	S	B
関東	C	25.75%	±0	780	B	S	C
信越	B	89.89%	+61	338	B	S	B
北陸	C	66.67%	+5	150	B	S	C
東海	C	45.32%	+25	397	B	S	C
近畿	C	40.60%	+14	538	B	S	C
中国	B	72.86%	+16	392	B	S	B
四国	B	76.18%	+5	243	B	S	B
九州	D	70.02%	-12	584	B	S	D
沖縄	B	78.85%	±0	82	B	S	B

（参考）開設計画値未満（実績評価：**D評価**に該当）となった北海道・九州の詳細

北海道：　開設計画値 881局に対し、
実績値 870局
（**計画値差　－11局**）

九州：　開設計画値 596局に対し、
実績値 584局
（**計画値差　－12局**）

Ｒ６進捗評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数 評価	前年度差	実績値	通信量	技術導入状況
全国	A	+2,175	5,144	C	S
北海道	S	+429	870	C	S
東北	S	+339	770	C	S
関東	A	+391	780	C	S
信越	S	+159	338	C	S
北陸	A	+35	150	B	S
東海	A	+136	397	C	S
近畿	A	+179	538	C	S
中国	A	+110	392	C	S
四国	S	+103	243	B	S
九州	A	+246	584	B	S
沖縄	S	+48	82	C	S

目次

1. 全体概要
ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）
各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））
NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

KDDI/沖縄セルラー電話に対するヒアリング項目案（一覧）①

＊ ・・・【R6新規】:本年度の新たな項目
・・・【R5と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【R5から改善】：昨年度から一部で改善

■KDDI／沖縄セルラー電話：計10問

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
○通信量				
定量K1	800MHz帯・通信量	800MHz帯（4G）について、北海道・東北・北陸・四国の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 800MHz帯（北海道・東北・北陸・四国） 2GHz帯（関東・東海・近畿） 3.5GHz帯（近畿） 28GHz帯（信越） 上記の周波数帯・地域における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 また、ミリ波（28GHz帯）については、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は4.5倍に対し、通信量は1.2倍）要因も併せて確認する。	－
定量K2	2GHz帯・通信量	2GHz帯（4G）について、関東・東海・近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量K3	3.5GHz帯・通信量	3.5GHz帯（4G+5G）について、近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量K4	28GHz帯・通信量	28GHz帯（5G）について、信越の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は4.5倍に対し、通信量は1.2倍）。これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。		
○通信量以外				
定量K5	1.5GHz帯・人口カバー率 面積カバー率	1.5GHz帯（4G）について、北海道・東北・中国・四国・九州の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度はこれらの地域に加え沖縄が該当した。また、北海道・中国・四国・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和５年度も同地域であった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R５から改善】 人口カバー率は、九州は減少、北海道・東北・中国・四国は拡大しているものの、実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。沖縄は拡大し、70%以上90%未満（実績評価：B評価に該当）となった。面積カバー率は、昨年度と同じく、北海道・中国・四国・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	人口カバー率は北海道・東北・中国・四国・九州・沖縄の６地域では50～60%台と低く、面積カバー率は北海道・中国・四国・九州・沖縄において他社に比べて低い。同社によれば、都心部等の高トラヒックエリアに展開する方針であるためとし、トラヒックの動向を注視しながら活用予定としているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

KDDI/沖縄セルラー電話に対するヒアリング項目案（一覧）②

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 K６	2GHz帯 ・ 面積カバー率	2GHz帯（4G）について、四国の面積カバー率が昨年度より減少し、周波数帯平均値の70%を下回っている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 四国の面積カバー率が、昨年度より減少し、周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－
定量 K７	3.7GHz帯 ・ 基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、沖縄の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 沖縄の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－
定量 K８	3.7/4.0GHz帯 ・ 全般	Sub6の3.7GHz帯（5G）及び4.0GHz帯（5G）の人口カバー率について、全体的に3.7GHz帯が高く、4.0GHz帯は沖縄を除き３％未満と低い。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について教えてください。 ※カバー率拡大方針は、「共携1」に同じ。	【R５と同様】 KDDI/沖セルは、Sub6において3.7GHz帯と4.0GHz帯の２バンドを割り当てられている。人口カバー率は、全体的に3.7GHz帯が高く、また、4.0GHz帯は沖縄を除き３％未満と他社のSub6の人口カバー率に比べても大きく低い。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について確認する。	同社によれば、開設計画どおりに基地局を開設しており、5G端末普及に応じて適時適切に4.0GHz帯の展開を進めるとしているが、基地局数及びカバー率は低い。電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、基地局数及びカバー率の拡大について引き続き努力するべきである。
定量 K９	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、沖縄の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 沖縄の基地局数が周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	－
移行 K10	800MHz帯 ・ 3G移行計画	3G移行計画（800MHz帯）に係る主に以下の点について、御社の考え方をご説明ください。 ・移行する周波数 ・移行先通信規格、その理由 ・基地局数、人口カバー率、面積カバー率の目標値、その理由 ・移行方法、その理由 また、御社の3Gサービス終了は令和3年度末であるところ、その５年後である令和8年度末に、沖縄を除き、人口カバー率が80%以上となっていない理由の詳細を教えてください。	【R６新規】 3G移行計画の詳細を聴取する。また、有効利用評価方針における評価基準※に基づくと、3Gサービス終了（令和3年度末）から５年以内となる令和8年度末には、人口カバー率が80%以上となる必要があるが、これを満たしていない。沖縄を除き80%以上となっていない理由を確認する。 ※有効利用評価方針（抜粋） 電波法の免許の有効期間が５年であり、再免許が保障されていないことを勘案し、移行する周波数に係る人口カバー率について、別紙１に示す最も低い人口カバー率の評価の基準を超えるために要する期間は、変更前の通信規格の利用を終了した時点から５年以内として評価を行うものする。ただし、特段の事情がある場合は、これを考慮するものとする。	－

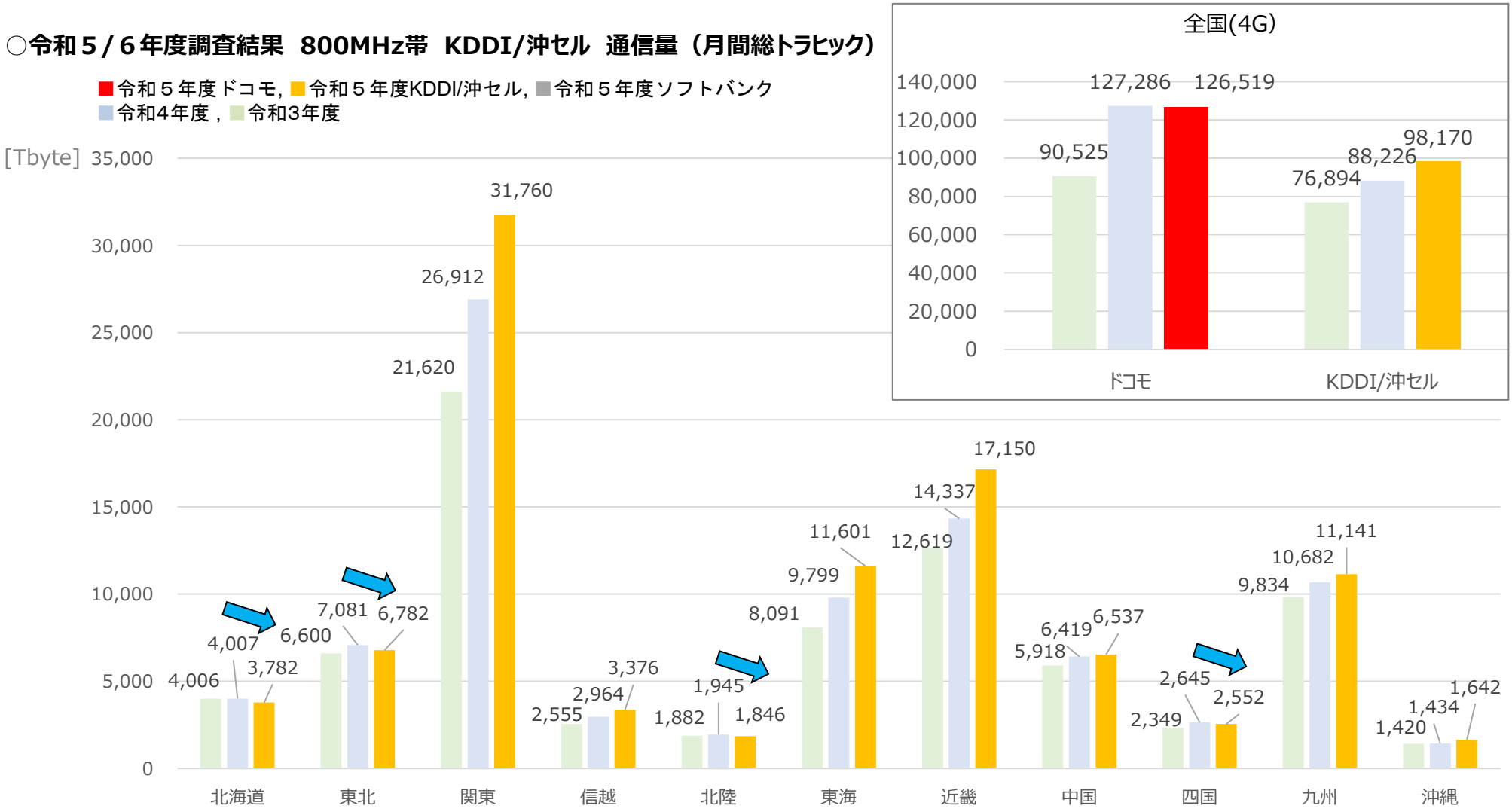
※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

KDDI/沖縄セルラー電話に対するヒアリング項目案
（詳細）

KDDI/沖セル　Ｋ１　８００ＭＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ１	800MHz帯 ・ 通信量	800MHz帯（4G）について、北海道・東北・北陸・四国の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 北海道・東北・北陸・四国の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

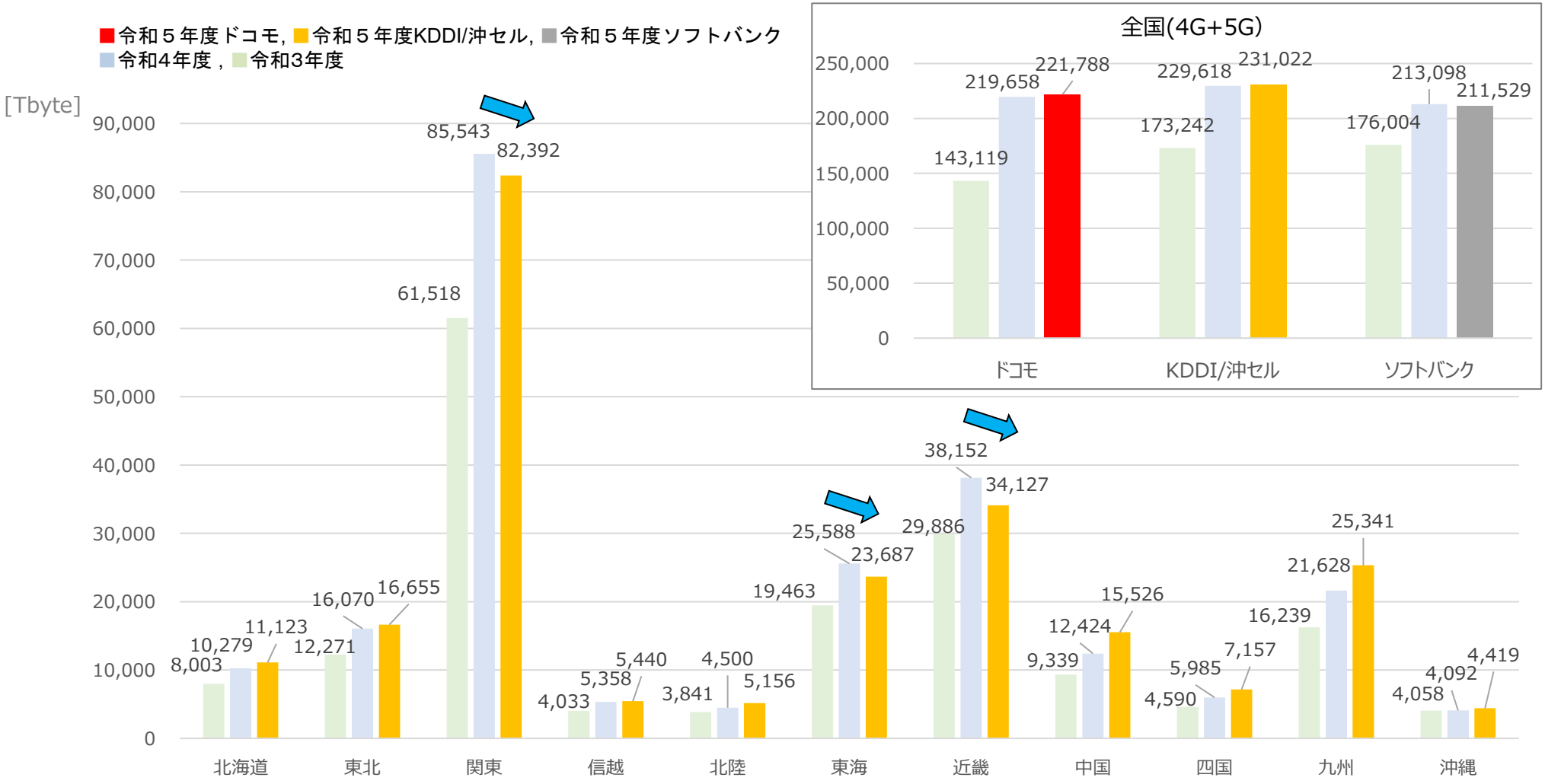
○令和５/６年度調査結果　800MHz帯　KDDI/沖セル　通信量（月間総トラヒック）



KDDI/沖セル　Ｋ２　２ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ２	2GHz帯 ・ 通信量	2GHz帯（4G）について、関東・東海・近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 関東・東海・近畿の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

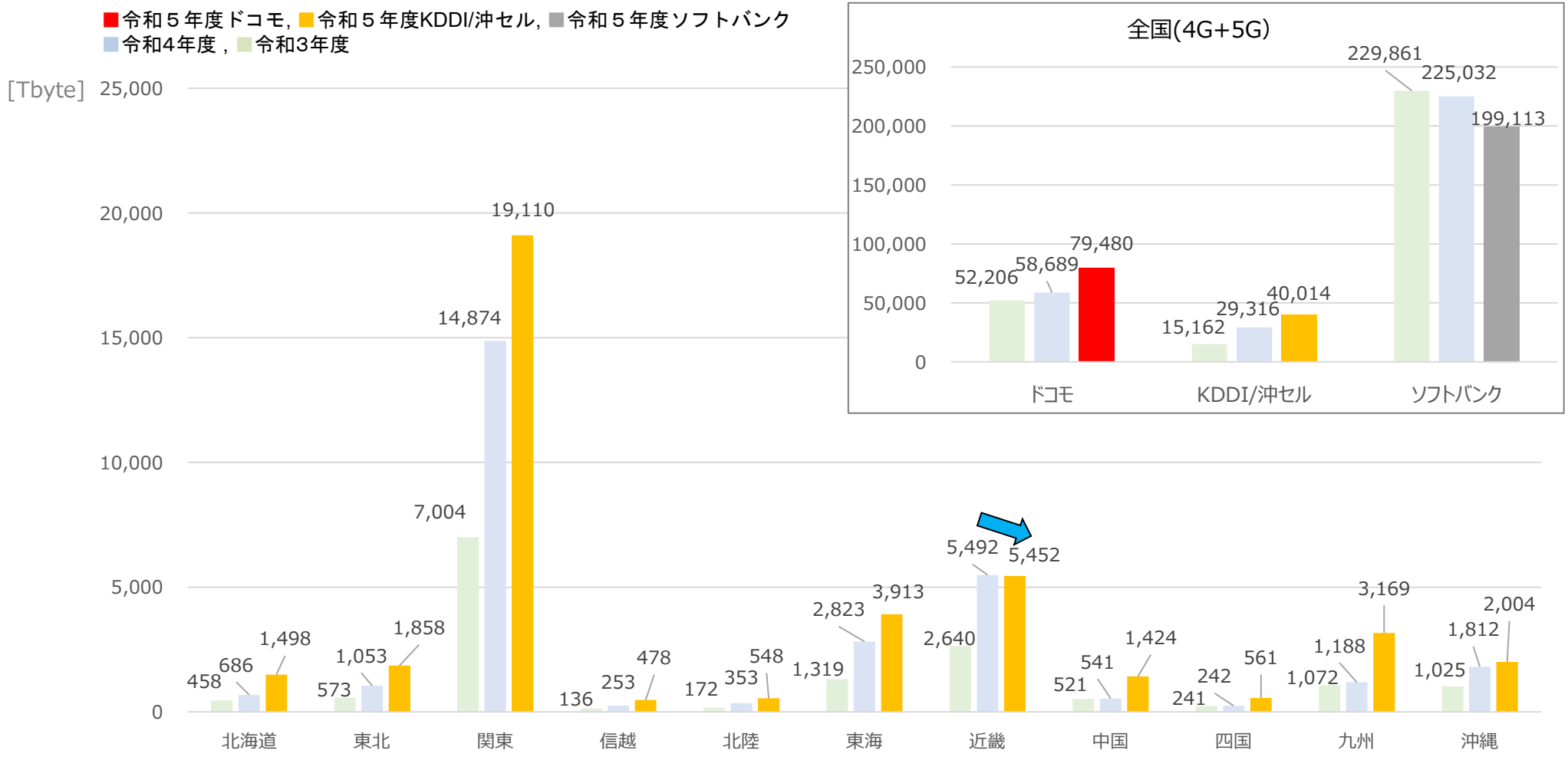
○令和５/６年度調査結果　2GHz帯　KDDI/沖セル　通信量（月間総トラヒック）



KDDI/沖セル　Ｋ３　３．５ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量Ｋ３	3.5GHz帯 ・ 通信量	3.5GHz帯（4G+5G）について、近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 近畿の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

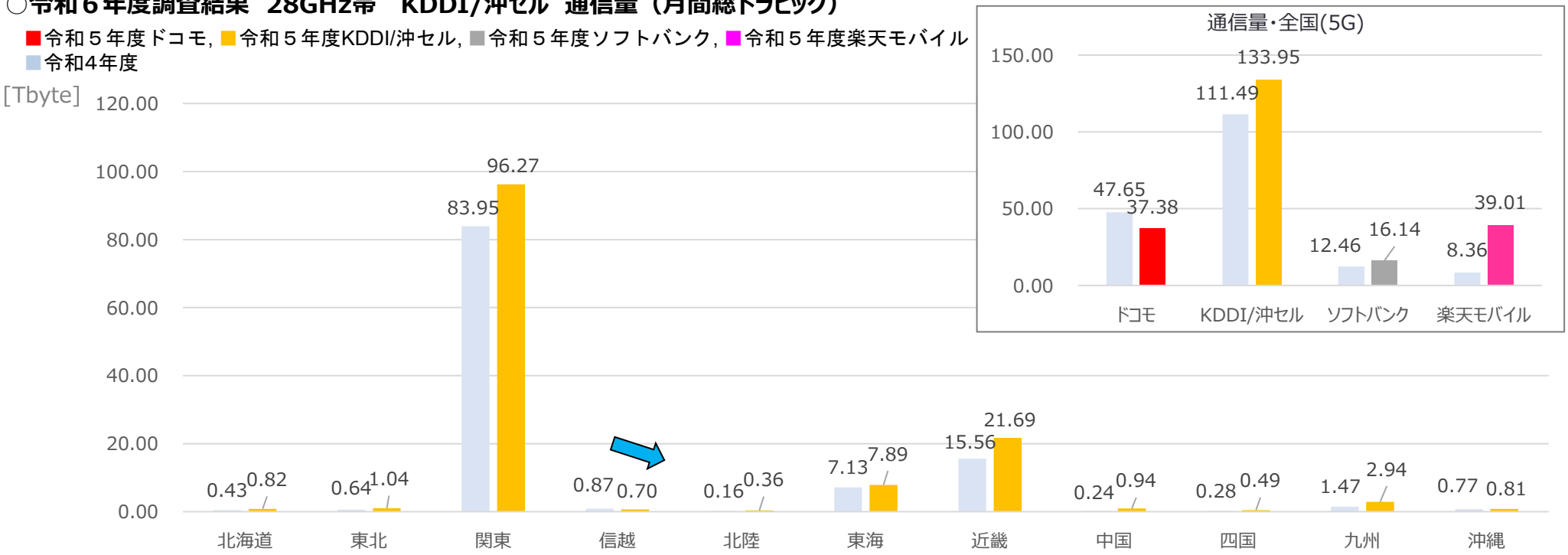
○令和５/６年度調査結果　3.5GHz帯　KDDI/沖セル　通信量（月間総トラヒック）



KDDI/沖セル　Ｋ４　２８ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ４	28GHz帯 ・ 通信量	28GHz帯（5G）について、信越の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は4.5倍に対し、通信量は1.2倍）。これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 信越の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっている。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は4.5倍に対し、通信量は1.2倍）。これら要因及び今後の通信量の増減見通しについて確認する。	－

○令和６年度調査結果　28GHz帯　KDDI/沖セル　通信量（月間総トラヒック）



○令和６年度調査結果　28GHz帯　KDDI/沖セル　基地局数・屋外と通信量（月間総トラヒック）の増減比較

	全国			北海道			東北			関東			信越			北陸		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	2,840	12,763	4.49 倍	116	1,355	11.68 倍	171	1,381	8.08 倍	1,264	3,620	2.86 倍	126	561	4.45 倍	43	378	8.79 倍
通信量[Tbyte]	111.49	133.95	1.20 倍	0.43	0.82	1.90 倍	0.64	1.04	1.64 倍	83.95	96.27	1.15 倍	0.87	0.70	0.81 倍	0.16	0.36	2.25 倍

	東海			近畿			中国			四国			九州			沖縄		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	254	1,151	4.53 倍	310	1,646	5.31 倍	115	841	7.31 倍	93	492	5.29 倍	308	1,276	4.14 倍	40	62	1.55 倍
通信量[Tbyte]	7.13	7.89	1.11 倍	15.56	21.69	1.39 倍	0.24	0.94	3.84 倍	0.28	0.49	1.77 倍	1.47	2.94	1.99 倍	0.77	0.81	1.06 倍

KDDI/沖セル　Ｋ５　１．５ＧＨｚ帯・人口/面積カバー率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ５	1.5GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	1.5GHz帯（4G）について、北海道・東北・中国・四国・九州の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度はこれらの地域に加え沖縄が該当した。また、北海道・中国・四国・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和５年度も同地域であった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ５から改善】　人口カバー率は、九州は減少、北海道・東北・中国・四国は拡大しているものの、実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。沖縄は拡大し、70%以上90%未満（実績評価：B評価に該当）となった。 面積カバー率は、昨年度と同じく、北海道・中国・四国・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっている。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	人口カバー率は北海道・東北・中国・四国・九州・沖縄の６地域では50～60%台と低く、面積カバー率は北海道・中国・四国・九州・沖縄において他社に比べて低い。同社によれば、都心部等の高トラヒックエリアに展開する方針であるためとし、トラヒックの動向を注視しながら活用予定としているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

○令和６年度　評価（暫定）

Ｒ６実績評価（暫定）【4G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+4,728	11,089	B	77.64%	B	73.63%	15.33%	B	B	B
北海道	B	+110	321	C	65.18%	C	62.98%	5.36%	B	B	C
東北	B	+136	579	C	66.55%	B	84.03%	14.10%	B	B	C
関東	B	+1,953	5,023	B	85.30%	B	71.11%	31.51%	B	B	B
信越	B	+123	246	B	74.23%	B	80.98%	18.69%	B	B	B
北陸	B	+72	146	B	71.58%	B	76.61%	18.28%	B	B	B
東海	B	+755	1,227	B	88.70%	A	93.77%	28.14%	B	B	B
近畿	B	+1,318	2,250	B	87.82%	B	82.44%	24.56%	B	B	B
中国	B	+62	440	C	60.67%	C	60.59%	11.96%	B	B	C
四国	B	+38	167	C	52.60%	C	56.66%	9.91%	B	B	C
九州	B	+120	582	C	54.26%	C	57.18%	12.38%	B	B	C
沖縄	B	+41	108	B	72.10%	C	63.16%	16.22%	B	B	B

Ｒ６進捗評価（暫定）【4G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	-18	11,089	A	+0.23	77.64%	A	+0.15	15.33%	A	B	A
北海道	A	+3	321	S	+1.30	65.18%	A	+0.21	5.36%	S	B	S
東北	A	+2	579	A	+0.57	66.55%	A	+0.05	14.10%	A	B	A
関東	A	-47	5,023	A	+0.24	85.30%	A	+0.23	31.51%	A	B	A
信越	A	+0	246	A	+0.58	74.23%	A	+0.31	18.69%	A	B	A
北陸	A	-1	146	A	+0.13	71.58%	A	-0.02	18.28%	A	B	A
東海	A	+6	1,227	A	+0.17	88.70%	A	+0.17	28.14%	A	B	A
近畿	A	+14	2,250	A	0.00	87.82%	A	+0.21	24.56%	A	B	A
中国	A	+1	440	A	+0.02	60.67%	A	+0.11	11.96%	A	B	A
四国	A	+1	167	A	+0.28	52.60%	A	+0.04	9.91%	A	B	A
九州	A	+2	582	A	-0.39	54.26%	A	+0.06	12.38%	A	B	A
沖縄	A	+1	108	S	+2.87	72.10%	A	0.00	16.22%	S	B	A

○（参考）令和５年度　評価

Ｒ５実績評価【4G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+4,746	11,107	B	77.41%	B	73.0%	15.18%	B	B	B
北海道	B	+107	318	C	63.88%	C	60.6%	5.15%	B	B	C
東北	B	+134	577	C	65.98%	B	83.6%	14.05%	B	B	C
関東	B	+2,000	5,070	B	85.06%	B	70.8%	31.28%	B	B	B
信越	B	+123	246	B	73.65%	B	79.6%	18.38%	B	B	B
北陸	B	+73	147	B	71.45%	B	76.6%	18.30%	B	B	B
東海	B	+749	1,221	B	88.53%	A	93.5%	27.97%	B	B	B
近畿	B	+1,304	2,236	B	87.82%	B	82.0%	24.35%	B	B	B
中国	B	+61	439	C	60.65%	C	60.5%	11.85%	B	B	C
四国	B	+37	166	C	52.32%	C	56.7%	9.87%	B	B	C
九州	B	+118	580	C	54.65%	C	57.0%	12.32%	B	B	C
沖縄	B	+40	107	C	69.23%	C	62.6%	16.22%	B	B	C

Ｒ５進捗評価【4G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+39	11,107	S	+1.52	77.41%	A	+0.06	15.18%	S	B	A
北海道	A	+4	318	S	+2.23	63.88%	A	+0.05	5.15%	S	B	A
東北	A	+9	577	S	+2.27	65.98%	A	+0.02	14.05%	S	B	A
関東	A	-18	5,070	S	+1.02	85.06%	A	+0.10	31.28%	S	B	S
信越	A	+4	246	S	+1.03	73.65%	A	+0.09	18.38%	S	B	A
北陸	A	±0	147	S	+1.07	71.45%	A	+0.08	18.30%	S	B	A
東海	A	+11	1,221	A	+1.00	88.53%	A	+0.19	27.97%	A	B	A
近畿	A	+20	2,236	S	+1.02	87.82%	A	+0.03	24.35%	S	B	A
中国	A	+2	439	S	+2.04	60.65%	A	+0.03	11.85%	S	B	A
四国	A	+4	166	S	+2.25	52.32%	A	+0.12	9.87%	S	B	A
九州	A	+1	580	S	+2.05	54.65%	A	+0.04	12.32%	S	B	A
沖縄	A	+2	107	A	+0.40	69.23%	A	+0.02	16.22%	A	B	A

KDDI/沖セル　Ｋ６　２ＧＨｚ帯・面積カバー率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ6	2GHz帯 ・ 面積カバー率	2GHz帯（4G）について、四国の面積カバー率が昨年度より減少し、周波数帯平均値の70%を下回っている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 四国の面積カバー率が、昨年度より減少し、周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価（暫定）

Ｒ６実績評価（暫定）【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差(※)	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	-	-	40,338	S	95.63%	B	83.48%	25.12%	B	B	S
北海道	-	-	1,417	A	92.45%	B	70.98%	11.18%	B	B	A
東北	-	-	2,581	A	90.59%	B	89.12%	22.85%	B	B	A
関東	-	-	14,622	S	98.57%	A	90.26%	51.35%	B	B	S
信越	-	-	1,116	A	91.91%	B	86.86%	24.58%	B	B	A
北陸	-	-	965	A	93.03%	B	79.63%	24.31%	B	B	A
東海	-	-	5,254	S	96.78%	B	79.73%	34.15%	B	B	S
近畿	-	-	6,937	S	97.81%	B	86.71%	32.89%	B	B	S
中国	-	-	1,948	B	88.63%	B	76.14%	21.13%	B	B	B
四国	-	-	1,206	A	91.14%	C	68.40%	20.52%	B	B	A
九州	-	-	3,732	A	91.98%	B	82.92%	29.17%	B	B	A
沖縄	-	-	560	S	98.86%	A	101.90%	56.72%	B	B	S

Ｒ６進捗評価（暫定）【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	-322	40,338	A	+0.01	95.63%	A	-0.13	25.12%	A	B	A
北海道	A	+2	1,417	A	+0.09	92.45%	A	+0.04	11.18%	A	B	A
東北	A	+7	2,581	A	+0.02	90.59%	A	-0.01	22.85%	A	B	A
関東	A	-319	14,622	A	+0.01	98.57%	A	+0.04	51.35%	A	C	A
信越	A	±0	1,116	A	+0.13	91.91%	A	+0.01	24.58%	A	B	A
北陸	A	-2	965	A	±0.00	93.03%	A	+0.02	24.31%	A	B	A
東海	A	-13	5,254	A	±0.00	96.78%	A	+0.05	34.15%	A	C	S
近畿	A	-5	6,937	A	±0.00	97.81%	B	-1.77	32.89%	B	C	A
中国	A	+4	1,948	A	-0.03	88.63%	A	-0.01	21.13%	A	B	A
四国	A	+1	1,206	A	±0.00	91.14%	A	-0.08	20.52%	A	B	A
九州	A	+1	3,732	A	-0.04	91.98%	A	-0.09	29.17%	A	B	A
沖縄	A	+2	560	A	±0.00	98.86%	A	±0.00	56.72%	A	B	A

○（参考）令和５年度　評価

Ｒ5実績評価【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差(※)	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	-	-	40,660	S	95.62%	B	86.2%	25.25%	B	B	S
北海道	-	-	1,415	A	92.36%	B	73.3%	11.14%	B	B	A
東北	-	-	2,574	A	90.57%	A	91.8%	22.86%	B	B	A
関東	-	-	14,941	S	98.56%	A	91.6%	51.31%	B	B	S
信越	-	-	1,116	A	91.78%	B	89.3%	24.57%	B	B	A
北陸	-	-	967	A	93.03%	B	81.2%	24.29%	B	B	A
東海	-	-	5,267	S	96.78%	B	81.6%	34.10%	B	B	S
近畿	-	-	6,942	S	97.81%	A	91.7%	34.66%	B	B	S
中国	-	-	1,944	B	88.66%	B	79.2%	21.14%	B	B	B
四国	-	-	1,205	A	91.14%	B	70.1%	20.60%	B	B	A
九州	-	-	3,731	A	92.02%	B	86.8%	29.26%	B	B	A
沖縄	-	-	558	S	98.86%	A	104.5%	56.72%	B	B	S

Ｒ5進捗評価【4G＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+35	40,660	A	+0.53	95.62%	A	+0.27	25.25%	A	B	S
北海道	A	+9	1,415	A	+0.84	92.36%	A	+0.42	11.14%	A	B	A
東北	A	+14	2,574	A	+0.82	90.57%	A	±0.00	22.86%	A	B	A
関東	A	-183	14,941	A	+0.23	98.56%	A	+0.60	51.31%	A	B	B
信越	A	+5	1,116	A	+0.90	91.78%	A	+0.47	24.57%	A	B	S
北陸	A	±0	967	A	+0.93	93.03%	A	+0.37	24.29%	A	B	A
東海	A	+26	5,267	A	+0.33	96.78%	A	+0.05	34.10%	A	B	S
近畿	A	+106	6,942	A	+0.06	97.81%	A	+0.01	34.66%	A	B	S
中国	A	+8	1,944	S	+1.11	88.66%	A	+0.09	21.14%	S	B	A
四国	A	+3	1,205	A	+0.89	91.14%	A	±0.00	20.60%	A	B	A
九州	A	+45	3,731	S	+1.02	92.02%	A	+0.46	29.26%	S	B	A
沖縄	A	+2	558	A	+0.21	98.86%	A	-0.03	56.72%	A	B	A

KDDI/沖セル　Ｋ７　３．７ＧＨｚ帯・基盤展開率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ７	3.7GHz帯 ・ 基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、沖縄の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 沖縄の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数			基盤展開率		通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値			
全国	B	+186	30,293	A	93.91%	B	A	A
北海道	B	±0	1,793	A	91.86%	B	S	A
東北	B	±0	2,043	S	98.79%	B	B	S
関東	B	±0	10,756	S	96.83%	B	A	S
信越	B	±0	876	S	97.12%	B	A	S
北陸	B	±0	651	A	94.16%	B	B	A
東海	B	±0	3,220	S	99.07%	B	A	S
近畿	B	±0	5,524	S	99.01%	B	A	S
中国	B	±0	1,724	S	96.35%	B	S	S
四国	B	+22	863	A	93.63%	B	S	A
九州	B	±0	2,624	B	86.84%	B	S	B
沖縄	B	+164	219	C	53.85%	B	B	C

Ｒ６進捗評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	基盤展開率(※1)			通信量	技術導入状況(※2)
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		評価	前年度差	実績値		
全国	S	+13,328	30,293	S	+29.87	52.51%	A	+4.74	7.09%	S	-	-	93.91%	B	S
北海道	S	+625	1,793	S	+33.95	76.79%	A	+3.41	4.74%	S	-	-	91.86%	B	S
東北	S	+343	2,043	S	+25.45	53.89%	A	+3.49	5.55%	S	-	-	98.79%	B	S
関東	S	+5,881	10,756	S	+24.32	35.40%	A	+3.39	4.76%	S	-	-	96.83%	B	S
信越	A	+66	876	S	+30.65	52.08%	A	+4.76	7.46%	S	-	-	97.12%	B	B
北陸	S	+220	651	S	+30.09	58.23%	S	+5.10	8.22%	S	-	-	94.16%	B	B
東海	S	+1,250	3,220	S	+31.87	45.63%	S	+5.54	7.90%	S	-	-	99.07%	B	S
近畿	S	+3,523	5,524	S	+39.93	72.15%	S	+5.59	8.96%	S	-	-	99.01%	B	S
中国	S	+393	1,724	S	+27.12	65.34%	S	+6.35	9.77%	S	-	-	96.35%	B	B
四国	S	+266	863	S	+42.04	70.14%	S	+7.14	9.81%	S	-	-	93.63%	B	B
九州	S	+677	2,624	S	+31.50	65.79%	S	+7.21	11.01%	S	-	-	86.84%	B	B
沖縄	S	+84	219	S	+14.52	38.09%	S	+7.25	10.51%	S	-	-	53.85%	B	S

KDDI/沖セル　K８　３．７/４．０GHz帯・全般

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 K８	3.7/4.0GHz帯 ・ 全般	Sub6の3.7GHz帯（5G）及び4.0GHz帯（5G）の人口カバー率について、全体的に3.7GHz帯が高く、4.0GHz帯は沖縄を除き３％未満と低い。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について教えてください。 ※カバー率拡大方針は、「共携1」に同じ。	【Ｒ５と同様】 KDDI/沖セルは、Sub6において3.7GHz帯と4.0GHz帯の２バンドを割り当てられている。 人口カバー率は、全体的に3.7GHz帯が高く、また、4.0GHz帯は沖縄を除き３％未満と他社のSub6の人口カバー率に比べても大きく低い。 この要因及び今後のカバー率拡大方針について確認する。	同社によれば、開設計画どおりに基地局を開設しており、5G端末普及に応じて適時適切に4.0GHz帯の展開を進めるとしているが、基地局数及びカバー率は低い。電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、基地局数及びカバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

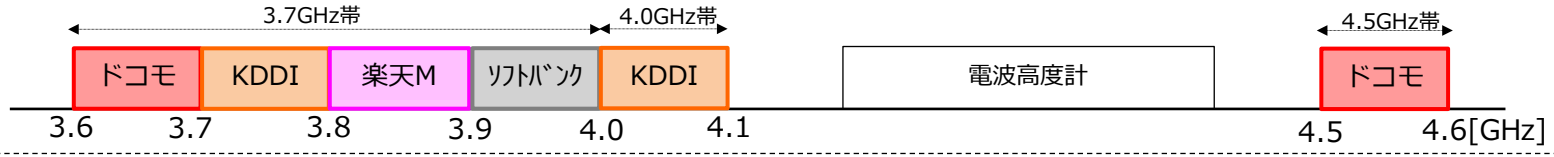
○令和６年度調査結果 【人口カバー率】

注）青字：50%以上、赤字：10%未満

	3.7GHz帯				4.0GHz帯	4.5GHz帯
	ドコモ	KDDI/沖セル	楽天モバイル	ソフトバンク	KDDI/沖セル	ドコモ
全国	23.89% (+3.58)	52.51% (+29.87)	50.59% (+20.09)	43.27% (+11.50)	1.74% (+1.43)	44.69% (+2.22)
北海道	18.61% (+0.49)	76.79% (+33.95)	54.63% (+17.85)	73.79% (+11.29)	2.90% (+2.51)	33.18% (+1.17)
東北	30.26% (+3.19)	53.89% (+25.45)	32.49% (+8.53)	64.30% (+11.24)	2.08% (+1.70)	24.19% (+0.85)
関東	2.34% (+0.62)	35.40% (+24.32)	50.67% (+23.19)	18.55% (+6.32)	1.43% (+1.36)	51.05% (+2.33)
信越	66.72% (+5.90)	52.08% (+30.65)	35.39% (+9.33)	62.29% (+17.97)	1.14% (+1.02)	25.24% (+5.35)
北陸	63.41% (+1.07)	58.23% (+30.09)	32.55% (+9.88)	75.62% (+10.84)	1.68% (+1.52)	26.89% (+0.72)
東海	3.14% (+0.32)	45.63% (+31.87)	52.19% (+33.93)	37.70% (+14.92)	0.57% (+0.47)	59.76% (+4.13)
近畿	31.66% (+15.11)	72.15% (+39.93)	76.79% (+20.46)	54.51% (+17.71)	0.52% (+0.52)	61.82% (+2.20)
中国	57.64% (+1.90)	65.34% (+27.12)	30.87% (+11.19)	61.84% (+7.11)	2.05% (+1.82)	28.71% (+0.96)
四国	68.39% (+1.67)	70.14% (+42.04)	34.38% (+13.93)	69.19% (+13.43)	1.87% (+1.40)	14.97% (+1.05)
九州	55.23% (+2.31)	65.79% (+31.50)	45.73% (+15.71)	63.14% (+16.24)	1.45% (+1.35)	22.75% (+1.36)
沖縄	5.93% (+1.22)	38.09% (+14.52)	17.67% (+5.11)	9.27% (+7.01)	36.65% (+20.27)	57.19% (+2.51)

※（〇）は昨年度実績値との比較

<各社への割当て周波数帯>
Sub6（3.7/4.0/4.5GHz帯）



KDDI/沖セル　Ｋ９　２８ＧＨｚ帯・基地局数

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｋ９	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、沖縄の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 沖縄の基地局数が周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっており、これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

Ｒ６実績評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数				通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	平均比	計画値差	実績値			
全国	S	135.57%	+7	12,763	B	A	S
北海道	S	151.57%	±0	1,355	B	B	S
東北	S	154.30%	±0	1,381	B	B	S
関東	S	119.51%	±0	3,620	B	A	S
信越	S	149.20%	±0	561	B	B	S
北陸	S	168.00%	±0	378	B	B	S
東海	S	131.39%	±0	1,151	B	A	S
近畿	S	124.23%	±0	1,646	B	A	S
中国	S	156.32%	±0	841	B	S	S
四国	S	154.23%	±0	492	B	S	S
九州	S	153.00%	±0	1,276	B	S	S
沖縄	C	59.62%	+7	62	B	B	C

Ｒ６進捗評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数			通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値		
全国	S	+9,923	12,763	B	S
北海道	S	+1,239	1,355	B	S
東北	S	+1,210	1,381	B	S
関東	S	+2,356	3,620	B	S
信越	S	+435	561	C	S
北陸	S	+335	378	B	S
東海	S	+897	1,151	B	S
近畿	S	+1,336	1,646	B	S
中国	S	+726	841	B	S
四国	S	+399	492	B	S
九州	S	+968	1,276	B	S
沖縄	A	+22	62	B	S

KDDI/沖セル　K10　８００MHｚ帯・３G移行計画

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
移行K10	800MHz帯 ・ 3G移行計画	3G移行計画（800MHz帯）に係る主に以下の点について、御社の考え方をご説明ください。 ・移行する周波数 ・移行先通信規格、その理由 ・基地局数、人口カバー率、面積カバー率の目標値、その理由 ・移行方法、その理由 また、御社の3Gサービス終了は令和3年度末であるところ、その５年後である令和8年度末に、沖縄を除き、人口カバー率が80%以上となっていない理由の詳細を教えてください。	【Ｒ６新規】 3G移行計画の詳細を聴取する。また、有効利用評価方針における評価基準※に基づくと、3Gサービス終了（令和3年度末）から５年以内となる令和8年度末には、人口カバー率が80%以上となる必要があるが、これを満たしていない。沖縄を除き80%以上となっていない理由を確認する。 ※有効利用評価方針（抜粋） 電波法の免許の有効期間が５年であり、再免許が保障されていないことを勘案し、移行する周波数に係る人口カバー率について、別紙１に示す最も低い人口カバー率の評価の基準を超えるために要する期間は、変更前の通信規格の利用を終了した時点から５年以内として評価を行うものする。ただし、特段の事情がある場合は、これを考慮するものとする。	

○令和６年度調査結果 【3G移行計画】

800MHz（KDDI）		
移行する周波数		870MHz～875MHz
移行先通信規格		４G
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率80%以上
移行計画最終年度の計画値	基地局数 (R10年度末)	27,520局
	人口カバー率 (R10年度末)	81.00%
	面積カバー率 (R10年度末)	24.00%

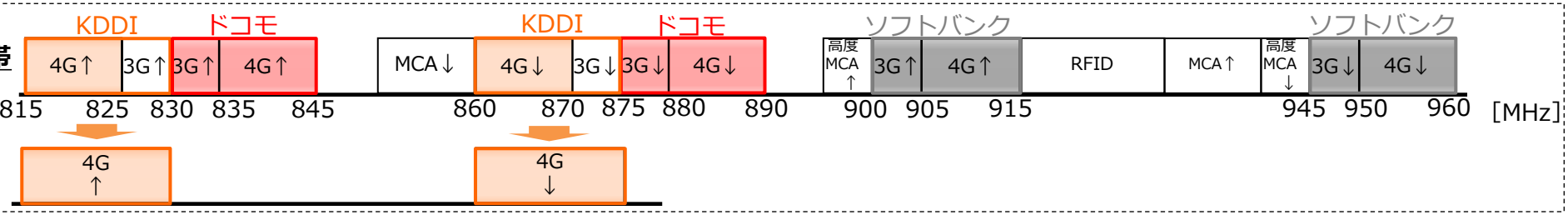
【人口カバー率】

3Gサービス終了（令和３年度末）から５年後

KDDI/沖セル					
区域	令和6年度末 （2024年度末）	令和7年度末 （2025年度末）	令和8年度末 （2026年度末）	令和9年度末 （2027年度末）	令和10年度末 （2028年度末）
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				81.00%[+1.00]
北海道					81.00%[+1.00]
東北					80.00%[0]
関東					80.00%[0]
信越					87.00%[+7.00]
北陸					81.00%[+1.00]
東海					81.00%[+1.00]
近畿					84.00%[+4.00]
中国					84.00%[+4.00]
四国					85.00%[+5.00]
九州					85.00%[+5.00]
沖縄					90.00%[+10.00]

※赤字は80%以上　※[〇]は最も低い人口カバー率の評価基準（80%）との比較

800/900MHz帯



目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

ソフトバンクに対するヒアリング項目案（一覧）①

＊ ・・・【R6新規】:本年度の新たな項目
・・・【R5と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【R5から改善】：昨年度から一部で改善

■ソフトバンク：計12問

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
○通信量				
定量S1	900MHz帯・通信量	900MHz帯（4G）において、全国・各総通（東北・信越・北陸を除く）の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 ※3.5GHz帯以外 【R５と同様】※3.5GHz帯 900MHz帯（全国・北海道・関東・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄） 1.5GHz帯（全国・全ての総通） 1.7GHz帯（北海道・関東） 2GHz帯（全国・関東・東海・近畿） 3.5GHz帯（全国・全ての総通） 28GHz帯（九州） 上記の周波数帯・地域における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 また、ミリ波（28GHz帯）については、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は1.6倍に対し、通信量は1.3倍）要因も併せて確認する。	3.5GHz帯（全国・東北・関東・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄） 全国及び東北等の９地域において通信量が前年度を下回っている。同社によれば、5G対応端末の普及によるためとしており、5G化の進展とともにトラヒックは増加見込としているが、同社の4G全体の通信量は前年度から増加しており、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。
定量S2	1.5GHz帯・通信量	1.5GHz帯（4G）において、全国及び全ての総通局の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量S3	1.7GHz帯・通信量	1.7GHz帯（4G+5G）において、北海道・関東の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量S4	2GHz帯・通信量	2GHz帯（4G+5G）において、全国・関東・東海・近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量S5	3.5GHz帯・通信量	3.5GHz帯（4G+5G）において、全国及び全ての総通局の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。		
定量S6	28GHz帯・通信量	28GHz帯（5G）について、九州の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は1.6倍に対し、通信量は1.3倍）。これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。		
○通信量以外				
定量S7	1.7GHz帯・技術導入状況	1.7GHz帯（4G+5G）において、中国・四国・九州における4MIMOの導入局数が減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 中国・四国・九州における4MIMOの局数が減少し、四国・九州は前年度実績値－30%未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この減少要因について確認する。	－

ソフトバンクに対するヒアリング項目案（一覧）①

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 S8	3.5GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	3.5GHz帯（4G+5G）において、東北・中国・四国・九州・沖縄の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度は全国・全ての総通局であった。 また、東北・中国・四国・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和5年度は、全国・北海道・東北・関東・信越・北陸・中国・四国・九州であった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R５から改善】 人口カバー率は、全国・全ての総通局で拡大しているものの、東北・中国・四国・九州・沖縄の実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。全国・北海道・関東・信越・北陸・東海・近畿は、昨年度のC評価から、70%以上90%未満（B評価に該当）となった。 面積カバー率は、東北・中国・四国・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。全国・北海道・関東・信越・北陸・近畿は、昨年度のC評価から、北海道は110%以上（S評価に該当）、その他は70%以上90%未満（B評価に該当）となった。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	全国の人口カバー率は63.14%と低く、面積カバー率も他社に比べて低い。同社によれば、トラヒック需要が高いエリアを中心に基地局を整備しているためであり、5G化の進展とともにカバー率は増加予定としているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。
定量 S9	3.4GHz帯 ・ 面積カバー率	3.4GHz帯（4G+5G）において、沖縄の面積カバー率が前年度未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 認定の有効期間中であるが、沖縄の面積カバー率が前年度未満となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－
定量 S10	3.7GHz帯 ・ 基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、全国・北海道・東北・北陸・四国・九州・沖縄の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 全国・北海道・東北・北陸・四国・九州・沖縄の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－
定量 S11	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、全国・北海道・関東・北陸・東海・中国・四国・九州の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 全国・北海道・関東・北陸・東海・中国・四国・九州において、基地局数が周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	－
移行 S12	900MHz帯 2GHz帯 ・ 3G移行計画	3G移行計画（900MHz帯・2GHz帯）に係る主に以下の点について、御社の考え方をご説明ください。 ・移行する周波数 ・移行先通信規格、その理由 ・基地局数、人口カバー率、面積カバー率の目標値、その理由 ・移行方法、その理由	【R６新規】 3G移行計画の詳細を聴取する。なお、有効利用評価方針における評価基準※に基づくと、3Gサービス終了（石川県以外は令和６年４月15日、石川県は令和６年7月31日）から５年以内（石川県以外は令和11年4月14日、石川県は令和11年7月30日）には、人口カバー率が、900MHz帯は80%以上、2GHz帯は50%以上となる必要があるが、いずれの周波数帯も前倒しで達成する計画である。 ※有効利用評価方針（抜粋） 電波法の免許の有効期間が５年であり、再免許が保障されていないことを勘案し、移行する周波数に係る人口カバー率について、別紙１に示す最も低い人口カバー率の評価の基準を超えるために要する期間は、変更前の通信規格の利用を終了した時点から５年以内として評価を行うものする。ただし、特段の事情がある場合は、これを考慮するものとする。	－

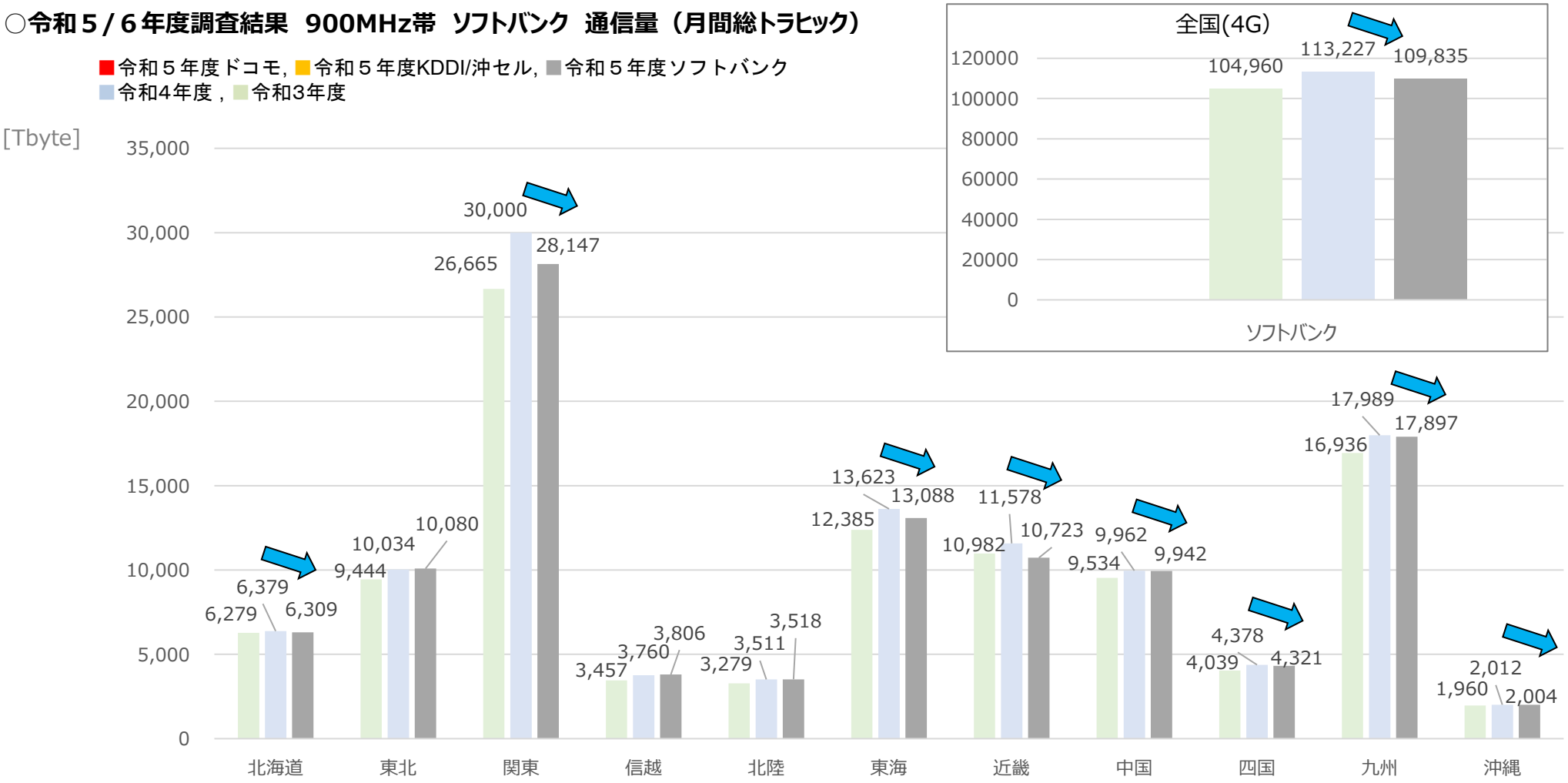
※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

ソフトバンクに対するヒアリング項目案
（詳細）

ソフトバンク　Ｓ１　９００ＭＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｓ１	900MHz帯 ・ 通信量	900MHz帯（4G）において、全国・各総通（東北・信越・北陸を除く）の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 全国・各総通（東北・信越・北陸を除く）の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

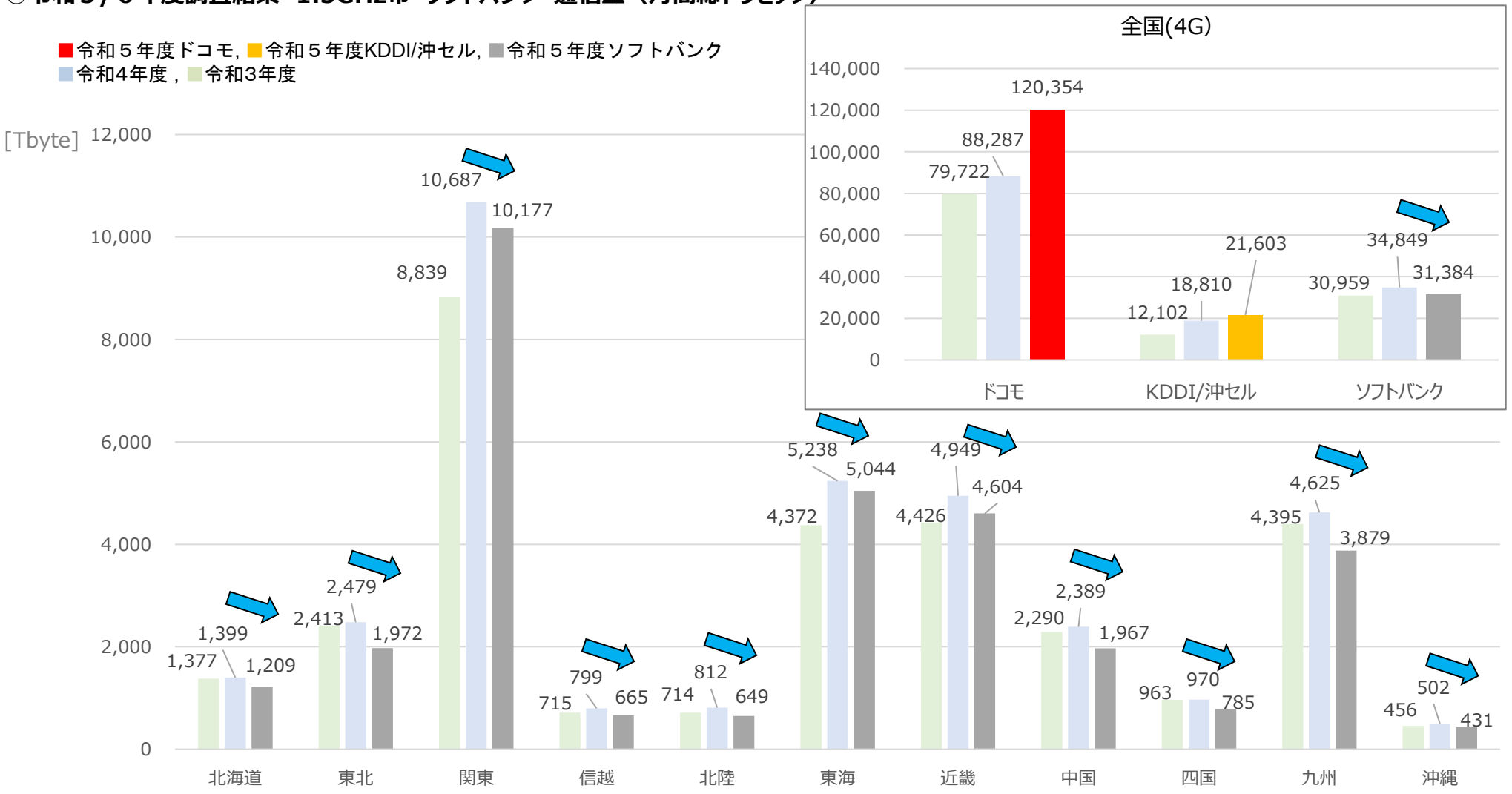
○令和５/６年度調査結果　900MHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）



ソフトバンク　Ｓ２　１．５ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量Ｓ２	1.5GHz帯・通信量	1.5GHz帯（4G）において、全国及び全ての総通局の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 全国及び全ての総通局の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

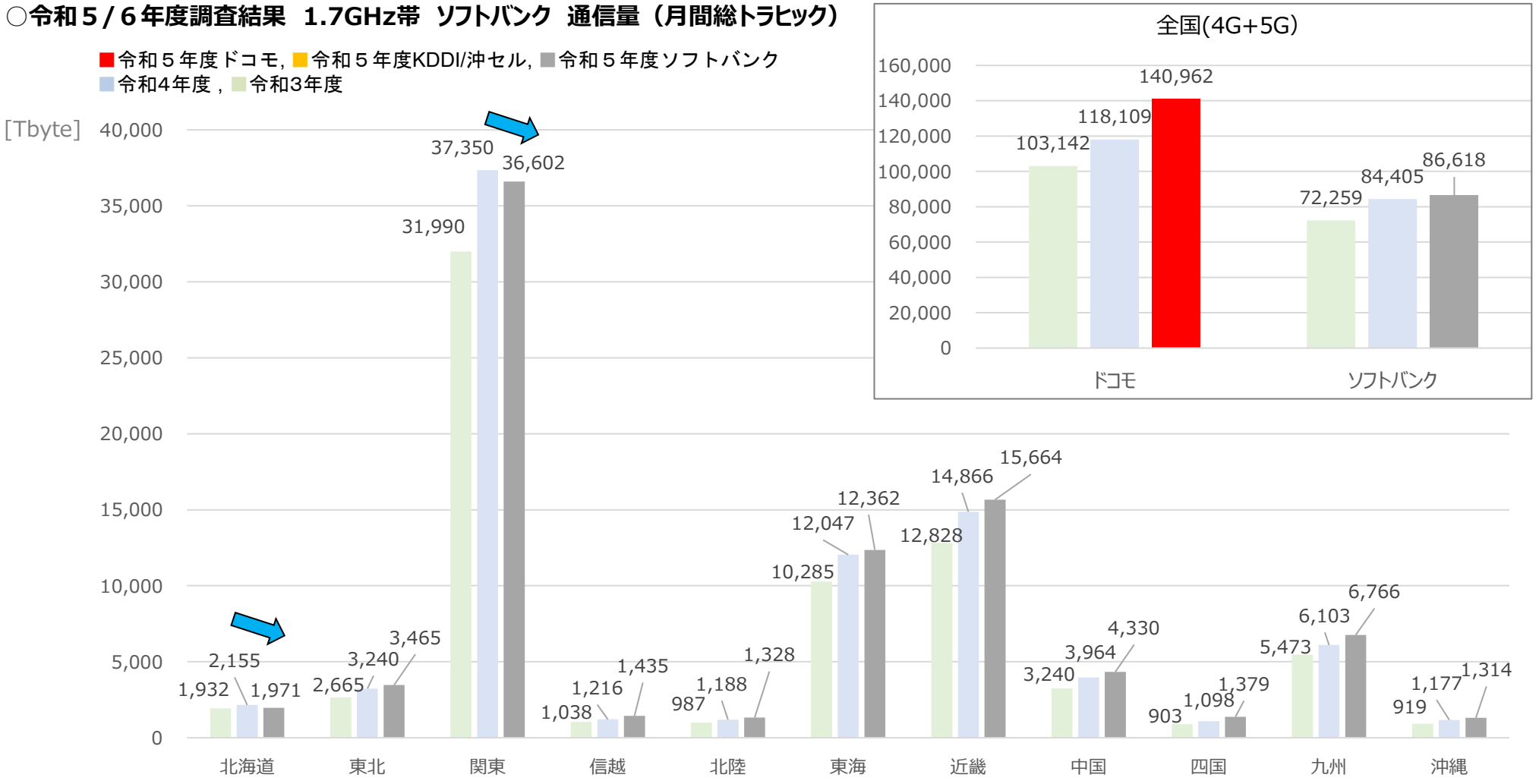
○令和５/６年度調査結果　1.5GHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）



ソフトバンク　Ｓ３　１．７ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量Ｓ３	1.7GHz帯・通信量	1.7GHz帯（4G+5G）において、北海道・関東の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】北海道・関東の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

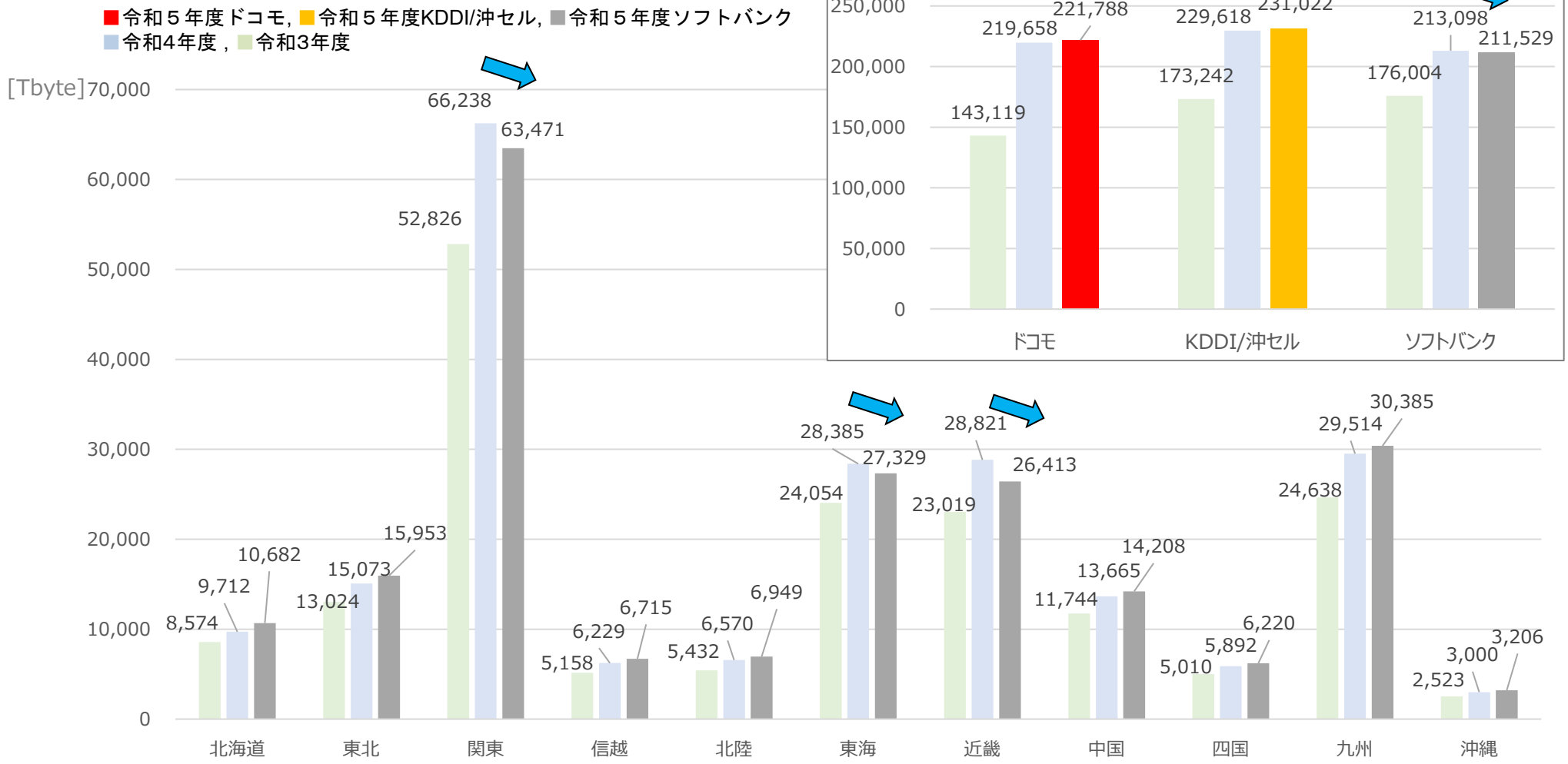
○令和５/６年度調査結果　1.7GHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）

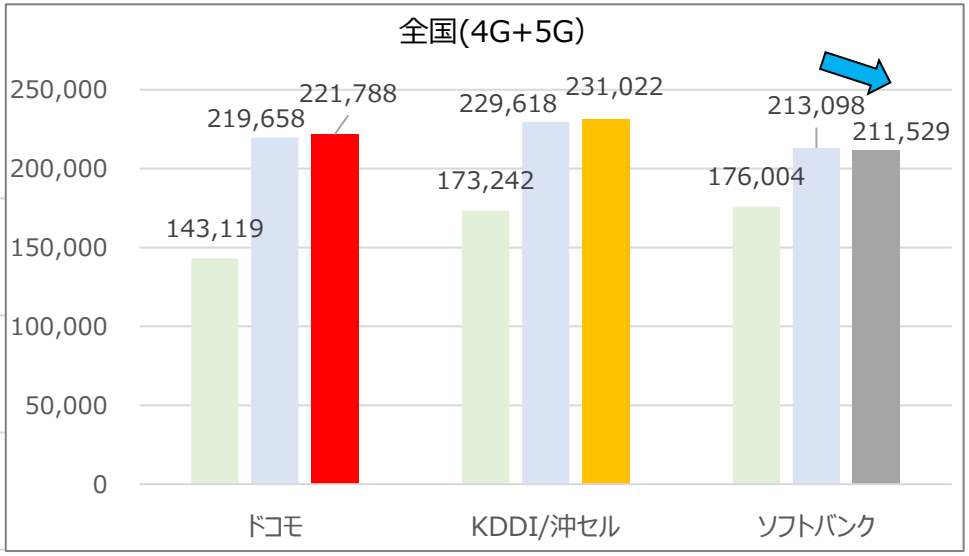


ソフトバンク　Ｓ４　２ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量Ｓ４	2GHz帯・通信量	2GHz帯（4G+5G）において、全国・関東・東海・近畿の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】全国・関東・東海・近畿の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	－

○令和５/６年度調査結果　2GHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）

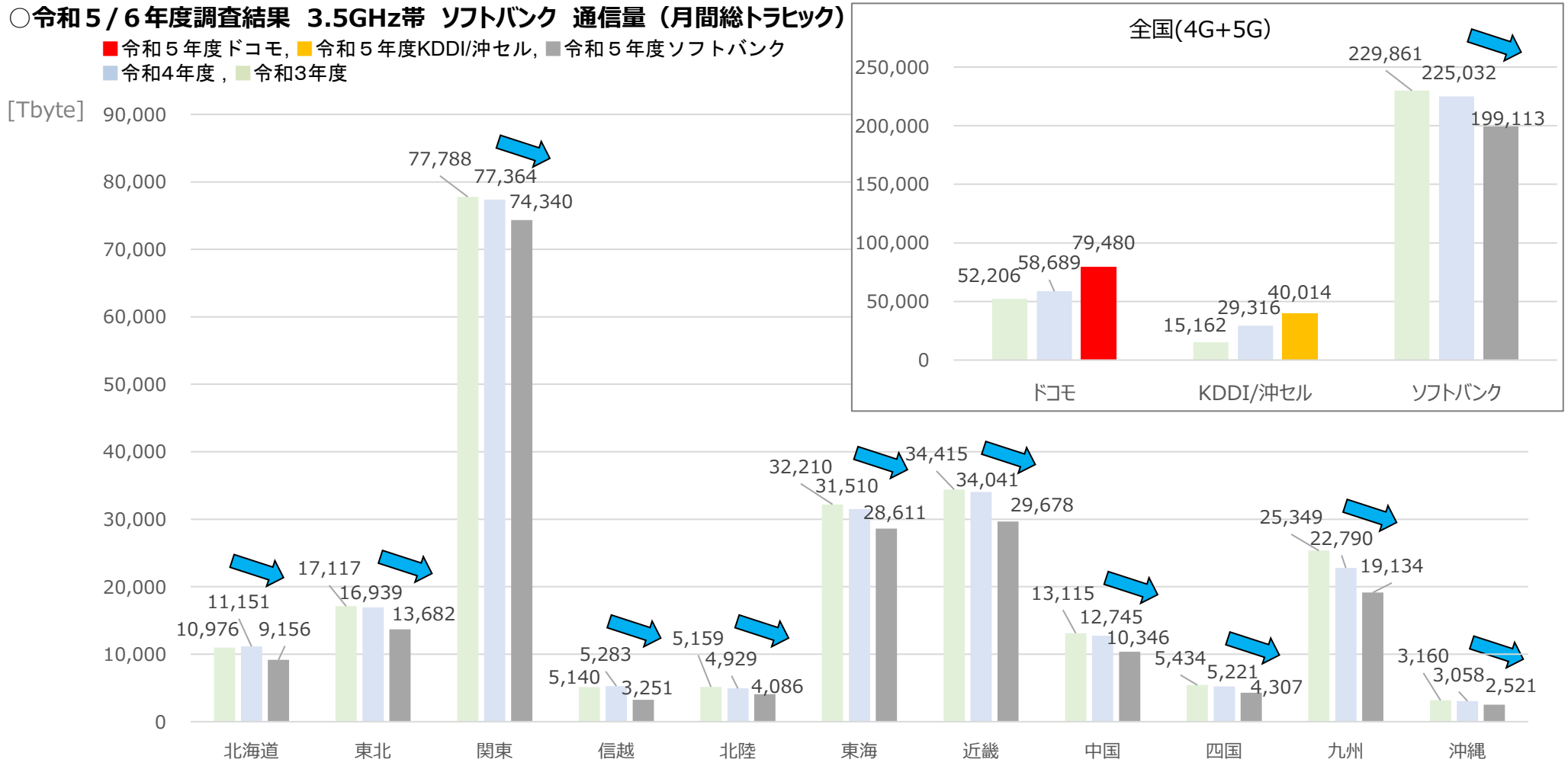




ソフトバンク　Ｓ５　３．５ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｓ５	3.5GHz帯 ・ 通信量	3.5GHz帯（4G+5G）において、全国及び全ての総通局の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【Ｒ５と同様】 全国及び全ての総通局の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	全国及び東北等の９地域において前年度を下回っている。5G対応端末の普及によるためとしており、5G化の進展とともにトラヒックは増加見込としているが、同社の4G全体の通信量は前年度から増加しており、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。

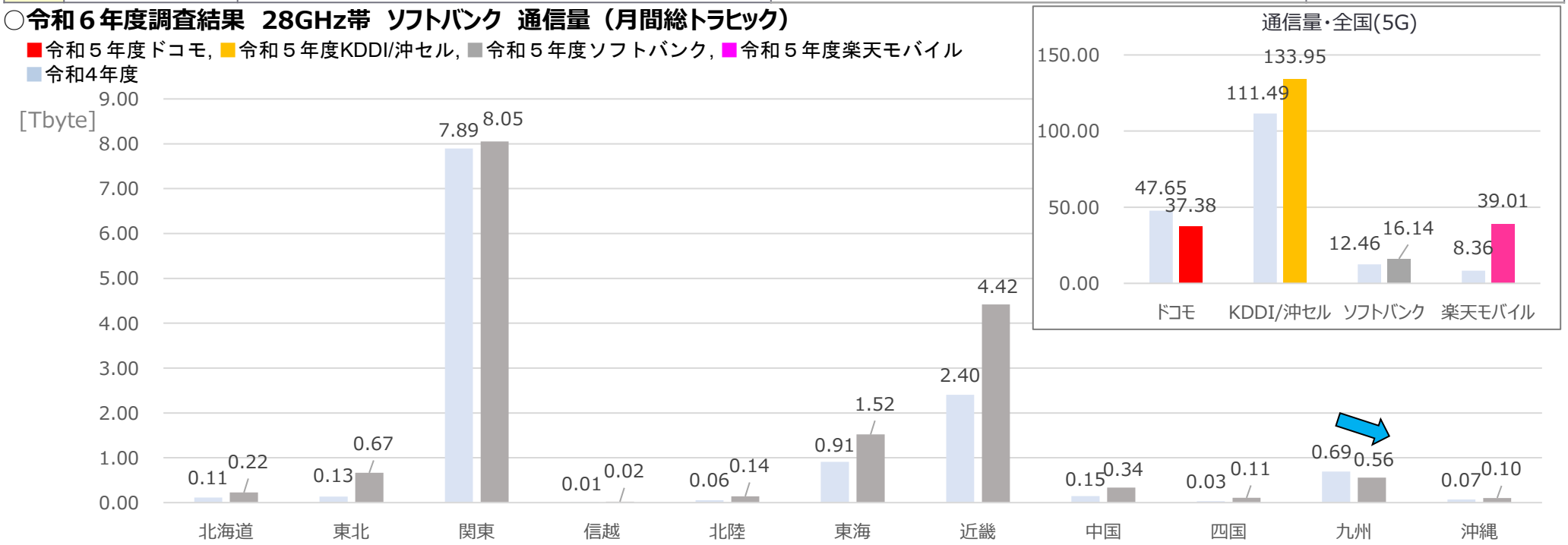
○令和５/６年度調査結果　3.5GHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）



ソフトバンク　Ｓ６　２８ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 S6	28GHz帯 ・ 通信量	28GHz帯（5G）について、九州の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は1.6倍に対し、通信量は1.3倍）。これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 九州の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっている。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない（例：全国の基地局数は1.6倍に対し、通信量は1.3倍）。これら要因及び今後の通信量増減見通しについて確認する。	－

○令和６年度調査結果　28GHz帯　ソフトバンク　通信量（月間総トラヒック）



○令和６年度調査結果　28GHz帯　ソフトバンク　基地局数・屋外と通信量（月間総トラヒック）の増減比較

	全国			北海道			東北			関東			信越			北陸		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	3,944	6,407	1.62 倍	205	573	2.80 倍	342	700	2.05 倍	1,153	1,527	1.32 倍	105	269	2.56 倍	71	157	2.21 倍
通信量[Tbyte]	12.46	16.14	1.30 倍	0.11	0.22	1.98 倍	0.13	0.67	4.97 倍	7.89	8.05	1.02 倍	0.01	0.02	2.07 倍	0.06	0.14	2.55 倍

	東海			近畿			中国			四国			九州			沖縄		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	395	604	1.53 倍	1,087	1,384	1.27 倍	190	373	1.96 倍	98	199	2.03 倍	237	512	2.16 倍	61	109	1.79 倍
通信量[Tbyte]	0.91	1.52	1.67 倍	2.40	4.42	1.84 倍	0.15	0.34	2.28 倍	0.03	0.11	3.34 倍	0.69	0.56	0.80 倍	0.07	0.10	1.52 倍

ソフトバンク　S７　１．７GHz帯・技術導入状況

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 S7	1.7GHz帯 ・ 技術導入状況	1.7GHz帯（4G+5G）において、中国・四国・九州における4MIMOの導入局数が減少している。この要因及び今後の増減見通しを教えてください。	【R６新規】 中国・四国・九州における4MIMOの局数が減少し、四国・九州は前年度実績値－30%未満（進捗評価：C評価に該当）となっており、この減少要因について確認する。	－

○令和６年度調査結果　1.7GHz帯　技術導入状況

+10%超え　±10%以内　−10%未満、−30%以上　−30%未満

		ドコモ(4G)（東名阪のみ）							ソフトバンク(4G+5G)							
		CA	2MIMO	4MIMO	8MIMO	MMIMO	256QAM	UL64QAM	CA	2MIMO	4MIMO	8MIMO	MMIMO	256QAM	UL64QAM	SA
全国	R6	20,112	20,970	242	0	0	20,130	20,131	22,380	21,354	1,533	0	0	22,079	22,093	17,478
	R5	20,034	20,943	246	0	0	20,056	20,057	19,335	18,936	1,489	0	0	19,459	19,456	－
	比率	0.39%	0.13%	-1.63%	－	－	0.37%	0.37%	15.75%	12.77%	2.96%	－	－	13.46%	13.55%	－
北海道	R6	0	0	0	0	0	0	0	990	991	12	0	0	990	990	839
	R5	0	0	0	0	0	0	0	783	796	12	0	0	795	796	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	26.44%	24.50%	0.00%	－	－	24.53%	24.37%	－
東北	R6	0	0	0	0	0	0	0	1,385	1,365	18	0	0	1,384	1,383	1,256
	R5	0	0	0	0	0	0	0	1,048	1,057	18	0	0	1,037	1,034	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	32.16%	29.14%	0.00%	－	－	33.46%	33.75%	－
関東	R6	11,790	12,514	131	0	0	11,790	11,790	8,626	7,886	631	0	0	8,611	8,614	6,392
	R5	11,734	12,498	135	0	0	11,734	11,734	8,043	7,519	617	0	0	8,185	8,187	－
	比率	0.48%	0.13%	-2.96%	－	－	0.48%	0.48%	7.25%	4.88%	2.27%	－	－	5.20%	5.22%	－
信越	R6	0	0	0	0	0	0	0	562	559	26	0	0	561	561	485
	R5	0	0	0	0	0	0	0	439	436	24	0	0	438	438	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	28.02%	28.21%	8.33%	－	－	28.08%	28.08%	－
北陸	R6	0	0	0	0	0	0	0	478	463	34	0	0	478	478	461
	R5	0	0	0	0	0	0	0	403	398	32	0	0	403	403	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	18.61%	16.33%	6.25%	－	－	18.61%	18.61%	－
東海	R6	3,961	4,040	62	0	0	3,976	3,977	2,623	2,593	187	0	0	2,594	2,600	2,042
	R5	3,970	4,046	62	0	0	3,984	3,985	2,453	2,415	187	0	0	2,415	2,420	－
	比率	-0.23%	-0.15%	0.00%	－	－	-0.20%	-0.20%	6.93%	7.37%	0.00%	－	－	7.41%	7.44%	－
近畿	R6	4,361	4,416	49	0	0	4,364	4,364	4,151	4,002	608	0	0	4,011	4,007	3,199
	R5	4,330	4,399	49	0	0	4,338	4,338	3,473	3,514	579	0	0	3,424	3,419	－
	比率	0.72%	0.39%	0.00%	－	－	0.60%	0.60%	19.52%	13.89%	5.01%	－	－	17.14%	17.20%	－
中国	R6	0	0	0	0	0	0	0	1,231	1,179	15	0	0	1,128	1,131	951
	R5	0	0	0	0	0	0	0	977	1,025	16	0	0	978	975	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	26.00%	15.02%	-6.25%	－	－	15.34%	16.00%	－
四国	R6	0	0	0	0	0	0	0	515	508	0	0	0	512	512	409
	R5	0	0	0	0	0	0	0	396	389	1	0	0	393	392	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	30.05%	30.59%	-100.00%	－	－	30.28%	30.61%	－
九州	R6	0	0	0	0	0	0	0	1,549	1,538	2	0	0	1,540	1,547	1,185
	R5	0	0	0	0	0	0	0	1,124	1,192	3	0	0	1,195	1,196	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	37.81%	29.03%	-33.33%	－	－	28.87%	29.35%	－
沖縄	R6	0	0	0	0	0	0	0	270	270	0	0	0	270	270	259
	R5	0	0	0	0	0	0	0	196	195	0	0	0	196	196	－
	比率	－	－	－	－	－	－	－	37.76%	38.46%	－	－	－	37.76%	37.76%	－

（注）2MIMO, 4MIMO, 8MIMOの基地局数はMMIMOの基地局数を含まない

ソフトバンク　S８　３．５GHz帯・人口/面積カバー率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量 S8	3.5GHz帯 ・ 人口カバー率 面積カバー率	3.5GHz帯（4G+5G）において、東北・中国・四国・九州・沖縄の人口カバー率が50%以上70%未満である。令和５年度は全国・全ての総通局であった。 また、東北・中国・四国・九州・沖縄の面積カバー率が周波数帯平均値の70%を下回っている。令和5年度は、全国・北海道・東北・関東・信越・北陸・中国・四国・九州であった。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R５から改善】 人口カバー率は、全国・全ての総通局で拡大しているものの、東北・中国・四国・九州・沖縄の実績値では50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。全国・北海道・関東・信越・北陸・東海・近畿は、昨年度のC評価から、70%以上90%未満（B評価に該当）となった。 面積カバー率は、東北・中国・四国・九州・沖縄において周波数帯平均値の70%未満（実績評価：C評価に該当）となっている。全国・北海道・関東・信越・北陸・近畿は、昨年度のC評価から、北海道は110%以上（S評価に該当）、その他は70%以上90%未満（B評価に該当）となった。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	全国の人口カバー率は63.14%と低く、面積カバー率も他社に比べて低い。同社によれば、トラヒック需要が高いエリアを中心に基地局を整備しているためであり、5G化の進展とともにカバー率は増加予定としているが、電波の有効利用の観点からは、割り当てられた周波数は最大限活用すべきであり、カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

○令和６年度　評価（暫定）

Ｒ６実績評価（暫定）【4G+5G】※令和６年度調査より5G導入

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+8,936	31,967	B	72.16%	B	79.92%	5.90%	B	S	B
北海道	B	+611	1,430	B	79.18%	S	153.72%	1.08%	B	S	B
東北	B	+753	2,345	C	69.53%	C	68.61%	5.59%	B	S	C
関東	B	+2,281	11,077	B	74.41%	B	87.91%	8.22%	B	S	B
信越	B	+627	1,396	B	72.69%	B	76.60%	7.67%	B	S	B
北陸	B	+420	963	B	77.46%	B	80.67%	9.94%	B	S	B
東海	B	+1,578	3,917	B	78.44%	B	89.87%	10.98%	B	S	B
近畿	B	+1,834	5,706	B	75.22%	B	82.92%	8.67%	B	S	B
中国	B	+282	1,519	C	60.29%	C	51.28%	6.50%	B	S	C
四国	B	+54	708	C	61.57%	C	58.20%	6.50%	B	S	C
九州	B	+417	2,623	C	60.49%	C	53.07%	6.30%	B	S	C
沖縄	B	+79	283	C	62.07%	C	62.91%	11.67%	B	S	C

Ｒ６進捗評価（暫定）【4G+5G】※令和６年度調査より5G導入

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+2,920	31,967	S	+9.02	72.16%	S	+4.09	9.99%	S	C	S
北海道	S	+352	1,430	S	+15.80	79.18%	S	+5.73	6.81%	S	C	S
東北	A	+187	2,345	S	+5.38	69.53%	S	+3.22	8.81%	S	C	A
関東	S	+1,266	11,077	S	+12.86	74.41%	S	+9.74	17.96%	S	C	S
信越	S	+189	1,396	S	+8.46	72.69%	S	+3.79	11.46%	S	C	S
北陸	S	+94	963	S	+10.19	77.46%	S	+5.21	15.15%	S	C	S
東海	S	+459	3,917	S	+12.30	78.44%	S	+5.78	16.76%	S	C	S
近畿	A	+302	5,706	S	+8.41	75.22%	S	+4.49	13.16%	S	C	A
中国	A	+21	1,519	A	+0.16	60.29%	A	+0.10	6.60%	A	C	A
四国	A	+15	708	S	+1.07	61.57%	A	+0.24	6.74%	S	C	A
九州	A	+37	2,623	A	+0.63	60.49%	A	+0.35	6.65%	A	C	A
沖縄	A	-2	283	S	+1.14	62.07%	S	+1.24	12.91%	S	C	A

○（参考）令和５年度　評価

R５実績評価【4G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+6,016	29,047	C	63.14%	C	59.0%	5.90%	B	B	C
北海道	B	+259	1,078	C	63.38%	C	56.8%	1.08%	B	B	C
東北	B	+566	2,158	C	64.15%	C	47.8%	5.59%	B	B	C
関東	B	+1,015	9,811	C	61.55%	C	53.0%	8.22%	B	B	C
信越	B	+438	1,207	C	64.23%	C	59.9%	7.67%	B	B	C
北陸	B	+326	869	C	67.27%	C	59.5%	9.94%	B	B	C
東海	B	+1,119	3,458	C	66.14%	B	71.8%	10.98%	B	B	C
近畿	B	+1,532	5,404	C	66.81%	C	69.4%	8.67%	B	B	C
中国	B	+261	1,498	C	60.13%	C	57.5%	6.50%	B	B	C
四国	B	+39	693	C	60.50%	C	64.4%	6.50%	B	B	C
九州	B	+380	2,586	C	59.86%	C	61.8%	6.30%	B	B	C
沖縄	B	+81	285	C	60.93%	B	73.9%	11.67%	B	B	C

R５進捗評価【4G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	-229	29,047	S	+1.07	63.14%	A	-0.02	5.90%	S	C	S
北海道	A	-5	1,078	S	+2.03	63.38%	A	+0.02	1.08%	S	B	A
東北	A	+22	2,158	S	+1.97	64.15%	A	+0.13	5.59%	S	C	S
関東	A	+110	9,811	S	+1.22	61.55%	A	±0.00	8.22%	S	C	S
信越	A	-21	1,207	A	+0.67	64.23%	A	-0.29	7.67%	A	B	S
北陸	A	-8	869	S	+1.70	67.27%	A	+0.16	9.94%	S	C	A
東海	A	+34	3,458	S	+1.87	66.14%	A	+0.26	10.98%	S	C	A
近畿	A	+2	5,404	A	+0.86	66.81%	A	+0.07	8.67%	A	C	A
中国	A	-6	1,498	S	+2.49	60.13%	A	+0.18	6.50%	S	C	A
四国	A	+3	693	S	+1.65	60.50%	A	+0.09	6.50%	S	C	S
九州	B	-355	2,586	B	-1.92	59.86%	A	-0.67	6.30%	B	C	B
沖縄	A	-5	285	A	+0.09	60.93%	A	+0.02	11.67%	A	C	A

ソフトバンク　Ｓ９　３．４ＧＨｚ帯・面積カバー率

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 S9	3.4GHz帯 ・ 面積カバー率	3.4GHz帯（4G+5G）において、沖縄の面積カバー率が前年度未満となっている。この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 認定の有効期間中であるが、沖縄の面積カバー率が前年度未満となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価（暫定）※認定の有効期間中の評価基準の改定「後」

Ｒ６実績評価（暫定）【4G+5G】

	基地局数			人口カバー率			評価	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	計画値差	実績値			
全国	S	+6,969	30,136	S	+21.38	81.71%	S	S	S
北海道	S	+261	1,102	S	+23.32	83.32%	S	S	S
東北	S	+518	1,746	S	+17.45	72.29%	S	S	S
関東	S	+2,845	11,537	S	+20.38	83.07%	S	S	S
信越	S	+237	955	S	+22.58	78.05%	S	S	S
北陸	S	+173	645	S	+25.64	84.00%	S	S	S
東海	S	+459	3,114	S	+22.40	80.02%	S	S	S
近畿	S	+1,314	4,983	S	+25.51	88.92%	S	S	S
中国	S	+358	1,908	S	+14.58	72.24%	S	S	S
四国	S	+210	753	S	+17.26	71.94%	S	S	S
九州	S	+497	3,145	S	+20.78	81.35%	S	S	S
沖縄	S	+97	248	S	+33.10	86.76%	S	S	S

Ｒ６進捗評価（暫定）【4G+5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		
全国	S	+4,090	30,136	A	+4.01	81.71%	A	+1.17	14.87%	S	S
北海道	S	+212	1,102	S	+6.96	83.32%	B	+0.82	9.24%	S	S
東北	S	+320	1,746	A	+3.38	72.29%	B	+0.85	11.18%	A	S
関東	S	+1,147	11,537	A	+4.31	83.07%	A	+2.46	25.48%	S	S
信越	S	+141	955	A	+1.81	78.05%	B	+0.62	14.21%	A	S
北陸	S	+84	645	B	+0.92	84.00%	B	+0.50	18.72%	A	S
東海	A	+326	3,114	A	+3.79	80.02%	A	+1.56	19.95%	A	S
近畿	S	+1,052	4,983	S	+5.42	88.92%	A	+2.35	21.53%	S	S
中国	S	+221	1,908	A	+1.36	72.24%	B	+0.58	12.41%	A	S
四国	S	+158	753	A	+3.54	71.94%	B	+0.90	10.34%	A	S
九州	S	+362	3,145	A	+3.57	81.35%	A	+1.49	18.28%	S	S
沖縄	S	+67	248	A	+1.32	86.76%	C	-0.21	33.65%	C	S

○（参考）令和５年度　評価　※認定の有効期間中の評価基準の改定「前」

Ｒ５実績評価【4G+5G】

	基地局数		人口カバー率		面積カバー率		評価	技術導入率	総合的な評価
	平均比	実績値	平均比	実績値	平均比	実績値			
全国	142.8%	26,046	109.4%	77.70%	131.7%	13.70%	S	S	S
北海道	160.9%	890	107.5%	76.36%	168.4%	8.42%	S	S	S
東北	157.2%	1,426	104.9%	68.91%	117.4%	10.33%	S	S	S
関東	138.1%	10,390	109.5%	78.76%	137.8%	23.02%	S	S	S
信越	144.3%	814	110.8%	76.24%	121.3%	13.59%	S	S	S
北陸	161.2%	561	115.1%	83.08%	125.7%	18.22%	S	S	S
東海	146.3%	2,788	108.6%	76.23%	110.1%	18.39%	S	S	S
近畿	137.4%	3,931	113.5%	83.50%	147.5%	19.18%	S	S	S
中国	170.4%	1,687	107.1%	70.88%	123.2%	11.83%	S	S	S
四国	127.4%	595	101.9%	68.40%	104.9%	9.44%	A	S	S
九州	140.0%	2,783	108.8%	77.78%	136.5%	16.79%	S	S	S
沖縄	131.2%	181	113.6%	85.44%	159.7%	33.86%	S	S	S

Ｒ５進捗評価【4G+5G】

	基地局数			人口カバー率			総合的な評価	技術導入状況
	評価	計画値差	実績値	評価	計画値差	実績値		
全国	A	+2,879	26,046	S	+17.40	77.70%	S	S
北海道	A	+49	890	S	+16.36	76.36%	S	S
東北	A	+198	1,426	S	+14.11	68.91%	S	S
関東	S	+1,698	10,390	S	+16.06	78.76%	S	S
信越	A	+96	814	S	+20.74	76.24%	S	S
北陸	S	+89	561	S	+24.68	83.08%	S	S
東海	A	+133	2,788	S	+18.63	76.23%	S	S
近畿	A	+262	3,931	S	+20.10	83.50%	S	S
中国	A	+137	1,687	S	+13.18	70.88%	S	S
四国	A	+52	595	S	+13.70	68.40%	S	S
九州	A	+135	2,783	S	+17.18	77.78%	S	S
沖縄	A	+30	181	S	+31.74	85.44%	S	S

ソフトバンク　S10　3．7GHz帯・基盤展開率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由*（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
定量S10	3.7GHz帯・基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、全国・北海道・東北・北陸・四国・九州・沖縄の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 全国・北海道・東北・北陸・四国・九州・沖縄の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

R６実績評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数			基盤展開率		通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値			
全国	B	+2,735	10,090	C	65.38%	B	S	C
北海道	B	±394	1,013	C	51.38%	B	S	C
東北	B	±510	1,320	C	67.39%	B	S	C
関東	B	±476	1,243	B	81.22%	B	S	B
信越	B	±80	480	B	71.58%	B	S	B
北陸	B	±165	497	C	68.18%	B	S	C
東海	B	±196	1,040	B	77.64%	B	S	B
近畿	B	±399	1,348	B	81.13%	B	S	B
中国	B	±256	1,069	B	70.31%	B	S	B
四国	B	+92	524	C	54.58%	B	S	C
九州	B	±157	1,493	C	58.55%	B	S	C
沖縄	B	+10	63	C	52.75%	B	S	C

R６進捗評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	基盤展開率(※1)			通信量	技術導入状況(※2)
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		評価	前年度差	実績値		
全国	S	+3,967	10,090	S	+11.50	43.27%	A	+4.73	12.01%	S	-	-	65.38%	B	S
北海道	S	+442	1,013	S	+11.29	73.79%	S	+5.32	11.09%	S	-	-	51.38%	B	S
東北	S	+531	1,320	S	+11.24	64.30%	A	+3.96	11.95%	S	-	-	67.39%	B	S
関東	A	+420	1,243	S	+6.32	18.55%	A	+4.76	9.64%	S	-	-	81.22%	B	S
信越	S	+236	480	S	+17.97	62.29%	A	+4.53	12.53%	S	-	-	71.58%	B	S
北陸	S	+146	497	S	+10.84	75.62%	A	+4.97	17.75%	S	-	-	68.18%	B	S
東海	S	+467	1,040	S	+14.92	37.70%	S	+5.25	11.45%	S	-	-	77.64%	B	S
近畿	S	+576	1,348	S	+17.71	54.51%	S	+5.86	15.45%	S	-	-	81.13%	B	S
中国	S	+309	1,069	S	+7.11	61.84%	A	+2.87	10.60%	S	-	-	70.31%	B	S
四国	S	+197	524	S	+13.43	69.19%	A	+3.23	11.01%	S	-	-	54.58%	B	S
九州	S	+593	1,493	S	+16.24	63.14%	S	+5.34	13.83%	S	-	-	58.55%	B	S
沖縄	S	+50	63	S	+7.01	9.27%	S	+11.11	11.48%	S	-	-	52.75%	B	S

ソフトバンク　S11　２８ＧＨｚ帯・基地局数

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 S11	28GHz帯 ・ 基地局数	28GHz帯（5G）について、全国・北海道・関東・北陸・東海・中国・四国・九州の基地局数が周波数帯平均値の70%を下回っている。この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 全国・北海道・関東・北陸・東海・中国・四国・九州において、基地局数が周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっており、これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

Ｒ６実績評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数				通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	平均比	計画値差	実績値			
全国	C	68.06%	+2,552	6,407	B	A	C
北海道	C	64.09%	+97	573	B	S	C
東北	B	78.21%	+198	700	B	S	B
関東	C	50.41%	+580	1,527	B	S	C
信越	B	71.54%	+67	269	B	S	B
北陸	C	69.78%	+41	157	B	S	C
東海	C	68.95%	+291	604	B	S	C
近畿	A	104.45%	+958	1,384	B	A	A
中国	C	69.33%	+93	373	B	B	C
四国	C	62.38%	+57	199	B	B	C
九州	C	61.39%	+112	512	B	B	C
沖縄	A	104.81%	+58	109	B	B	A

Ｒ６進捗評価<認定の有効期間満了後>（暫定）【5G】

	基地局数			通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値		
全国	A	+2,463	6,407	B	S
北海道	S	+368	573	B	S
東北	S	+358	700	B	S
関東	A	+374	1,527	B	S
信越	S	+164	269	B	S
北陸	S	+86	157	B	S
東海	A	+209	604	B	S
近畿	A	+297	1,384	B	S
中国	S	+183	373	B	S
四国	S	+101	199	B	S
九州	A	+275	512	C	S
沖縄	S	+48	109	B	S

ソフトバンク　S12　３G移行計画（その１）

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
移行S12	900MHz帯 2GHz帯 ・ 3G移行計画	3G移行計画（900MHz帯・2GHz帯）に係る主に以下の点について、御社の考え方をご説明ください。 ・移行する周波数 ・移行先通信規格、その理由 ・基地局数、人口カバー率、面積カバー率の目標値、その理由 ・移行方法、その理由	【R６新規】 3G移行計画の詳細を聴取する。なお、有効利用評価方針における評価基準※に基づくと、3Gサービス終了（石川県以外は令和６年４月15日、石川県は令和６年7月31日）から５年以内（石川県以外は令和11年4月14日、石川県は令和11年7月30日）には、人口カバー率が、900MHz帯は80%以上、2GHz帯は50%以上となる必要があるが、いずれの周波数帯も前倒しで達成する計画である。 ※有効利用評価方針（抜粋） 電波法の免許の有効期間が５年であり、再免許が保障されていないことを勘案し、移行する周波数に係る人口カバー率について、別紙１に示す最も低い人口カバー率の評価の基準を超えるために要する期間は、変更前の通信規格の利用を終了した時点から５年以内として評価を行うものする。ただし、特段の事情がある場合は、これを考慮するものとする。	－

○令和６年度調査結果【3G移行計画・900MHz帯】

900MHz（ソフトバンク）		
移行する周波数		945MHz～950MHz
移行先通信規格		４G
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率96%以上
移行計画の最終年度の計画値	基地局数 (R10年度末)	35,100局
	人口カバー率 (R10年度末)	96.88%
	面積カバー率 (R10年度末)	56.88%

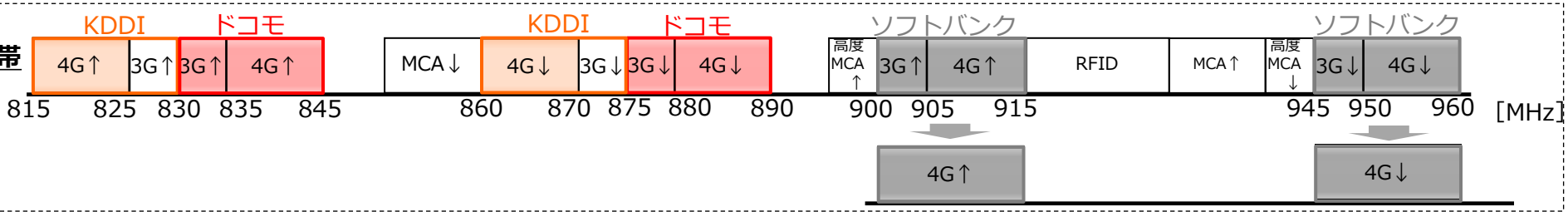
3Gサービス終了（石川県以外は令和６年４月15日、石川県は令和６年7月31日）から５年後

【人口カバー率（900MHz帯）】

区域	ソフトバンク 令和6年度末 (2024年度末)	令和7年度末 (2025年度末)	令和8年度末 (2026年度末)	令和9年度末 (2027年度末)	令和10年度末 (2028年度末)
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				96.88%[+16.88]
北海道					97.56%[+17.56]
東北					96.05%[+16.05]
関東					97.72%[+17.72]
信越					94.83%[+14.83]
北陸					97.16%[+17.16]
東海					96.60%[+16.60]
近畿					97.35%[+17.35]
中国					94.04%[+14.04]
四国					92.31%[+12.31]
九州					97.19%[+17.19]
沖縄					97.99%[+17.99]

※赤字は80%以上　※[〇]は最も低い人口カバー率の評価基準（80%）との比較

800/900MHz帯



ソフトバンク　S12　３G移行計画（その２）

○令和６年度調査結果【3G移行計画・2GHz帯】

2GHz（ソフトバンク）		
移行する周波数		2165MHz～2170MHz
移行先通信規格		４G
移行計画の目標		令和10年度までに 人口カバー率95%以上
計画の値	移行計画最終年度	
	基地局数 (R10年度末)	38,000局
	人口カバー率 (R10年度末)	95.03%
	面積カバー率 (R10年度末)	27.69%

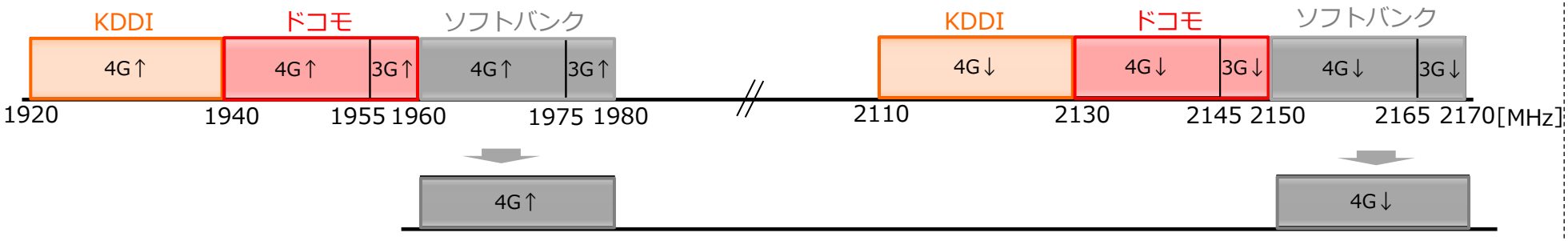
3Gサービス終了（石川県以外は令和６年４月15日、石川県は令和６年7月31日）から５年後

【人口カバー率（2GHz帯）】

ソフトバンク					
区域	令和6年度末 (2024年度末)	令和7年度末 (2025年度末)	令和8年度末 (2026年度末)	令和9年度末 (2027年度末)	令和10年度末 (2028年度末)
全国	【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】				95.03%[+45.03]
北海道					91.07%[+41.07]
東北					88.82%[+38.82]
関東					98.36%[+48.36]
信越					90.05%[+40.05]
北陸					93.33%[+43.33]
東海					97.12%[+47.12]
近畿					97.12%[+47.12]
中国					87.23%[+37.23]
四国					88.70%[+38.70]
九州					91.81%[+41.81]
沖縄					94.58%[+44.58]

※赤字は50%以上　※[〇]は最も低い人口カバー率の評価基準（50%）との比較

2GHz帯



目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

楽天モバイルに対するヒアリング項目案（一覧）

＊ ・・・【R6新規】:本年度の新たな項目
・・・【R5と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【R5から改善】：昨年度から一部で改善

■楽天モバイル：計3問

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）R５評価概要
○通信量				
定量R1	28GHz帯・通信量	28GHz帯（5G）について、東北において、１日の間トラヒックがなかった県が確認された。 この要因及び今後の改善方針を教えてください。	【R６新規】 東北において、１日の間トラヒックがなかった県（実績評価：D評価に該当）が確認された。 この要因及び今後の改善方針について確認する。	－
定量R2	28GHz帯・通信量	28GHz帯（5G）について、東北・北陸の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。 また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない地域が存在する（例：信越の基地局数は1.5倍に対し、通信量は1.2倍）。 これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください	【R６新規】 東北・北陸における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 また、ミリ波（28GHz帯）については、基地局数の増加数に比較し、通信量は相当に増加していない（例：信越の基地局数は1.5倍に対し、通信量は1.2倍）地域がある要因も併せて確認する。	－
○通信量以外				
定量R3	3.7GHz帯・基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、全国・全ての総通の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【R６新規】 全国・全ての総通の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

楽天モバイルに対するヒアリング項目案
（詳細）

楽天モバイル　Ｒ１　２８ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量Ｒ１	28GHz帯 ・ 通信量	28GHz帯（5G）について、東北において、１日の間トラヒックがなかった県が確認された。 この要因及び今後の改善方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 東北において、１日の間トラヒックがなかった県（実績評価：**Ｄ評価**に該当）が確認された。 この要因及び今後の改善方針について確認する。	－

○令和６年度調査結果　２８GHz帯　通信量

総合通信局における各都道府県の毎日のトラヒックの有無

	ドコモ	KDDI/沖セル	ソフトバンク	楽天モバイル
北海道	○	○	○	○
東北	○	○	○	×
関東	○	○	○	○
信越	○	○	○	○
北陸	○	○	○	○
東海	○	○	○	○
近畿	○	○	○	○
中国	○	○	○	○
四国	○	○	○	○
九州	○	○	○	○
沖縄	○	○	○	○

（参考）
１日の間トラヒックがなかった県（実績評価：**Ｄ評価**に該当）の詳細

【電波監理審議会決定第2号に基づき、非公表】

○令和６年度　評価　＜認定の有効期間満了後＞（暫定）

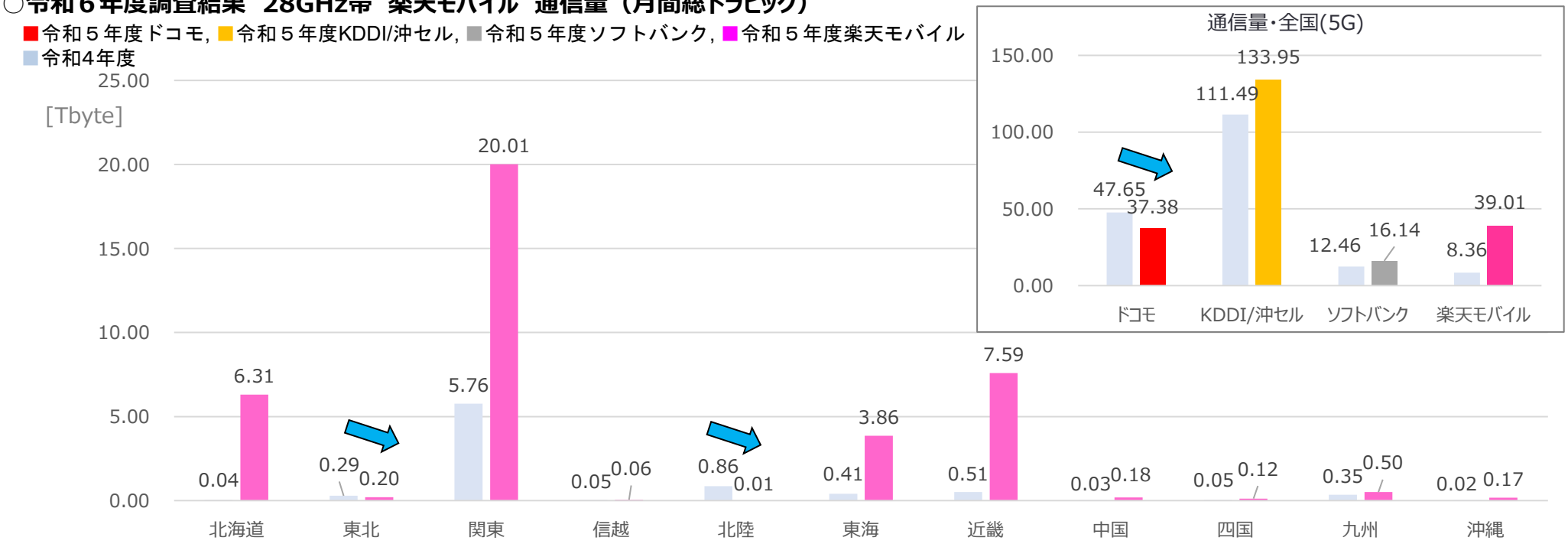
Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5Ｇ】

	基地局数				通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	平均比	計画値差	実績値			
全国	S	141.70%	+5,392	13,340	D	B	D
北海道	B	86.80%	+306	776	B	B	B
東北	B	81.56%	+311	730	D	B	D
関東	S	204.29%	+1,769	6,188	B	B	S
信越	B	89.36%	+177	336	B	B	B
北陸	A	94.67%	+125	213	B	B	A
東海	S	154.34%	+704	1,352	B	B	S
近畿	S	130.57%	+753	1,730	B	B	S
中国	A	101.67%	+326	547	B	B	A
四国	A	107.52%	+199	343	B	B	A
九州	S	115.35%	+611	962	B	B	S
沖縄	S	156.73%	+111	163	B	B	S

楽天モバイル　Ｒ２　２８ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 R2	28GHz帯 ・ 通信量	28GHz帯（5G）について、東北・北陸の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない地域が存在する（例：信越の基地局数は1.5倍に対し、通信量は1.2倍）。これらの要因及び今後の通信量の増減見通しを教えてください。	【Ｒ６新規】 東北・北陸の通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっている。また、基地局数の増加数に対し、通信量は相当に増加していない地域が存在する（例：信越の基地局数は1.5倍に対し、通信量は1.2倍）。これら要因及び今後の通信量増減見通しについて確認する。	－

○令和６年度調査結果　28GHz帯　楽天モバイル　通信量（月間総トラヒック）



○令和６年度調査結果　28GHz帯　ドコモ　基地局数・屋外と通信量（月間総トラヒック）の増減比較

	全国			北海道			東北			関東			信越			北陸		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	9,254	13,340	1.44 倍	555	776	1.40 倍	556	730	1.31 倍	3,974	6,188	1.56 倍	225	336	1.49 倍	155	213	1.37 倍
通信量[Tbyte]	8.36	39.01	4.66 倍	0.04	6.31	153.8 倍	0.29	0.20	0.70 倍	5.76	20.01	3.47 倍	0.05	0.06	1.20 倍	0.86	0.01	0.02 倍

	東海			近畿			中国			四国			九州			沖縄		
	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減	R5.3	R6.3	増減
基地局数[局]	1,034	1,352	1.31 倍	1,269	1,730	1.36 倍	356	547	1.54 倍	242	343	1.42 倍	761	962	1.26 倍	127	163	1.28 倍
通信量[Tbyte]	0.41	3.86	9.44 倍	0.51	7.59	15.02 倍	0.03	0.18	6.48 倍	0.05	0.12	2.48 倍	0.35	0.50	1.43 倍	0.02	0.17	8.00 倍

楽天モバイル　Ｒ３　３．７ＧＨｚ帯・基盤展開率

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 Ｒ３	3.7GHz帯 ・ 基盤展開率	3.7GHz帯（5G）について、全国・全ての総通の基盤展開率が50%以上70%未満となっている。 この要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 全国・全ての総通の基盤展開率の実績値が50%以上70%未満（実績評価：C評価に該当）となっており、この要因及び今後の展開方針について確認する。	－

○令和６年度　評価　<認定の有効期間満了後>（暫定）

Ｒ６実績評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数			基盤展開率		通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値			
全国	B	+1,296	17,083	C	57.57%	B	B	C
北海道	B	+136	954	C	51.71%	B	B	C
東北	B	+72	894	C	57.41%	B	B	C
関東	B	+325	7,339	C	62.93%	B	B	C
信越	B	+65	403	C	55.40%	B	B	C
北陸	B	+36	261	C	58.17%	B	B	C
東海	B	+132	1,829	C	63.35%	B	B	C
近畿	B	+187	2,592	C	60.26%	B	B	C
中国	B	+119	685	C	60.16%	B	B	C
四国	B	+87	443	C	58.57%	B	B	C
九州	B	+113	1,441	C	58.06%	B	B	C
沖縄	B	+24	242	C	52.75%	B	B	C

Ｒ６進捗評価＜認定の有効期間満了後＞（暫定）【5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	基盤展開率(※1)			通信量	技術導入状況(※2)
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値		評価	前年度差	実績値		
全国	S	+7,322	17,083	S	+20.09	50.59%	A	+2.73	7.34%	S	-	-	57.57%	B	S
北海道	S	+367	954	S	+17.85	54.63%	A	+1.66	5.34%	S	-	-	51.71%	B	S
東北	S	+307	894	S	+8.53	32.49%	A	+1.63	5.87%	S	-	-	57.41%	B	S
関東	S	+3,275	7,339	S	+23.19	50.67%	A	+4.78	9.66%	S	-	-	62.93%	B	S
信越	S	+155	403	S	+9.33	35.39%	A	+2.10	7.37%	S	-	-	55.40%	B	S
北陸	S	+104	261	S	+9.88	32.55%	A	+2.68	8.55%	S	-	-	58.17%	B	S
東海	S	+783	1,829	S	+33.93	52.19%	S	+6.40	10.51%	S	-	-	63.35%	B	S
近畿	S	+1,115	2,592	S	+20.46	76.79%	A	+4.63	14.60%	S	-	-	60.26%	B	S
中国	S	+319	685	S	+11.19	30.87%	A	+1.80	4.32%	S	-	-	60.16%	B	S
四国	S	+194	443	S	+13.93	34.38%	A	+2.45	5.56%	S	-	-	58.57%	B	S
九州	S	+602	1,441	S	+15.71	45.73%	A	+2.55	7.85%	S	-	-	58.06%	B	S
沖縄	S	+101	242	S	+5.11	17.67%	A	+3.45	10.41%	S	-	-	52.75%	B	S

目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

UQコミュニケーションズに対するヒアリング項目案（一覧）

＊ ・・・【Ｒ6新規】:本年度の新たな項目
・・・【Ｒ5と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【Ｒ5から改善】：昨年度から一部で改善

■ＵＱコミュニケーションズ：計１問

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
○通信量				
定量 Ｕ1	2.5GHz帯 ・ 通信量	2.5GHz帯（BWA+5G）について、北海道・東北・信越・北陸・東海・中国・四国・九州・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和5年度は全国及び全ての総通であった。 この要因と今後の増減見込みを教えてください。 また、全国・関東・近畿の通信量が前年度より増加した要因を教えてください。	【Ｒ５から改善】 北海道・東北・信越・北陸・東海・中国・四国・九州・沖縄における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 また、全国・関東・近畿の通信量が前年度より増加した要因について確認する。	全国及び全ての地域における通信量が前年度を下回っている。同社によれば、BWA（4G）ルータ数の減少と5G化に伴う自社グループの4G周波数帯の利用の影響とし、数年後には通信量は回復予定としているが、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。

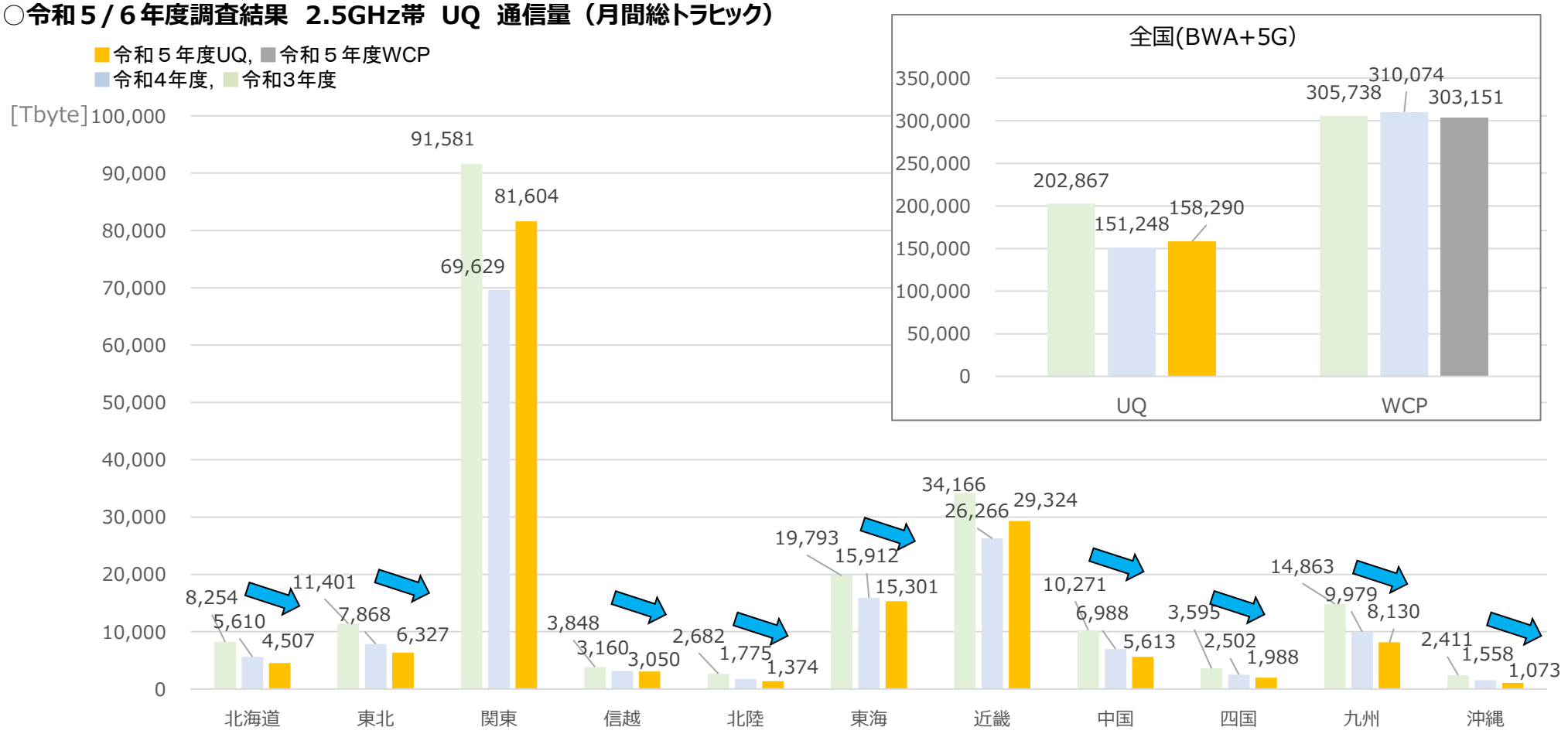
※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

UQコミュニケーションズに対するヒアリング項目案
（詳細）

UQコミュニケーションズ　U３　２．５ＧＨｚ帯・通信量

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量U1	2.5GHz帯 ・ 通信量	2.5GHz帯（BWA+5G）について、北海道・東北・信越・北陸・東海・中国・四国・九州・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和5年度は全国及び全ての総通であった。 この要因と今後の増減見込みを教えてください。 また、全国・関東・近畿の通信量が前年度より増加した要因を教えてください。	【Ｒ５から改善】 北海道・東北・信越・北陸・東海・中国・四国・九州・沖縄における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。 また、全国・関東・近畿の通信量が前年度より増加した要因について確認する。	全国及び全ての地域における通信量が前年度を下回っている。同社によれば、BWA（4G）ルータ数の減少と5G化に伴う自社グループの4G周波数帯の利用の影響とし、数年後には通信量は回復予定としているが、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。

○令和５/６年度調査結果　2.5GHz帯　UQ　通信量（月間総トラヒック）



目次

1. 全体概要

ヒアリングの全体概要 4
令和6年度の主なポイント 5

2. ヒアリング項目（共通）

各社共通 11

3. ヒアリング項目（定量評価（移行計画含む））

NTTドコモ 20
KDDI／沖縄セルラー電話 35
ソフトバンク 49
楽天モバイル 66
UQコミュニケーションズ 72
Wireless City Planning 76

Wireless City Planningに対するヒアリング項目案（一覧）

＊ ・・・【Ｒ6新規】:本年度の新たな項目
・・・【Ｒ5と同様】：昨年度と同様な項目
・・・【Ｒ5から改善】：昨年度から一部で改善

■Wireless City Planning：計３問

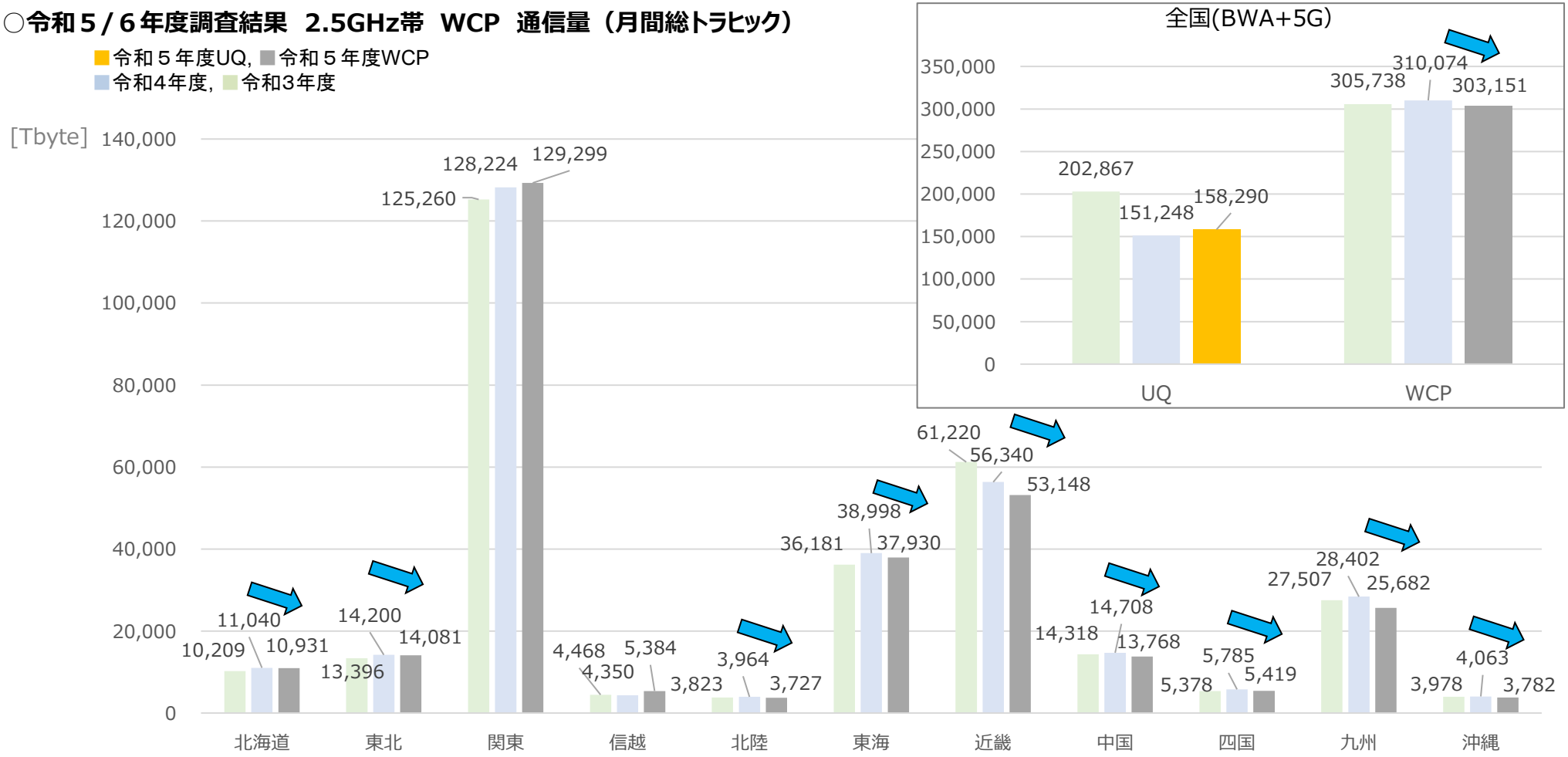
No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
○通信量				
定量 W1	2.5GHz帯 ・ 通信量	2.5GHz帯（BWA+5G）について、全国・北海道・東北・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和5年度は、信越・近畿であった。この要因と今後の増減見込みを教えてください。	【Ｒ5と同様】 全国・北海道・東北・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	信越及び近畿における通信量が前年度実績を下回っている。同社によれば、5G対応端末の普及によるものとし、今後、自社グループの5G化の進捗により増加すると考えられるとしているが、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。
○通信量以外				
定量 W2	2.5GHz帯 ・ 面積カバー率	2.5GHz帯（BWA+5G）について、全国・全ての総通局の面積カバー率が、周波数帯平均値の70%を下回っている。全国・北海道・信越・東海・九州・沖縄の面積カバー率は、前年度から減少している。これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ5と同様】 全国・全ての総通局の面積カバー率が、昨年度と同様、周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっている。また、全国・北海道・信越・東海・九州・沖縄においては、面積カバー率が前年度から減少している。これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	面積カバー率は全国及び全ての地域で他社に比べて低い。同社によれば、トラヒック需要の変化に合わせて最適化を実施しているためとし、今後、トラヒックの需要の変化に合わせて拡大を検討していくとしているが、電波の更なる有効利用に向け面積カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。
定量 W3	2.5GHz帯 ・ 全般	2.5GHz帯（5G）の基地局数は、4局（前年度から＋1局）となっている。高度化BWAから５Ｇへのマイグレーション方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 5Gの基地局数が、前年度から＋1局の４局となっている。局数の伸びが少ないと考えられるところ、高度化BWAから５Ｇへのマイグレーション方針を確認する。	－

※御回答にあたっては、文章にて御回答いただくとともに、可能な範囲で、パワーポイントにて、概要が分かる図等をお示しください。

Wireless City Planningに対するヒアリング項目案
（詳細）

No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 W1	2.5GHz帯 ・ 通信量	2.5GHz帯（BWA+5G）について、全国・北海道・東北・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄の通信量（月間総トラヒック）が前年度より減少している。令和5年度は、信越・近畿であった。 この要因と今後の増減見込みを教えてください。	【Ｒ5と同様】 全国・北海道・東北・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄における通信量が、前年度実績値未満（進捗評価：Ｃ評価に該当）となっており、この要因及び今後の増減見通しについて確認する。	信越及び近畿における通信量が前年度実績を下回っている。同社によれば、5G対応端末の普及によるものとし、今後、自社グループの5G化の進捗により増加すると考えられるとしているが、今後更なる通信量の増加が予想されることから、電波の有効利用に向け引き続き努力するべきである。

○令和５/６年度調査結果　2.5GHz帯　WCP　通信量（月間総トラヒック）



No	周波数帯・項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 W2	2.5GHz帯 ・ 面積カバー率	2.5GHz帯（BWA+5G）について、全国・全ての総通局の面積カバー率が、周波数帯平均値の70%を下回っている。 全国・北海道・信越・東海・九州・沖縄の面積カバー率は、前年度から減少している。 これらの要因及び今後の展開方針を教えてください。	【Ｒ５と同様】 全国・全ての総通局の面積カバー率が、昨年度と同様、周波数帯平均値の70%未満（実績評価：Ｃ評価に該当）となっている。 また、全国・北海道・信越・東海・九州・沖縄においては、面積カバー率が前年度から減少している。 これらの要因及び今後の展開方針について確認する。	面積カバー率は全国及び全ての地域で他社に比べて低い。同社によれば、トラヒック需要の変化に合わせて最適化を実施しているためとし、今後、トラヒックの需要の変化に合わせて拡大を検討していくとしているが、電波の更なる有効利用に向け面積カバー率の拡大について引き続き努力するべきである。

○令和６年度　評価（暫定）

Ｒ６実績評価（暫定）【BWA＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+53,266	65,959	B	87.57%	C	52.06%	13.63%	B	A	B
北海道	B	+2,058	2,540	B	82.50%	C	39.91%	3.50%	B	B	B
東北	B	+3,045	3,972	B	72.45%	C	43.80%	9.40%	B	B	B
関東	B	+21,058	25,304	A	94.21%	C	65.54%	33.66%	B	A	A
信越	B	+1,231	1,668	B	72.12%	C	43.69%	10.83%	B	B	B
北陸	B	+1,117	1,444	B	81.09%	C	64.31%	15.93%	B	B	B
東海	B	+6,263	7,846	B	88.89%	C	62.06%	21.56%	B	B	B
近畿	B	+9,209	11,322	A	93.67%	C	64.83%	23.21%	B	B	A
中国	B	+2,761	3,530	B	78.96%	C	36.21%	12.54%	B	B	B
四国	B	+1,401	1,833	B	77.39%	C	50.86%	12.48%	B	B	B
九州	B	+4,521	5,777	B	79.68%	C	46.73%	15.37%	B	B	B
沖縄	B	+602	723	B	88.96%	C	65.23%	25.42%	B	B	B

Ｒ６進捗評価（暫定）【BWA＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	+72	65,959	A	±0.00	87.57%	A	-0.01	13.63%	A	C	A
北海道	A	-27	2,540	A	-0.10	82.50%	A	-0.02	3.50%	A	C	A
東北	A	+10	3,972	A	+0.04	72.45%	A	±0.00	9.40%	A	C	S
関東	A	+4	25,304	A	+0.02	94.21%	A	+0.05	33.66%	A	B	A
信越	A	-5	1,668	A	-0.45	72.12%	A	-0.09	10.83%	A	B	A
北陸	A	+31	1,444	A	+0.39	81.09%	A	+0.11	15.93%	A	C	S
東海	A	+8	7,846	A	-0.07	88.89%	A	-0.06	21.56%	A	C	A
近畿	A	+9	11,322	A	-0.01	93.67%	A	+0.01	23.21%	A	C	A
中国	A	+27	3,530	A	+0.17	78.96%	A	+0.05	12.54%	A	C	S
四国	A	+27	1,833	A	+0.12	77.39%	A	+0.05	12.48%	A	C	S
九州	A	-12	5,777	A	-0.05	79.68%	A	-0.13	15.37%	A	C	A
沖縄	A	±0	723	A	-0.08	88.96%	A	-0.13	25.42%	A	C	A

○（参考）令和５年度　評価

Ｒ５実績評価【BWA＋5G】

	基地局数			人口カバー率		面積カバー率			通信量	技術導入状況	総合的な評価
	評価	計画値差	実績値	評価	実績値	評価	平均比	実績値			
全国	B	+53,194	65,887	B	87.57%	C	52.1%	13.64%	B	B	B
北海道	B	+2,085	2,567	B	82.60%	C	40.0%	3.52%	B	B	B
東北	B	+3,035	3,962	B	72.41%	C	43.9%	9.40%	B	B	B
関東	B	+21,054	25,300	A	94.19%	C	65.4%	33.61%	B	B	A
信越	B	+1,236	1,673	B	72.57%	C	44.0%	10.92%	B	B	B
北陸	B	+1,086	1,413	B	80.70%	C	64.0%	15.82%	B	B	B
東海	B	+6,255	7,838	B	88.96%	C	62.1%	21.62%	B	B	B
近畿	B	+9,200	11,313	A	93.68%	C	64.8%	23.20%	B	B	A
中国	B	+2,734	3,503	B	78.79%	C	36.1%	12.49%	B	B	B
四国	B	+1,374	1,806	B	77.27%	C	50.7%	12.43%	B	B	B
九州	B	+4,533	5,789	B	79.73%	C	47.0%	15.50%	B	B	B
沖縄	B	+602	723	B	89.04%	C	65.5%	25.55%	B	B	B

Ｒ５進捗評価【BWA＋5G】

	基地局数			人口カバー率			面積カバー率			総合的な評価	通信量	技術導入状況
	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値	評価	前年度差	実績値			
全国	A	-89	65,887	A	+0.80	87.57%	A	-0.05	13.64%	A	B	B
北海道	A	-9	2,567	S	+1.21	82.60%	A	±0.00	3.52%	S	B	S
東北	A	+18	3,962	S	+1.26	72.41%	A	-0.03	9.40%	S	B	A
関東	A	-52	25,300	A	+0.42	94.19%	A	-0.13	33.61%	A	B	B
信越	A	+2	1,673	A	+0.75	72.57%	A	-0.13	10.92%	A	C	A
北陸	A	+7	1,413	A	+0.93	80.70%	A	-0.07	15.82%	A	B	S
東海	A	+4	7,838	A	+0.56	88.96%	A	-0.04	21.62%	A	B	A
近畿	A	-27	11,313	A	+0.36	93.68%	A	-0.06	23.20%	A	C	B
中国	A	-1	3,503	A	+0.97	78.79%	A	-0.09	12.49%	A	B	A
四国	A	+4	1,806	S	+1.26	77.27%	A	-0.01	12.43%	S	B	A
九州	A	-29	5,789	S	+1.08	79.73%	A	-0.07	15.50%	S	B	S
沖縄	A	-6	723	A	+0.29	89.04%	A	-0.03	25.55%	A	B	A

No	周波数帯･項目	質問項目案	質問理由＊（送付時には「回答欄」とする）	（参考）Ｒ５評価概要
定量 W3	2.5GHz帯 ・ 全般	2.5GHz帯（5G）の基地局数は、4局（前年度から＋1局）となっている。 高度化BWAから５Ｇへのマイグレーション方針を教えてください。	【Ｒ６新規】 5Gの基地局数が、前年度から＋１局の４局となっている。 局数の伸びが少ないと考えられるところ、高度化BWAから５Ｇへのマイグレーション方針を確認する。	－

○令和６年度調査結果 【基地局数※1の調査結果（令和６年３月末時点※2）】

（○）：昨年度実績値との比較

	700MHz帯 FDD	800MHz帯 FDD	900MHz帯 FDD	1.5GHz帯 FDD	1.7GHz帯 FDD	2GHz帯 FDD	2.3GHz帯 TDD	2.5GHz帯 TDD	3.4GHz帯 TDD	3.5GHz帯 TDD	3.7GHz帯 TDD	4.0GHz帯 TDD	4.5GHz帯 TDD	28GHz帯 TDD	合計
docomo	5G 7,112 (+4,182) 4G 15,828 (-3,786)	4G 74,437 (+296) 3G 73,400 (-3)	—	4G 31,664 (+124)	4G 21,502 (+72) 東名阪のみ	5G 137 (+137) 4G 75,057 (-22) 3G 53,670 (-5,130)	—	—	5G 1,785 (+372) 4G 9,608 (+313)	5G 445 (+152) 4G 30,450 (-207)	5G 14,789 (+4,433)	—	5G 15,307 (+3,794)	5G 6,719 (+2,325)	5G 46,294 (+15,395) 4G 258,546 (-3,210) 3G 127,070 (-5,133)
au	5G 15,098 (+2,949) 4G 22,073 (-1,015)	4G 83,941 (+948)	—	4G 11,984 (+344)	5G 9,120 (+3,737) 4G 19,730 (+5,271)	4G 50,503 (+6)	5G 86 (+86)	—	—	5G 15,550 (+5,877) 4G 9,927 (-2,961)	5G 32,530 (+14,171)	5G 7,110 (+4,899)	—	5G 14,998 (+10,805)	5G 94,492 (+42,524) 4G 198,158 (+2,593)
UQ Communications	—	—	—	—	—	—	—	5G 2,713 (+2,146) 高度化BWA 44,391 (-97)	—	—	—	—	—	—	5G 2,713 (+2,146) 高度化BWA 44,391 (-97)
SoftBank	5G 17,208 (+2.466) 4G 5,158 (-958)	—	4G 63,316 (+1,169) 3G 38,445 (-38)	4G 10,960 (+225)	5G 17,478 (+3,595) 4G 22,486 (+2,554)	5G 3 (+3) 4G 47,982 (+1,838) 3G 71,903 (-822)	—	—	5G 30,224 (+4,177) 4G 45 (-3)	5G 3,070 (+3,070) 4G 30,040 (-171)	5G 10,562 (+4,104)	—	—	5G 6,816 (+2,580)	5G 85,361 (+19,995) 4G 179,987 (+4,654) 3G 110,348 (-860)
WIRELESS CITY PLANNING	—	—	—	—	—	—	—	5G 4 (+1) 高度化BWA 66,356 (+61)	—	—	—	—	—	—	5G 4 (+1) 高度化BWA 66,356 (+61)
Rakuten Mobile	4G 0 (-)	—	—	—	4G 65,763 (+5,996)	—	—	—	—	—	5G 18,977 (+7,924)	—	—	5G 15,232 (+4,692)	5G 34,209 (+12,616) 4G 65,763 (+5,996)
合計	5G 39,418 (+9,597) 4G 43,059 (-5,759)	4G 158,378 (+1,244) 3G 73,400 (-3)	4G 63,316 (+1,169) 3G 38,445 (-38)	4G 54,608 (+693)	5G 26,598 (+7,332) 4G 129,481 (+13,893)	5G 140 (+140) 4G 173,542 (+1,822) 3G 125,573 (-5,952)	5G 86 (+86)	5G 2,717 (+2,147) 高度化BWA 110,747 (-36)	5G 32,009 (+4,549) 4G 9,653 (+310)	5G 19,065 (+9,099) 4G 70,417 (-3,339)	5G 76,858 (+30,632)	5G 7,110 (+4,899)	5G 15,307 (+3,794)	5G 43,765 (+20,402)	5G 263,073 (+92,677) 4G 702,454 (+10,033) 高度化BWA 110,747 (-36) 3G 237,418 (-5,993)

※1 陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。　※2 3.7GHz帯、4.0GHz帯、4.5GHz帯及び28GHz帯については令和６年４月９日時点。